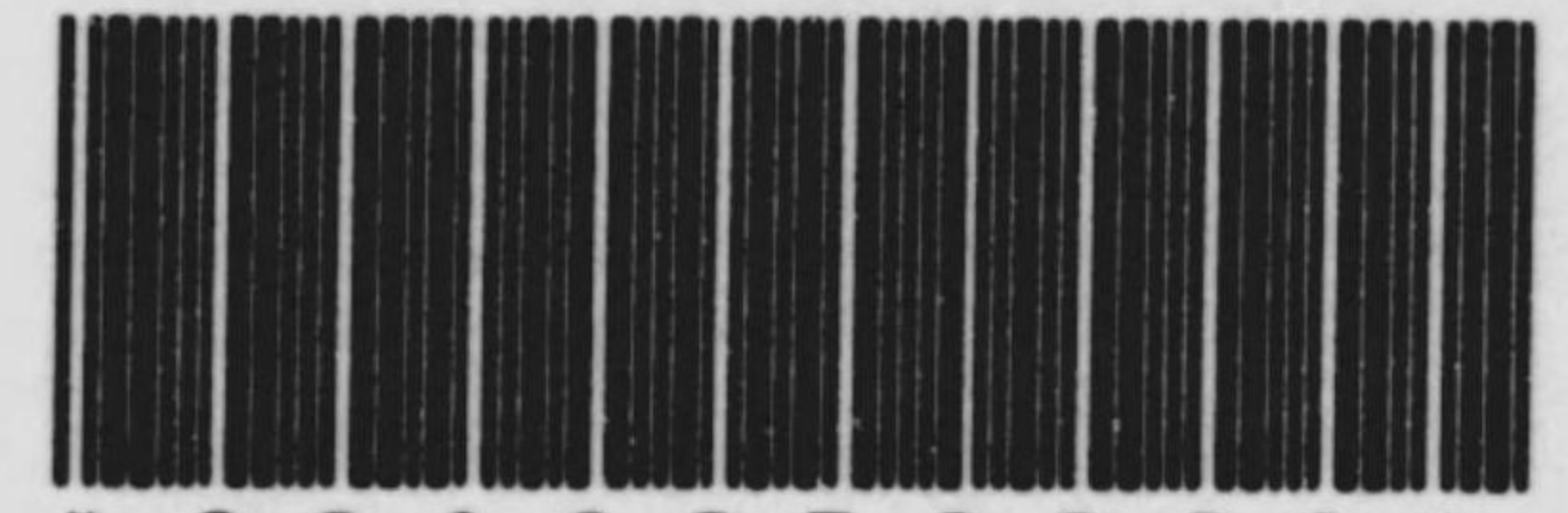


2



* 0016852000 *

0016852-000

特 2 1 1 - 7 0 3

捜査管話

橋本諒亮・著

野付牛区裁判所検事局

昭和9

ACH

この著作物は、著作権者不明のため、
第67条の規定に基づき、平成12年
付けで文化庁長官の裁定を受け使用する

347
591

波串橋本諒亮著

搜查管話

特211
703



檢事橋本諒亮著

管
話



捜査管話

緒言

第一篇 總論

- 一、捜査ハ先ヅ刑罰法規ヲ見テ如何ナル行爲ガ犯罪ナリヤヲ明ニスベシ……………一
- 二、科刑ノ目的ト犯罪豫防……………一
- 三、起訴猶豫ノ理由……………二
- 四、檢事ノ不起訴處分各場合……………三
- 五、捜査ノ意義……………四
- 六、捜査ノ方法……………四
- 七、捜査ノ秘密……………五
- 八、捜査記録……………聽取書及ビ事件ノ送致意見書等ニ付テ……………六
- 九、捜査ノ端緒、……………及警察官吏ノ心掛等……………三

十、職務關係法規ヲ熟知スベキコト……………現行犯トシテ取扱フベキ
各場合……………被疑者ヲ逮捕シ得ベキ各場合……………検事ノ勾引狀
ヲ發シ得ル各場合……………強制捜査……………一五

第二篇 一般各論……………一九

第一章 捜査ハ機敏ヲ要ス……………一九

第二章 犯罪ノ現場ノ保存及檢證等ニ付テ……………檢證
及ビ實況見分トハ如何……………足跡等ノ調査ニ付テ……………一九

第三章 捜査ハ緻密ヲ要ス……………二二

- 一、實例トシテ犯人不明放火事件ヲ示シ、其捜査方法ト犯人
ヲ發見シタル理由等ヲ述ブ……………二二
- 二、實例トシテ失火事件ヲ示シ、其取調方法ヲ評ス……………二四
- 三、放火事件等ノ取調方法……………二六
- 四、蓄音機騙取事件ノ取調方法ヲ示ス……………二八

五、再三ノ取調ノ結果……………三三

第四章 捜査ハ冷靜ニ客觀的ナルベシ……………三二

- 一、實例トシテ強盜事件ヲ示シ、害被者タル證人ノ誤レル證
言ヲ述ブ……………三三
- 二、實例トシテ犯人不明強盜傷人事件ヲ示シ如何ナル取調ニ
ヨリ、犯人ヲ發見シタルヤヲ説明ス……………三三

第五章 捜査ハ事件ノ大局ヨリモ觀察スヘシ……………三五

- 一、實例トシテノ無錢宿泊事件ヲ示シ其取調方法ヲ説明ス……………三七
- 二、實例トシテ、送致ノ蒲團注文詐欺被疑事件ヲ示シ、其辯
解ノ不信用ヲ示ス……………四〇
- 三、實例トシテ、病者ヲ健康者ト詐リ、前借金ヲ詐欺シタル
事件ヲ示シ、其取調方法ヲ説明ス……………四三
- 四、取立テタル金員ヲ費消セズトノ横領事件ノ取調方法ヲ
評ス……………四八

第六章 捜査ハ消極方面ヲモ爲スヘシ……………五〇

第七章 自白ニ就テ……………五一

- 一、自白ヲ爲サシムルヨリモ自ラ出ヅルヲ待ツベシ……………五一
 - 二、自白ニモ多少ノ虚偽アルコトアリ……………五三
 - 三、自白ハ後日、取消サル、コト多キヲ以テ證據ニヨリ支持シ得ベキ取調ヲ要ス……………五四
 - 四、自白ハ何人ニモ首肯シ得ベキ告白ニアラザレバ、眞ノ自白ニアラス。……………五五
- 實例トシテ、取調方精密ニアラザル爲メ、自白ノ信ジ得ザル失火事件ヲ示ス……………五八
- 過失致死事件同様ナルヲ示ス……………六〇
- 嬰兒殺事件ノ實例ヲ示ス、被疑者ハ嬰兒ヲ壓殺シ之ヲ熱湯ニ入レタル旨自白シ、嬰兒ニハ火傷現ハレ居タルモ後ニ否認シ、法醫學上、火傷ノ誤解ヨリ右自白ヲ疑ヒ右火傷ノ原因ヲ不明トシ、遂ニ無罪ノ判決アリシコトヲ示ス……………六〇

第八章 犯罪ノ原因動機……………六六

尙、自白スルモ其動機ニ付キ偽ノ陳述アル例ヲ示ス……………六五

犯罪ノ原因動機ノ取調ニヨリ事件ハ安定シ動機ハ起訴、不起訴決定ノ資料トナリ、起訴シタル後モ、量刑ハ主トシテ之ニヨリ決定セラル……………六六

第九章 無錢宿泊飲食若シクハ前借詐欺ノ捜査……………六八

- 一、無錢宿泊ハ如何ナル行爲意思アレバ、犯罪成立スルヤ、及其取調方法ヲ説明ス……………六八
- 二、前借詐欺前全様……………七一

第十章 窃盜賭博各種違反及過失犯等ノ捜査……………七二

- 一、窃盜罪取調上ノ注意……………七二
- 二、賭博罪ノ取調ニ詐欺アリヤヲ注意ス……………七三
- 三、過失犯ノ過失ノ觀念ノ誤リ易キコト及ビ過失ノ意義ヲ述……………七三

ベ、結果發生ノ物理的原因ヲ過失ト誤認セル等ヲ述ヘ、
 失火事件實例ニヲ示ス……………七三
 四、犯罪行爲ヲ組成スル物ノ領置等……………八五

第十一章 正當防衛ハ刑法ノミナラス盜犯防止法ニ
 依リテモ之ヲ解釋スヘシ尙盜犯防止法ヲ

説明ス……………八五

排除、若シクハ恐怖、驚愕、興奮、狼狽ノ爲メ、殺傷ス
 ルモ罪トナラズト認メラル、各場合アリ……………實例四ヲ
 示ス……………八六

第十二章 放火犯ノ動機等……………八八

一、放火狂……………八八
 二、放火ノ原因動機……………八九

第十三章 少年犯ハ特別ノ取扱ヲ要ス……………九三

第三篇 法醫學ト捜査……………九四

第一章 一般論……………九四

一、法醫學ノ意義ト沿革……………九四

二、兇器等ニ附着ノ毛髮ニヨリ犯罪ノ察知……………及毛髮ハ其
 生ゼシ箇所ニヨリ各形狀ヲ異ニス……………九七

三、血液附着ノ状態ニヨリ犯罪ノ察知……………九七

四、傷害ノ部位形狀等ヲ見テ犯罪ヲ察知……………及傷害各種ノ名
 稱ヲ擧ケ各傷害ノ原因ヲ説明ス……………一〇一

イ、鈍器傷害ノ各種……………一〇一

ロ、銳器傷害ノ各種……………一〇三

五、骨ノ損傷ニヨリ犯罪ヲ知ル……………一〇三

六、死体ノ變化スル現象……………一〇四

七、各死体ヲ見テ其死亡原因ヲ知ルコト及ビ各死体ノ名稱ト
 死亡原因等……………一〇八

イ、頓死	二〇八
ロ、溺死	二〇八
ハ、窒息死	二〇八
ニ、燒死	二〇八
ホ、凍死	二〇八
ヘ、電撃死	二〇八
八、死体解剖ノ目的ト、解剖ニヨリ明ニスヘキ事項	二二四
實例	二二四
九、強姦ノ捜査方法	二二五

第二章 精神病

二二七

A 汎論

二二七

一、心神喪失者及ビ心神耗弱者トハ何ゾ	二二七
二、精神鑑定ノ方法ト捜査官ノ取調ヲ爲スヘキ事項等	二二九
三、妄想、妄覺ノ意義附迷信	二三二

B 各種

二三四

精神病ノ各名稱及ビ各精神病ノ症狀原因

二三四

一、早發性癡呆症（破瓜病、妄想性癡呆症）

二三四

二、麻痺性癡呆症	二二六
三、癲癇	二二七
四、躁鬱症	二二八
五、先天的精神發育制止	二二九
イ、白痴	二三〇
ロ、痴愚	二三一
ハ、魯鈍	二三三
六、其他	二三三
第四篇 送致意見書其他ノ書式	二三四
第一 放火事件	二三五
第二 乃至第七 失火事件	二三六
第八 住居侵入窃盜事件（起訴意見）	二三八
第九 公文書變造行使詐欺（起訴猶豫意見、少年犯）	二四一
第十 文書偽造行使詐欺	二四二
第十一 有價證券變造行使詐欺	二四三

第十二	賭博遺棄 (起訴猶豫意見)	一四三
第十三	殺人事件 (犯罪ノ嫌疑ナシノ意見)	一四四
第十四	業務上過失致死事件	一四五
第十五	過失致死事件	一四六
第十六	同	一四六
第十七	傷害事件	一四七
第十八	同	一四七
第十九	業務上過失傷害事件 (罪トナラズトノ意見)	一四八
第二十乃至二十二	同	一四九
第二十三	營利誘拐 (犯罪ノ嫌疑ナシトノ意見)	一五一
第二十四	窃盜事件 (起訴意見)	一五二
第二十五	同事件 (起訴猶豫意見)	一五三
第二十六	詐欺事件 (借用飲食買受名下ノモノ)	一五三
第二十七	同事件 (不法利得及ビ騙取)	一五四
第二十八	同事件 (請負金詐欺) (犯罪ノ嫌疑ナシトノ意見)	一五五

第二十九	恐喝事件 (犯罪ノ嫌疑ナシトノ意見)	一五八
第三十	業務上横領事件	一五九
第三十一	牛馬商取締規則違反事件	一六〇
第三十二	聽取書	一六一
第三十三	檢證調書	一六四
第三十四	實況見分書	一六七

捜査管話

緒言

今や國家ノ非常時ト叫ハル。犯罪現象ニ於テモ其手段、益巧妙複雑トナリ、思想ノ激化ハ種々ノ犯罪トシテ現ハレ、洵ニ昔日ノ觀ニアラス。捜査ノ任ニ當ル者亦之ニ對スル不斷ノ用意ナカルヘカラス。

偶々本道廳警察部長ヨリノ通牒ニ依ルニ檢事ヨリ司法警察官吏ニ對シ、犯罪捜査ニ關スル講演ヲ乞ヒ度シトノ希望ナリ。

蓋シ捜査ハ檢事ヲ中樞ト爲スト雖モ、檢事ハ少數ニシテ且ツ外部トノ接衝少キ爲メ、檢事ノミニテハ到底之ヲ能クシ難キコトアリ、捜査ニ付キ警察官ト唇齒輔車ノ關係ニ在ル檢事ガ、茲ニ捜査ニ關スル講演ヲ爲スコトハ甚有益ナリト思料シ、依テ小官ガ從來取扱ヒタル事件ノ經驗及見聞シタル事等ニヨリ管内警察

官吏ニ講演シタルニ其ノ講演ヲ小冊子トシテ刊行セラレ度シトノ議生スルニ至
リ之ヲ同志ニ頒タントシ、其儘右講演ヲ刊行スル事トセリ。
倉惶ノ間、先輩諸彦ノ教ヲ乞ハス且ツ未タ推敲成ラサルモノナリ。

昭和九年一月

著 者 識

第一篇 總

論

一、凡ソ捜査ハ刑罰法規ニ規定セラレタル違法行爲（作爲、不作爲）アリテ、
初メテ行フヘキモノナリ、即チ刑罰法規ナキ所ニ捜査ナシ、故ニ捜査ニ當
リテハ先ツ如何ナル行爲ヲ犯罪トセルヤ、其條文ヲ見テ、犯罪構成要件ヲ
明ニ了知シ置クヲ要ス、而シテ捜査ハ刑罰法規ニ規定セラレタル違反者即
犯罪人ニ刑ヲ科セントシテ進ムモノナリ。

二、然ラハ何故ニ犯人ニ刑ヲ科スヘキヤ、即科刑ノ目的如何ノ問題生ス。「刑
ハ刑ナキヲ期ス」ト云フガ如ク、刑罰ノ理想ハ犯罪ナキヲ期スルニ在ルモ
刑罰法規ハ斯ル犯罪ヲ犯セハ、斯ル刑罰ヲ科スヘシト規定シ（罪刑法定主
義ト云フ）以テ一般社會ニ之ヲ警告シ犯罪ヲ防遏シ居レリ、之ヲ一般豫防
ト云フ。然レトモ之ニ從ハス尙犯罪ヲ犯ス者アルヲ以テ、刑罰ヲ科ス、而

シテ其刑罰ヲ科スル場合ニ於テモ、其犯人ニ對シ單ニ刑罰ヲ科スル事ノミ
ヲ以テ目的トスルニアラスシテ、斯ル犯罪ヲ犯セハ、斯ル刑罰ヲ科セラル
、ヲ如實ニ覺知セシメ、再ヒ罪ヲ累ヌル事ナカラシメ、遷善改過セシメン
トスルモノナリ、之ヲ特別豫防ト云フ。

故ニ刑罰ノ目的ハ一般豫防及特別豫防ナリト云フヘシ。
斯クノ如ク、科刑ハ犯罪ヲ豫防シ以テ社會ノ安寧秩序ヲ維持セントスルモ
ノナリ。

三、捜査終結後、犯罪ノ明ナル場合ニ悉ク之ヲ處罰スルモノニアラス。檢事ハ
之ヲ起訴セサル事アリ、其之ヲ起訴セサル理由如何ト云フニ、是レ犯罪ノ
動機、犯人ノ素行、經歷、境遇、改悛ノ有無、被害ノ辨償、社會ニ對スル
影響等ヲ考察シ、現實ニ刑ヲ科セサルモ、刑罰ノ規定シタル目的ノ達シ得
ヘシト認ムルニ因ルニ外ナラス。即右ハ不起訴ノ一場合ナリ。

四、捜査後檢事ノ決スヘキ不起訴ニハ左ノ十二種アリ

- 一、起訴猶豫
- 二、微 罪
- 三、犯罪ノ嫌疑ナシ（所謂證據不十分）
- 四、親告罪ノ告訴取消、無告訴、告訴拋棄
- 五、公訴權時効消滅（時効完成）
- 六、刑事未成年
- 七、心神喪失
- 八、確定判決
- 九、罪トナラス
- 十、刑ノ免除
- 十一、被疑者死亡

十二、中止、

起訴猶豫及微罪ハ犯罪明白ナレトモ起訴セサル場合ナリ。刑事未成年及ヒ心神喪失トハ、犯罪ノ行ヒタル時期ニ十四歳未滿ナルカ、又ハ心神喪失ノ場合ナリ。確定判決トハ、同一事件ニ付テ既ニ裁判アリ確定シ居ル場合及ヒ連續罪、集合罪ノ一罪ト認ムヘキ繼續犯ニシテ其内ノ一部ニ裁判確定アリシ場合ニシテ、一事不再理ノ原則ニヨリ、起訴セサル場合ナリ。

五、捜査トハ如何。其意義如何ト云フニ捜査トハ捜査官吏ニ於テ何人ガ如何ナル犯罪ヲ犯シタルヤヲ明ニスル爲メ、被疑者、關係者、物又ハ場所ノ取調ヲ爲スヲ謂フ。

公訴ハ檢事之ヲ行フ、而シテ捜査トハ起訴、不起訴ヲ決スル資料ヲ蒐集スル行爲ナリ。捜査ノ結果、或ハ犯罪成立セサル事アリ、或ハ犯罪成立スルモ犯狀酌量スヘキ等ノコトアリ。故ニ捜査ハ單ニ犯罪ノ成立スルヤ否ヤ

ノ取調ヲ爲スニ止ラス、尙進ンテ犯人ノ性格、境遇、犯罪ノ情狀及犯罪後ノ情况等及ヒ被疑者ニ利益、不利益等凡テノ資料ヲモ蒐集スヘキモノナリ

六、次ニ捜査ノ方法如何、捜査ハ如何ニ行フヘキヤト云フニ是レ各犯罪ニヨリ異リ、同様犯罪モ亦各場合ニヨリ同一ナラス、故ニ捜査ノ方法ヲ一概ニ定義シ難キモ、一般的ニ言ヘハ捜査ハ周到ノ注意ヲ以テ、敏活ニシテ緻密ノ取調ヲ爲シ以テ事實ノ真相ヲ究ムルニアリ。故ニ若シ捜査官吏ニシテ偏見又ハ豫斷ヲ懷キ、必要ナル取調ヲ爲サスシテ、濫ニ、犯罪ノ嫌疑ナシトシ、又ハ起訴猶豫ヲ豫想シ、粗雑ノ取調ヲ爲スカ如キハ、捜査ノ使命ニ背キ、公正ヲ疑ハレ延イテハ捜査ノ威信ヲモ失墜セシムルニ至ルヘシ。

六、捜査ノ秘密、犯罪ノ有無ハ捜査ノ結果ニ依ラサレハ判明セス。然ルニ若シ捜査官吏ニシテ捜査中被疑者ニ犯罪有テ取調ヘントシ、又ハ取調中ナルヲ濫ニ社會ニ知シムル事アラハ、被疑者ヲシテ其社會的地位ヲ維持シ能ハサ

ル結果ニ立到ラシムル事ナキニアラス、是レ被疑者ノ名譽ヲ毀損シ、人權
尊重ノ本旨ニモ違反シ、尙捜査ノ漏洩トナリ又ハ被疑者ヲ逸シ、若シクハ
罪證ヲ煙滅セシメ捜査ヲ困難ナラシムル事アラン。故ニ捜査ハ密行ヲ必要
トスヘキモノナリ。

八、捜査記録、捜査シタル事項ハ悉ク記録ニ表示セラル、ヲ要ス、記録ハ之ヲ
讀ムモノヲシテ一讀犯罪一切ノ狀況ヲ知ラシムルモノナレハ、記録ハ寧ロ
他人ヲシテ讀マシムル爲メ作成スヘキモノナリ。

犯罪ハ證據ニヨリ認めラル、推定又ハ想像ニヨリ犯罪ヲ認ムル能ハス、而
シテ聽取書等ノ記載ハ犯罪ヲ認ムヘキ重要ナル證據トナルモノナルヲ以テ
其作成ニハ十分ノ用意ヲ必要トスルハ言ヲ俟タス。

若シ其ノ記載ニシテ、事實ノ順ヲ追ハス又ハ斷片的ナルカ如キハ、事實ノ
真相ヲ表ハシ難シ、依テ其記載ハ須ラク秩序系統的ナラサルヘカラス、且

ツ其陳述記載ハ具体的ナラサルヘカラス。其記載ノ基本タル取調ノ際ノ陳
述モ以上ノ如ク秩序的ナラシムルコトハ言ヲ俟タス。例ヘハ無錢宿泊者ヲ
取調ヘタルニ被疑者ハ「其料金ヲ拂フ時ニナツテ、初メテ金錢ノ紛失シタ
ルヲ悟リシ」ト虚偽ノ辨解ヲ爲シタリトセン、然レトモ眞ノ事實ハ、被疑
者ハ其日ニ何圓位ヲ以テ家ヲ出テ、何々ノ店ニテ何ノ買物ヲシテ、次ニ友
人ト飲食シ、全部ニテ何程ノ支拂ヲ爲シ、宿泊ノ時ニハ既ニ所持金ナカ
リシモノナリ。然ルニ其取調ヲ受ケタル際事實ノ順ニ追ハサル斷片的ナル
取調ノ爲メ、被疑者カ右ノ如ク偽ノ辨解ヲ爲スニ至ル例少カラス。尙、被
疑者カ犯罪ノ場所ニ行カサリシトカ其他犯罪ヲ否認スル場合ニモ事實ヲ順
序立テ、陳述セシムレハ、否認シ得サルニ至ルヘシ。抽象的記載トハ例ヘ
ハ雇人紹介者カ「○町○○料理店ヨリ雇女ノ紹介ヲ頼マレ、△△町ニ行キ
、相當ノ女ヲ見付ケ右○○料理店ヨリ金八十五圓ヲ送金セシメタルモ、

旨クナイ爲メ、他ノ女ニ話ヲ進メタリ」、ト云フ陳述ノ如シ。然レトモ事實ハ次ノ如クナルニヨリ、次ノ如ク具体的ニ記載スヘシ。被疑者ハ△△ニ行キ同町何條何丁目ノ知人某ノ家ニ泊リ、其知人ヨリ富士屋旅館ニハ旭川ノ紹介業者カ女ヲ雇入レン爲メニ來テ居ルトノ事ヲ聞キ、富士屋ニ至リ、右ノ紹介業者ニ面會シ、同人ヨリ喜樂ト云フ飲食店ニ二十四歳下田○○ト云フ女カ居ルトノ事ヲ聞キ、喜樂ニ行キ右女ニ面談シタルニ同女ハ○○飲食店ニ雇ハレ行クトノ話ナリシ爲メ、以上ノ事ヲ電話ニヨリ○○料理店ニ告ケ○店主人ヲシテ同女ニ前貸スヘキ八十五圓ヲ電報爲替ニヨリ、自己ノ知人何町何某方ニ送金セシメ然ル後同女ノ健康診断ヲ○○病院ニ於テ、何某醫師ヲシテ爲サシメタルニ同女ハ妊娠四ヶ月ナル事判リシ爲メ、他ノ女ニ話ヲ進メタリ」、ト云フカ如ク其体的ニ記載スヘキモノナリ。

尙産婆取締規則違反ニ於テ前後ノ記載ナク、突然ニ被疑者ハ何月何日何ノ

某方へ行キ、同人妻ノ出產ノ取扱ヲ致シマシタ」、ト云フ抽象的ノ記載アリ。三人ノ出產ノ取扱ヲ爲セシ事ヲ皆前同様ニ記載シ居レリ。出產取扱ヲ受ケタル女三名ニ付テモ亦同様ニ突然、自分ハ「何月何日、被疑者○○ノ出產取扱ヲ受ケ同人ニ其後ニ反物一反、現金七圓等ノ謝禮ヲ爲シタリ」トノ抽象的記載アリ。

然レドモ、此事件ハ次ノ如キ事實ナルニヨリ次ノ如ク記載スベキナリ。

右三名中ノ一人ハ、其日、朝ヨリ陳痛ヲ催シ寢テ居タル處、同日朝、被疑者ガ呉服店ナル同女方へ買物ニ來タル爲メ、同女ノ母ガ被疑者ニ對シ出產取扱方ヲ依願シ、依テ午前十時頃カラ被疑者ハ右女方へ來リシト。即被疑者ハ右三名ノ女方へ如何ニシテ行キ出產取扱ヲ爲シタルヤ、具体的經路ヲ陳述セシメザル可カラズ。

次ニ右三名ノ女ガ、如何ニシテ右被疑者ガ出產取扱ヲ爲ストノコトヲ知リ

居タルヤ、如何ニシテ被疑者ニ出產取扱ヲ依頼セシヤ、夫が行キテ依頼シタル爲ナルヤ等ノ具体的ナル事實ヲ陳述セシメ、之ヲ記載セザルベカラズ尙被疑者ガ出產取扱ヲ爲シタルト云フモ、如何ナル取扱行爲ヲ爲シタルヤ之モ全然記載ナシ。

被疑者ハ「最初出產取扱ヲ頼マレシモ斷ツタ、然レドモ是非來テ吳レトノ事デアツタ爲メ行ツタ、後ニ金ト反物ヲ御禮ニ貰ツタ。ケレドモ厚意のニ取扱ツタ事デアルカラ、謝禮ハ要ラナイト申シ斷ツタケレドモ、是非受取ツテ吳レトノ事デアツタカラ受取ツタ」トノ旨記載アリ。然レドモ果シテ右ノ如クナルヤ否ヤ、關係人ノ取調ナシ。即起訴、不起訴等ノ決定資料ノ取調ナシ。

尙他ノ事件、「被疑者ガ數日後ニ返済スヘシト稱シ金員ヲ借受ケタル詐欺事件ニ付テ、被疑者ハ返済ノ爲メ金策セシモ出來ザリシ、其内ニ家族ニ病人

出來テ遂ニ返済出來ナイ事ニナレリ」トノ抽象的ノ陳述記載アリ。右ノ事件ハ右ノ如ク記載セズシテ、具体的ニ被疑者ハ「借用何日後、返済セシトシテ同町何條何丁目何ノ某及ビ何某方ヘ行キ、何圓ノ借用ヲ申入レタルモ何々ノ理由ニテ金策不能ニ終レリ、尙家族中次男某ガ何時ヨリ何ノ病氣トナリ、何々醫師ノ治療ヲ受ケ同醫師ニ何日ニ其醫療代金何圓ヲ支拂ヒタルニヨリ、被害者ニ何圓ヲ返済シ能ハザルニ至レリ」トノ如ク、具体的ニ陳述セシメ記載ヲ爲スベキモノナリ。

抽象的ノ記載ハ何故不可ナリヤト云フニ、同陳述ハ被疑者ガ虚偽ノ辯解ヲ爲スニ甚都合良ク、且ツ抽象的陳述ナラバ、被疑者ガ虚偽ノ辯解ヲ爲シ居ルヤヲ明ニスル爲メ、他ノ證人等ノ取調ヲ爲サント欲スルモ、證人等ノ住所氏名不明ニシテ、其取調不能トナレバナリ。

送致意見書等ノ記載ニ付テ一言スレバ、被疑者ガ何時何處ニテ犯罪ヲ犯シ

タルヤヲ明ニスベク、簡明ニシテ要ヲ逸セザル様ニシ、例ヘバ、横領事件ニ付テハ「被疑者ハ何月何日午後何時頃何町某方ニ於テ某ヨリ、第三者何ノ某ニ送金方依頼ヲ受ケ、金二十圓ヲ受取リ乍ラ、其數日後何町何ノ某ノ店ヨリ何々ノ買受代金何圓ノ支拂請求ヲ受ケタルニヨリ、擅ニ當時右占有中ノ何圓ヲ支拂ヒ、横領シタリ」、若シクハ、詐欺事件ニ付テ「被疑者ハ數日後ニ返済スヘキ意思ナキニ不拘何日何處ニテ何ノ某ニ對シ、「數日後ニ返済スヘシ」ト申欺キ、同人ヨリ金二十圓ヲ借用名義ヲ以テ受取リ騙取シタリ」又ハ、「被疑者ハ料金ヲ支拂フ意思ナキニ不拘、何月何日同町何料理店ニ於テ料金ヲ支拂フ如ク装ヒ（是レヲ欺罔トス）金何圓相當ノ飲食ヲ爲シ右料金ヲ支拂ハス、財産上不法ノ利益ヲ得タリ」ト云フカ如ク記載スヘキモノナリ。

聽取書等ニ騙取シタリ、トカ詐取シタリ、トカ又ハ欺罔シタリ、トカ若シ

クハ窃取シタリ、トカ記載スルコトアレトモ、是等ノ用語ハ法律上ノ術語ニシテ、被疑者等カ右ノ如キ用語ヲ用キ陳述スル筈ナシ、若シ右ノ如キ用語ノ記載アレハ、聽取書等全体ノ信用カニ關係スルコトアリ、故ニ聽取書等ニハ被疑者ノ申立ツル用語ヲ其儘、記載スヘキカ可ナリ。欺罔トハ、人ヲ詐リ、錯誤ニ陥ルルヲ云フ。騙取トハ欺罔シテ金品ヲ受取ルヲ云フ。然レトモ詐取ナル法律上ノ用語ナシ。窃取トハ他人ノ物ノ所持ヲ侵シ、自己ノ所持ニ移スヲ云ヒ、横領トハ自己ノ所有スル他人ノ物ヲ擅ニ經濟上ノ用途ニ使用スルヲ云フ。

九、捜査ノ端緒、捜査ノ端緒ハ現行犯、告訴、告發、密告書、以外戸口調査、又ハ新聞記事、申告、無錢又ハ偽名ノ宿泊、若シクハ料理店等ノ無錢飲食豪遊、質店、古物商取調、其他舉動怪シキ者ノ誰何等ニヨリ、發見ジ得ヘシ。匿名ノ密告ニ付テハ、私怨ニ基ク、誣罔ノモノアルヲ、注意スヘシ。

凡ソ警察事務ハ、行政警察ト云ヒ、司法警察ト云フモ、事務分配ノ便宜ニ
ヨルモノニシテ、等シク社會ノ安寧秩序ヲ維持セントスルモノニ外ナラス
故ニ行政警察ノ場合ニ於テモ、犯罪ノ端緒ヲ得ント心掛クルハ、是レ職責
ノ一ナラン。例ヘハ行政警察上素行不良ナル貧困者カ、急ニ料理店等ニテ
金錢ヲ浪費スルヲ知ラハ或ハ窃盜、横領等ノ犯罪ニ因ルニアラスヤ、ト疑
ヒ、其者カ果シテ正當ニ金錢ヲ取得セシ事實アリヤ、ヲ調査スヘキカ如シ
又ハ戸口調査ニヨリ妊婦ヲ認メ、其墮胎等ヲ爲シ誰シト推知セシメ、尙後
日妊婦ノ腹カ、急ニ平常ニ復シタルモ嬰兒ノ居ラサルヲ發見シテ、墮胎又
ハ嬰兒殺ノ端緒ヲ得ントスルカ如シ。

失火事件ニ付キ、被疑者方ニ火災保險契約アリ、借金ニ窮シ居ルヲ日常知
リシ場合ハ、放火ノ疑ヲ生セシム。此ノ場合ニハ、被疑者カ右出火ノ場合
消火ノ舉動等カ、普通ノ出火ノ場合ト異ナル事等ヨリ、放火ノ疑ヲ深クス

ヘキ如シ。

十、職務關係法規ヲ孰知スヘキコト、

刑事訴訟法中、捜査官吏ノ常ニ知得セサルヘカラサル條項アリ。即次ノ如シ
司法警察官吏ハ如何ナル場合ニ被疑者ヲ逮捕シ得ルヤノ規定等ハ條文ヲ披
カスシテ常ニ知得スヘク、然ラサレハ急速ノ場合ニ應スル能ハス。然レト
モ之ヲ説明セン。被疑者ヲ逮捕シ得ル場合ヲ知ルニハ先ツ現行犯トハ如何
ナルモノナリヤヲ知ルヲ要ス。

刑訴法第三百三十條ニ依レハ、現行犯トシテ取扱フヘキ場合ヲ分チテ左ノ六
種トセリ。即チ

- 一、現ニ罪ヲ行ヒタル際發覺シタルモノ
- 二、現ニ罪ヲ行ヒ終リタル際發覺シタルモノ
- 三、兇器贓物其他ノ物ヲ所持セルモノ

四、誰何セラレテ逃走シタルモノ

五、犯人トシテ追呼セラレタルモノ

六、身体被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アルモノ

即是レナリ。然ラハ現行犯ノ場合ハ常ニ被疑者ヲ逮捕シ得ルヤト云フニ決シテ然ラス。凡ソ被疑者ヲ逮捕シ得ル場合ハ先ツ左ノ二箇ノ條件具備ヲ必要トス。

一、現行犯ナルコト

二、犯人其ノ犯罪ノ場所ニ在ルコト

右ノ二條件具備シ、更ニ次ノ五箇ノ場合ニ限り被疑者ヲ逮捕シ得ルモノナリ。

一、住所不明、不定

二、氏名不詳

三、罪證煙滅ノ虞アルトキ

四、逃亡シタルトキ

五、逃亡ノ虞アルトキ

刑訴法第二百二十四條ヲ参照スヘシ。

但シ前記現行犯トシテ述ヘタル三乃至、六ノ場合ハ、現行犯人、其場所ニ在ラサルモ、現行犯人其場所ニ在リシモノト看做サル。

其逮捕シタル被疑者ヲ検事ニ引渡シタルトキハ、検事ハ之ヲ訊問シテ、勾留シ得ヘシ。

尙刑訴法第二百二十三條各號ノ場合ハ、検事ハ被疑者ニ勾引狀ヲ發シ、之ヲ訊問シテ勾留シ得ヘキモノナリ。即次ノ場合是レナリ。

一、被疑者住所不定ナルトキ

二、現行犯人其場ニ在ラサルトキ

- 三、現行犯ノ取調ニヨリ共犯ヲ發見セシトキ
- 四、囚人又ハ勾禁者逃走セシトキ
- 五、死体ノ檢證ニヨリ犯人ヲ發見セシトキ
- 六、常習強窃盜

以上現行犯及ヒ勾引シ得ル場合ニハ、被疑者、證人ヲ訊問シ犯場ヲ檢證シ家宅搜索、物件ノ押収ヲ爲シ得ルノミナラス、死体ノ解剖鑑定、墳墓ノ發掘等ノ強制捜査ヲ爲シ得ヘシ（以上ハ檢事司法警察官ノ強制捜査ナリ）。更ニ檢事ハ、強制處分ヲ判事ニ請求シ得ヘシ（刑訴法第二百五五條）即押収、捜査、檢證、被疑者、證人ノ訊問、被疑者ノ勾留ヲ請求シ得ヘシ。以下ニ尙捜査ニ關シ述ヘントス、

其述フル所ハ從來、諸君ノ取扱ヒタル事件ヲモ引例シ之ヲ説明批評セントス。是レ理解ニ最モ効果アリト認メタルニ因ル。

第二篇 一般客論

第一章 捜査ハ機敏ヲ要ス

捜査ニシテ若シ機敏ナラサレハ犯人所在不明、又ハ逃亡スル事アリ、若シクハ罪證ヲ煙滅シ、然ラサルモ證據ノ自然滅失スル事アリ、其他關係人ノ記憶不正密ニ至ル等ノ事アリテ事實ノ真相ヲ究明シ難キニ至ルモノナレハナリ。

第二章 犯罪ノ現場ノ保存及ヒ檢證等ニ付テ

捜査ノ終了迄犯罪ノ現場ハ警ヒ塵一本ナルモ、其儘動かサ、ル様ニシ、尙死体ハ勿論、兇器、其他物件ヲ動かシ又ハ之ニ手ヲ觸レシメサル様ニスヘシ。檢證又ハ實況見分トハ、捜査官ノ五感（目、鼻、耳、口、手）ニヨリ犯罪力如何ニ行ハレタルヤヲ知ラントスルモノナレハ、捜査終了迄犯罪ノ犯サレタル儘ノ状態ヲ存セシムル事ニ注意ヲ要ス。尙物件中、犯人ノ指紋アリト認メラル、箇所ニハ

何人ニモ接觸セシムヘカラス。捜査官カ檢證ノ爲メ、犯罪ノ行ハレシ場所ニ立入ル場合、煙草ヲ喫シツ、入ルカ如キハ、不用意ノ甚シキモノナリ、蓋シ檢證ハ嗅覺ニモ依ルモノニシテ、僅カノ嗅氣ヲモ覺知セントスルモノナレハナリ。實況見分ノ場合亦右ニ同シ。

犯人ノ足跡ニヨリ足ノ形狀ヲ調査シ、犯人ハ如何ナル方向ヨリ來リ、如何ニ歩行シ何レノ方面ニ向ヒ立去リシヤヲ調査スルヲ要ス。尙犯人ハ下駄、草履、靴ノ何レヲ着用シ居タルヤ、ステツキ等ノ所持如何等モ調査スヘシ。足跡カ正シカラス、所謂千鳥足ナラハ酔酩者又ハ精神病者ノ疑アリ。足跡ニヨリ其犯人ノ足ノ大イサ、其形狀ヲ精査シ紙ニ寫シ取り置クヲ要ス。

窃盜犯人等カ迷信ヨリ戶外ニ大便ヲ爲ス事アリ、大便ヲ見テ其食シタル食物ノ如何、又ハ其消化シ居ルヤ否ヤ、大便ニ蛔虫ノ卵等混シ居ルヤ否ヤ、等ヲモ知ルヘシ、然ラハ後此ニヨリ犯人發見ノ端緒ヲ得ル事アリ。若シ蛔虫ノ卵アレハ

犯人ハ町ニ居住セサルモノト認メテ可ナルヘシ。又ハ大便ヲ拭ヒシ紙又ハ布等アレハ如何ナル紙、布ナルヤヲ調査シ置クヲ要ス。コレ又犯人發見ノ端緒トナル事アリ又ハ後日犯人ノ自白ニ符合シ證據トナル事アリ。

實例、某刑事カ窃盜ノ大便ヲ拭ヒシ布ヲ洗ヒ領置シ置キタルニ後日他ニ於テ強盜犯人檢舉セラレ、其着衣ト右領置シ置キシ布トカ、同一ノ衣類ナルコト判明シ、依テ右窃盜モ自白シタル事例アリ。

第三章 捜査ハ緻密ノ觀察ヲ要ス

若シ緻密ナラサレハ、被疑者犯罪ヲ否認スル等ノ場合、犯罪カ犯サレタルヤ否ヤヲ十分知ル能ハサルヘシ、尙犯人不明ノ事件ニ付テハ犯人ヲ發見スル能ハサルヘシ。

實例ノ一、放火事件、某縣人口約八千ノ某町ニ放火事件アリ、一ヶ月餘ニ拾四五箇所ニ放火シ、其多クハ日中ノ放火ニシテ、一日ニ三回以上放火アリシ事モ

アリ、幸ニ其家屋ハ半焼位ニ止リ、消シ止メラレ、放火ノ方法ハ空家内又ハ其家ニ接近スル藁圍等ニ放火シ、何レモ有合ノ物ヲ燃料トセシモノニシテ、警察ハ全力ヲ擧ゲ、消防、青年團ト協力シ、日夜犯人檢舉ニ努メ、非常線ヲ張リ同町ニ出入スル舉動怪シキ者ヲ悉ク誰何シ、同町ノ怪キ者、何十人ヲ取調ヘタルモ犯人不明ナリ、遂ニハ全縣下ノ老煉ノ刑事數十名ノ援助ヲ求メ、捜査ニ從事セシモ斯ル嚴重ノ警戒中、其後數日中ニ日中更ニ三回モ放火シ、何人ト雖モ其犯人ノ委サヘ見タル事ナシ。或ハ其犯人ハ大膽機敏ニシテ、同町ニ怨恨ヲ有スル者ナリト言ヒ、或ハ社會ニ反感ヲ懷ク共產主義者ナリ言ヒ、或ハ警察ヲ怨ミ之ヲ嘲弄セン爲メノ放火ナリト言ヒ、或ハ水平社ノ類又ハ鮮人ナラント云フ、然レトモ同町ノ出入ヲ嚴重ニ警戒シタル後モ、尙數回モ放火セルニヨリ犯人ハ同町ノ居住者ト云フニ限定セラレタリ。責任感念強キ同警察署長ハ、若シ近日内ニ犯人ヲ發見シ得ザレバ、辭職シテ申譯ヲ爲サント悲壯ノ決意ヲ爲スニ至レ

リ。余ハ此ノ犯人ノ放火ノ目的ハ不明ナリ、尙理性アル主義者ノ如キ者カ敢テ冒險ニ斯ル大罪ヲ犯ス筈ナク是レ白痴ニ近キ者ノ所爲ナルヘシト認メ居タリ。而シテ此ノ事件ノ犯人モ結局發見セラレタリ、次ニ其ノ發見セラレタル理由ヲ述ベン、即本件中ニ材木屋ノ裏ニモ放火アリ、當時ノ狀況トシ、其數軒離レタル雜貨店ノ妻ノ陳述ニ依レバ「當時其雜貨店ニ十六才ノ少年ガ來テ遊ビ居タルニ附近ニテ火事ダト叫ブ聲アリ、右少年ハ之ヲ聞キ「火事ハ材木屋ノ裏ダ」ト云フテ走り行キタル爲メ、右妻モ材木屋ノ方面ニ走り行キ、右火事ヲ見テ歸レリ」ト云フ。

當時警察官、其ノ他ノ者モ右妻ノ陳述ニ何等疑ヲ懷カス、閑却サレ居タリ。然レドモ之ヲ緻密ニ考察スレバ次ノ如キ疑生スヘシ。

右少年ハ火災ノ現場ニ行キ見ザル内ニ右ノ火事ハ材木屋ノ裏ダ、ト云ヒタルガ如シ、果シテ然ラハ右少年ハ如何ニシテ材木屋ノ裏ガ火事ナルコトヲ知リシヤ

不可解ナリ。茲ニ此ノ疑問解決ノタメ、右少年ヲ呼出シ取調ヘタルニ、以上放火ノ全部ヲ自白スルニ至レリ。本少年ハ白痴ニハアラス、不良少年ニモアラス放火ノ目的ハ火災起レバ社會ノ騒然トナリ、自己モ火事場ニ駆ケ付クル事等ニ甚興味ヲ感シ、放火スルニ至リシモノナリ。同少年ガ嚴重ノ警戒中冒險シテ尙何回モ放火シタル理由トシテハ、多クノ被疑者ガ右放火ノ疑ヲ受ケ警察ニ拘留サレ居タルヲ聞キ之ヲ氣ノ毒ニ思ヒ、犯人ハ他ニアリトノ事ヲ示サン爲メナリト云フ。

捜査ハ右ノ如ク緻密ニ觀察セハ判明スヘシ、右事件ニ於テハ多數ノ怪シキ者ニ對シテ嚴重ナル取調ヲ行ヒ居タルモ粗雜ナル取調ナリシ爲メ、眞犯人ヲ發見スル迄ニ約二ヶ月ヲ要シタリ。

實例ノ二、失火事件

被疑者ハ鍛冶職ニシテ建坪三十坪ノ倉庫ニ間口五間、奥行二間ノ下屋ヲ下シ之

ヲ鍛冶工場トシ居リ、某日午後七時頃、轆ヨリ吹出シタル火ノ粉カ同工場内附近ノ木炭ニ飛居タルヲ知ラス、仕事ヲ終リ自宅ニ立歸リシ爲メ、翌日午前二時頃右木炭ヨリ發火シ、右倉庫ヲ燒燬シタリ、トノ事件アリ。然レトモ聽取書等ニ右工場ノ状態ノ陳述ナキ爲メ、其状態不明ナリ。

轆ハ何處ニ在リシヤ、木炭ハ何處ニ在リシヤ、木炭トハ俵ニ入レ在リシ儘ノモノヲ指スヤ、又ハ木炭ハ俵ヨリ出ラタルモノニシテ散亂セシモノナリヤ、木炭ノ分量如何等少シモ陳述記載ナキ爲メ、全ク不明ナリ。

若シ本件ヲ、火ノ粉カ木炭ニ飛ヒ木炭ヨリ發火セシトスレハ、更ニ木炭以外ニ燃エ上ルヘキ媒介物アリテ、此ノ媒介物ニ火ノ移リシ順序トナルヘキヲ普通トスヘシ。然ルニ單ニ「木炭ヨリ發火シタリ」ト爲スノミナレハ甚疑アリ。

即チ被疑者ヲシテ「木炭ヨリ發火セシメ、倉庫ヲ燒燬シタリ」ト陳述セシメアルモ、同陳述ハ甚タ不精密ニシテ、本失火ノ原因ヲ明ニセリ、ト云フ能ハス。

依テ被疑者ヲ更ニ緻密ニ陳述セシメサレハ本失火ノ原因ヲ知ルニ由ナシ。
斯ル場合ハ工事場ノ明細ノ見取圖ノ如キモノヲ作成シ之ニ基キ、被疑者ニ陳述
セシムルカ、又ハ之ヲ作成セスシテ、被疑者ニ以上ノ疑ナキニ至ル様陳述セシ
メサルヘカラス。

當職取調ヘタルニ被疑者ハ、土間ニ作リシ火起シ場ヨリ二尺離レシ所ニ、二個
位ノ木炭カ幾分散亂シ在リ、鞆ヲ使用シタル節、火ノ粉カ右木炭ニ飛ヒ、依テ木
炭ニ幾分火カ移リ居リ、同木炭ト鞆トハ六七寸離レ居リシ爲メ、歸宅後木炭ノ
火ハ自然ニ擴大シ、鞆ニ移リ鞆ハ杉ノ板ニテ作リシモノニシテ甚タ燃エ易キニ
因リ、發火スルニ至リ、尙鞆ハ櫓ノ土臺及板壁ニ接シ置カレ在リシ爲メ、鞆ヨ
リ土臺及板壁ニ燃エ移リシ旨陳述シ、失火ノ原因ヲ明白ニシタリ。

三、放火事件ノ如キ一般取調ノ方法ヲ述ヘン
被疑者ヲ大体次ノ如ク取調ヘ陳述セシムルヲ可ト認メラル。

證據ヲ得ル事困難ナル放火事件ニ付テハ、被疑者ハ最初自白スルモ後ニ多クハ
否認スルモノナルニヨリ、其自白ノ當時詳細ニ取調ヘ、被疑者ハ當日何時頃何
處ニ居リシヤ、而シテソレヨリ何處ニ行キ、放火現場ニ至リシヤ、若シ石油等
使用ノ放火トセハ、其出所ヲ陳述セシメ、又住居侵入ノ放火トセバ、犯人ノ履
物ノ種類ヲモ陳述セシメ、其足取足跡ヲ取調ヘ、若シ其履物アレハ押収シ、燒跡
ヲ緻密ニ取調ヘ、證據物又ハ參考物件ノ押収ニ努メ、石油ヲ瓶ニ入レ持行キシ
トセハ、同瓶ヲ投棄テタル所ヲ陳述セシメ、同瓶ヲ發見スヘク住居侵入放火ノ
場合ニハ何處ヨリ侵入セシヤ、其侵入セシ箇所ノ戸ハ開キアリシヤ、施錠アリ
シヤ、如何ニシテ開キシヤ、當時其家ノ家族ハ眠リ居タルヤ、又ハ何人カ起キ
居タルヤ、其家ノ何處ノ方面ニ話聲アリシヤ等ヲ陳述セシメ、尙何レノ室ニ電
燈ノ點セラレ在リシヤ、侵入セシ家ノ間取及入りシ室等ニ在リシ物体如何ヲ陳
述セシメ、其家ニ行ク節又ハ歸ル節途中ニテ何人カ通行人其他ヲ認メタルヤ、

若シ途中ノ某家ニ來客アリテ遅ク迄起キ居タルヲ認メタリトセハ之ヲ陳述セシメ、及ヒ當時ノ被疑者ノ服裝、風ノ有無方向、天候月ノ有無等ヲ陳述セシメ、且ツ放火シタルハ何時頃ナルヤ、及何時頃ト陳述セシトセハ其時間頃トノ事ハ何ニヨリ認メシモノナルヤ等ヲ陳述セシメ、更ニ放火ノ方法及放火ノ動機及ヒ何處ヲ通り、何時頃歸宅セシヤ及消極的ニ右發火ノ場所ハ放火ノ原因以外ニ火ノ發スル所ニアラサルヤヲ明ニシ、被疑者ノ以上、各陳述ハ眞實ナルヤ、否ヤヲ各證人等ニ付キ取調ヘ、眞相ヲ明ニシ置クヘキモノナリ。

然ラハ後ニ至リ自白ヲ取消スモ、其取消ハ効薄キノミナラス、否認スル時ニ至リ詳細ノ取調ヲ爲シ、犯罪ヲ明ニセント欲スルモ、甚タ困難ニ立至ルヘキヲ以テ自白當時ニ詳細ノ取調ヲ爲スヘキモノナリ。

放火事件ニ限ラス、一般犯罪モ大体右ノ如ク取調ヘテ可ナラン。

四、實例ノ三 告訴ニ係ル詐欺被疑事件

宿屋ノ次男タル十六才ノ少年カ三ヶ月ノ月賦ヲ以テ、代金ヲ支拂フヘシトノ注文書ヲ送り、奈良ヨリ蓄音機一基ヲ送付セシメ乍ラ同代金三十六圓五十錢ノ中十圓ノミヲ支拂ヒ、殘金ヲ拂ハサルトノ事件ナリ。

右被疑者ノ聽取書ヲ見ルニ問、支拂フ考ナカリシニアラスヤ、答「支拂ノ意思ハアリマシタ」トアルノミニシテ、ソノ他支拂ノ意思ノ有無ニ付テハ全然取調ナク搜查甚不十分ナリ。

思フニ、若シ右辯解ノ如ク眞實支拂ノ意思アリシトセハ

(イ) 然ラハ何故ニ半年以上モ支拂ハサリシヤ、其理由如何

(ロ) 毎月兩親等ヨリ小遣錢拾圓位ヲ貰フコトニナリ居タルカ、又ハ金ノ入ルヘキ豫定アリシヤ、若シクハ二、三十圓ノ貯金ノ如キモノアリシニアラサレハ、右ノ如ク辯解シ得サルカ、是等ノ事實ハ如何

(ニ) 又ハ然ラスシテ毎月ノ小遣錢ハ一圓位ニシテ、貯金モナク金ノ入ルヘ

キ豫定モナカリシトセハ、兩親等ヲシテ支拂ハシムル考ニテ注文セシ爲メ、支拂ノ意思アリシト辯解スルモノナルヤ

(ホ) 然ラハ注文前ニ兩親ノ承諾ヲ得テ注文セシヤ、又ハ然ラスシテ兩親ニ無斷ニ注文シ兩親ニ支拂ハシムル考ナリシヤ、假ニ後ノ如シトスレハ同代金ヲ支拂ヒ得ルヤ否ヤ未定ナリ、即チ兩親カ支拂ヲ引受クルヤ否ヤ未定ニシテ若シ引受ケサレハ其支拂不能ニ至ルヘキヲ豫見シツ、注文シタルモノナラン

等ヲ取調ヘ辨明セシメサルヘカラス。

以上事項ニ付キ被疑者ニ述陳セシメタル上、更ニ其兩親等ヲ取調ヘサレハ犯罪ノ成否判明セス、然ルニ被疑者一人ノ取調ヘナリシ。當職カ取調ヘタルニ「支拂ノ意思ナクシテ注文シタル旨自白シ最初ノ十圓ハ父ニ話シ貰受ケテ送金セシモノナリ」ト

五、以上ノ説明ニヨリ、再三ノ取調ナルモノニハ甚効果アルヲ知ルヘシ。

犯罪ノ現場ヲ再檢證シ又ハ同一被疑者、關係人ノ再三ノ取調ヲ爲ス事ハ有益ナルコトアリ。何トナレハ時ト場合トニヨリ捜査官ノ着眼點、感想等ヲ異ニスルモノナレハ初メ發見セサル事モ、再度ノ檢證又ハ取調ニヨリ新事實ヲ發見シ、又ハ疑ノ氷解セラル、事少カラサレハナリ。

某縣ニアリシ不敬事件ニシテ、汽車ノガラス窓ニ指ニテ不敬ノ文字ヲ書キシモノアリシモ犯人不明ナリ。汽車ノコトナレハ客ノ出入繁ク現場保存ハ困難ナリ然ルニ熱心ナ一刑事カ再度現場ニ至リ、鼻汁ヲ拭ヒシ紙ノ落チ居タルヲ發見シタリ、其紙ハ某農會ニテ使用スル用紙ニシテ、之ニ書キタル文字ノ筆跡ハ、右窓ノ筆跡ニ似タルヲ認メ之ヲ端緒トシテ犯人ヲ檢舉シタル事例アルヲ聞ク。

第四章 捜査ハ冷靜ニ客觀的ナルヘシ

實例ノ一、強盜事件

或ル小間物行商人カ午後二時頃峠ニテ強盜ニ襲ハレ頭部ヲ歐ラレ金品ヲ強奪サレシトノ事件アリ。被告人ハ全然否認ス、被害者ハ公判ニ出頭シ「強盜ハ此ノ人テス、顔モ記憶シテ居リマス」ト證言セルモ被告人ハ「此ノ様ナ人ヲ見シ事モナシ」ト云フ、當時ノ被告人ノ着衣ハ押収トナリ居レリ、依テ被告人、曰ク「此ノ人カ強盜ノ顔ヲ記憶シテ私ヲ強盜テアルト云フナラハ、當時ノ強盜ノ着衣モ記憶シテ居ルデセウ、強盜ノ着衣ハドンナモノデアツタカ、當テサセテ下サイ、若シ當ラナカツタナラバ、此ノ人ノ言フ所ハ出鱈目デ、私ヲ強盜ダト云フ證言モ採ルニ足ラナイモノデス」ト。依テ裁判長ハ證人即チ被害者ニ強盜ノ着衣ヲ問ヒタルニ當ラザリシ。然レドモ此ノ被害者ノ申立ハ偽ニアラス。凡ソ人カ周章又ハ驚愕ノ際ニ記憶ニ錯誤ノ生ズルガ如ク、右被害者モ同様ナリシモノナリ。

強盜ニ襲ハレシ家ノ家族カ強盜ノ顔ヲ記憶シ居ルトノ申立ヲ爲セシ爲メ、取調中ノ被疑者カ果シテ其強盜ナリヤ否ヤヲ決定セントシ、其家族ニ被疑者ノ顔ヲ示シ、所謂首實驗ヲ爲サシムル事アレドモ應々當ニナラヌコトアリ。

實例ノ二、強盜傷人事件

某縣某郡某村ノ農家ニ強盜押入り、一室ニ就眠中ノ主人ノ頭部等ヲ突然、大ナル丸石ヲ以テ歐打シ、且ツ忽チ短刃ノ如キモノニテ主人ノ頭頸部等ヲ斬リ付ケ「自分ハ共產黨員ヲ資金ヲ作ル爲メニ來タ」ト稱シ主人ヲシテ其傍ニ在リシ拾圓余在中ノ財布ヲ出サシメ、之ヲ強奪シテ逃走シタリ、強盜ニ入ル前ニ外ニテ立話ヲ爲シタル所ヨリ考フレハ共犯アラントノ事ナリシモ、犯人不明ナリ。或ハ共產黨員ニシテ一時汽車ヨリ降り右ノ如ク強奪シ既ニ遠方ニ逃走シタリ、ト云フ。警察官ハ附近ノ不良ノ徒多數ヲ取調べタルモ犯人ヲ發見セス、余ハ此ノ事件ノ犯人ノ遣リ口ヲ考ヘ甚馴レサル者ニテ且ツ小膽ノ者ナリト認メ居タリ

然レトモ之ニ反シ右犯人ハ、初メ石ヲ以テ歐打シ相手方ノ抵抗力ヲ拒キタル後ニ刃物ヲ使用シタルモノナレハ、遣リ方ニ順序アリ、大膽ノ者ナリト云フモノアリ犯人ハ次ノ如クニシテ發見セラレタリ。

被害者ノ家族ハ何回モ取調ヲ受ケタリ、強盜アリシ其ノ家ノ十八歳ノ娘ハ主人ノ隣室ニ、就眠シ居タル爲メ、右犯人ノ聲ヲ聞キ知リ居タルモノナリ。右娘ハ最後ノ取調ニ於テ犯人ノ聲ニ付キ「此ノ先ノ寺ノ小僧ニ似テ居タリ、然レトモ是レ迄之ヲ述ヘサリシ理由ハ、彼ノ小僧ハ從順テ大罪ヲ犯ス筈ナク、聲カ似テ居タトノ事ヨリ若シ小僧カ取調ヲ受ケテハ、誠ニ濟マナイ事テアルカラト陳述シタリ、此ノ小僧トハ十七歳ノ少年ニシテ、素行善良、從順、小擔ニシテ和僧夫婦ヲ兩親トシ疑ハシキ者ニアラス、然レトモ呼出シ取調ベタルニ、右犯罪ヲ自白シタリ（當時ノ某官ハ警察署ニテ小僧ヲ一見シテ此ノ者カ強盜ヲセシニアラスト主張シテ歸レリ）取調ノ結果被疑者ハ金錢強奪後血痕附着ノ衣類ヲ着用シ、

知人方ニ寄リシニ、知人ハ甚驚キ右衣類ヲ全部洗濯シ、他ノ衣類ヲ着用セシメテ寺ニ歸ラシメタル事實及ヒ短刀ヲ買受タル事實モ判明シタリ。

犯罪ノ動機ハ右小僧ハ父タル和尚ヨリ命セラレ、毎月何日カ托鉢ニ出テ金錢ヲ貰ヒ歸ルヲ例トセシモ、若シ貰ヒ錢少ナケレハ和尚ヨリ甚シク叱責セラレ居タルモノナレハ、多額ニ貰ヒ錢ヲ得タル如ク裝ヒ歸ラントシ、右強盜ヲ爲スニ至リシモノナリ。

第五章 捜査ハ事件ノ大局ヨリモ觀察スルヲ要ス

捜査ハ緻密ヲ要ス、ト云フモ單ニ部分的ノ緻密ハ不可ナリ。

捜査ハ事件ヲ大局、高所ヨリ觀テ、所謂其骨格又ハ形体ヲ明白ニ觀察スヘキヲ要ス。諺ニ「獵師山ヲ見ス」ト云フカ如ク、若シ事件中ニ現ハル、各事項ヲノミ緻密ニ調査セント、是レ專念セハ事件大局ノ觀察ヲ誤リ、又ハ事件不明トナ

ルコトアリ。故ニ捜査ハ家屋ヲ見ルカ如ク、其ノ家ノ各室ニ入り疊、壁、戸、障子、棚等ヲ詳細ニ見ルノミニテ其ノ家ノ外部ヨリモ見サレハ、其家ノ形状ヲ明ニシ難ク、尙例ヘハ、書工カ松ノ樹ヲ描クカ如ク松ノ幹ノ形状ヲ明白ニ現ハシ、簡單ニ松葉ヲ現ハシ以テ其幾千ノ葉ヲ察知セシムル如シ、若シ書工ニシテ幾千ノ松葉ヲ悉ク一本ツ、描キタリトセハ、是レ寧ロ甚不体裁ノモノニシテ、拙作ト云フカ如シ。

然ラハ捜査ハ如何ナル程度ノ緻密ヲ要スルヤ、捜査ハ事件ノ骨格ヲ明ニスルヲ必要トスルモノナレハ、之ヲ明ニシ得ヘキ程度ノ取調ヲ必要トスヘシ。

次ニ然ラハ、事件ノ骨格ヲ明ニスヘキ方法如何ト云フニ、是レ各事件ニヨリ一様ナラス。或ハ各事項ヲ緻密ニ觀察シテ、然ル後事件ノ骨格ヲ明ニシ得ヘキ事アリ、或ハ最初ヨリ其事件ノ骨格ヲ推知セラレ次ニ緻密ノ捜査ニヨリ、之ヲ明白ニシ得ヘキ事アリ然レトモ一般的ニハ事件ノ徹底セル觀察ヲ爲シ其骨格ヲ明ニシ得ヘシ。

シ得ヘシ。

以上述ヘタル所ニヨリ推知シ得ヘキカ如ク、捜査ハ少クトモ、犯罪ノ成否迄ノ取調ヲ爲ササル可カラス。若シ犯罪ノ成否不明ノ程度ナルニ不拘、其程度ニテ捜査ヲ止ムルカ如キハ捜査ノ本旨ニ反スルモノナリ。即チ右ノ如ク犯罪ノ成否不明程度ノ取調ナラハ勿論事件骨格ヲモ之ヲ知ル能ハサルモノナリ。今次ニ徹底セサル取調ヲ爲シ、犯罪ノ成否不明ナルニ不拘其程度ノミニ取調ニテ止メタル例ヲ示シ、將來尙取調ヲ徹底セシメ、事件ヲ明ニスヘキコトヲ説明セントス。

一、詐欺事件ニシテ被疑者ハ五月十三日ヨリ約二十日間、宿屋ニ宿泊シ其料金、
、
、
、
ヲ支拂ハス、次ニ六月二十八日ヨリ八日間他ノ宿屋ニ宿泊シ、其料金ヲ、
、
、
支拂ハサルトノ事件ナリ、被疑者ノ聽取書ト宿屋ノ始末書丈ニテ送致アリ。聽取書ヲ見ルニ被疑者ハ第一ノ宿料ニ付テハ自分ハ安田生命保険ノ外交ヲ手傳ヒ居リ、外交監督カラ報酬ヲ貰ツテ宿料ヲ拂フ考テ宿ツテ居

タルモ、外交監督カ報酬ヲ早ク拂ツテ呉レナイ爲メ、宿料ノ支拂遅レタリ、第二ノ宿料ニ付テハ自分ハ第一生命保険ノ外交ヲ手傳ツテ居テ、前ト同シ理由テ宿料ノ支拂遅レタリ。ト陳述シ、宿料支拂ノ意思アリテ宿泊シ居タリ、ト申立テ犯罪ヲ否認シ居ルモノナリ。然レトモ是レ丈ノ取調ニテハ未タ取調徹底セス。犯罪ノ成否ヲ判明セシメス事件送致セラレタリ。

(38)

當局ニテ本件ヲ被疑者所在不明トシ、中止處分ニ付シタリ。凡ソ本件ヲ徹底セシムル爲メニハ、次ノ如キ取調ヲ爲スヲ要ス。

此ノ被疑者ハ保險募集ノ報酬ヲ得テ宿料ヲ拂フ考ニテ宿泊シ居タリ、募集シタルモ、監督カ早ク報酬ヲ呉レナイ爲メ宿屋ノ支拂遅レタリトノ辯解ヲ爲シ居レリ。依テコノ辯解ノ眞僞ヲ明ニスル爲メ、第一ニ被疑者ヲ更ニ詳シク取調サルヘカラス、即何處ノ何人ヲ募集シ、何程ノ報酬ヲ受取ル事ニナツテ居リシヤ等ヲ問ハサルヘカラス。

第二ニ被疑者ハ果シテ右二ツノ會社ノ外交ヲ手傳ヒ居タルヤ、果シテ手傳ヒタリトセハ募集シタルヤ否ヤ、募集シタリトセハ報酬ノ支拂ヲ受ケタルヤ否ヤ是等ヲ右二ツノ會社ノ外交監督ニ付テ取調ヘ明ニセサルヘカラス。

依テ當職ニ於テ安田生命ノ外交監督ヲ取調ヘタルニ同人ハ「本件以前ニ被疑者ヲシテ保險ヲ募集セシメタルモ、當時報酬二十圓ヲ支拂ヒタリ。以後ハ何等ノ關係ナシ、被疑者カ本件當時ハ安田生命ノ外交ヲシテ居タ筈ハナシ」トノ事ナリ。次ニ第一生命ノ外交監督ヲ取調ベタルニ同人ハ「本件以前ニ被疑者ヲ外交手傳ニ使用シ、二拾圓近クノ報酬ヲ支拂ヒ其後ハ被疑者ト關係ナク本件當時被疑者ガ右會社ノ外交ヲシテ居タ事實ハナシ」トノ事ナリ。被疑者所在不明ノ爲メ取調べ難モ右二人ノ證言ニ依リ、前述ノ被疑者ノ辯解カ大体虚偽ナルコトヲ明ニシ置キタリ。其後被疑者ノ所在發見シ、他ノ事件ト共ニ當職ガ取調ヘタルニ、被疑者ハ右會社ノ保險ヲ募集スル意思アリシモ到底募

(39)

集不能ニシテ、右宿料ヲ支拂フ意思ナクシテ宿泊シ居タリ、ト自白シタリ、
二、尙被疑者ヲシテ陳述ヲ徹底セシメサリシ例ヲ次ニ述ヘシ。

詐欺ノ被疑事件、被疑者ハ石工ニシテ昭和七年三月奈良ノ蒲團月賦販賣業者
ニ對シ「三ヶ月々賦ニテ代金ヲ支拂フトノ注文書ヲ送り、蒲團ヲ送ラシメ其
後何回モ支拂請求ヲ受ケ乍ラ一ヶ年半少テモ代金ヲ支拂ハサルトノ事件ナリ
」被疑者ハ代金ヲ支拂ハサリシ理由シテ仕事多忙ノ爲メトカ、送金ヲ忘レテ居
タトカ、都合悪カツタトカ（但都合悪イトノ具体的ノ説明ナシ）其店ガ燒ケ
テ仕舞ツタト思ツタカラダトカ（燒ケタト思ツタトノ理由モ説明ナシ）昨年
末カラ本年迄請求ガナカツタ爲メ、拂ハナクトモ良イト思フニ至ツタ爲メダ
トカ辯解シ送致意見書ニハ「犯意ヲ認メ難シトアリ」然レトモ右辯解ニ悉ク
首肯シ難ク、虚偽ノ辯解ノ如シ。
抑モ本件ニ於テ、詐欺罪トナルヤ否ヤハ被疑者カ注文ノ當時、支拂ノ意思ア

リテ注文シタルヤ、之ヲ明ニスレハ可ナリ。若シ支拂ノ意思アリテ注文シタ
ルモ其後支拂ハサリシトノ事ナラハ犯罪ナシ。之ニ反シ若シ支拂ノ意思ナク
シテ注文シタリトスレハ詐欺罪成立ス。

而シテ品物ヲ受取リシ後代金ヲ支拂ハサリシ行爲ハ主トシテ民事問題ナリ。
刑事々件トシテハ右不拂行爲ヲ以テ支拂ノ意思アリシヤ否ヤ、探求ノ資料ニ
セントスルモノナリ。假リニ支拂ノ意思アリテ注文シタリト辯解セハ「然ラ
ハ何故支拂ハサリシヤノ理由ヲ取調ヘ、右辯解ノ眞偽ヲ明ニスヘキモノナリ。
前記辯解ノ、仕事多忙トカ送金ヲ忘レテ居タトカ請求ナイ爲メ支拂ハナクト
モ良イト思ツタトカ、云フカ如キハ、何レモ探ルニ足ラヌ辯解、即何人ニモ信
用出來ヌ辯解ナリ。即何回モ請求ヲ受ケ乍ラ送金ヲ忘ル、等ナク請求ナイ爲
メ拂ハナクトモ良イト思フニ至ツタト云フモ、請求ヲ受ケテ初メテ支拂フヘ
キモノニアラス、被疑者自身カ三ヶ月ニ拂フトノ注支書ヲ送りシ如ク、初メ

ヨリ請求ヲ待タスシテ、三ヶ月ニ支拂フヘキモノナレハナリ。
被疑者カ徹底セサル、陳述ヲ爲シタル場合ニハ、良ク取調ヘ徹底シタル陳述
ヲ爲サシメ、事件ノ真相ヲ表ハスヘキモノナリ。

本件被疑者ハ代金支拂能力アリシ如シ。而シテ「代金ヲ支拂フ意思ナクシテ
注文シタリ」ト自白セシムル事ハ困難ナラン「犯意ヲ認メ難シトノ意見ハ誤
ニアラサル如シ」。

全様ノ事件ニ付テハ其買受品ノ使用目的及其品物ノ處置ヲ取調ヘ、被疑者ニ
支拂ノ意思アリシヤ否ヤ即犯罪アリヤ否ヤヲ明ニスルニハ被疑者ノ財産收入
所持金、貸金、負債如何、及各月ノ生活費如何等ヲ陳述セシメ尙右注文品ノ代金
支拂ニ付テ若シ近日何ノ某ヨリ受取ルヘキ代金アリシ爲メ、之ヲ以テ支拂ハ
ン考ニテ注文シタリ、ト辯解シ居ルトセハ右某ノミナラス以上各陳述ノ眞僞
ヲ明ニセン爲メ、各證人ノ取調ヲ爲セハ、右辯解ノ眞僞ハ大体明白トナリ、

支拂ノ意思アリテ注文セシヤ否ヤモ判明スルニ至ルヘシ。

被疑者カ二三日中ニ返済スヘシト稱シ、金員ヲ借受ケタル事件カ詐欺トナル
ヤ否ヤ、即二三日中ニ返済ノ意思ナクシテ借受タルヤ、等ニ付テモ大体以上
ノ如ク取調ヘテ可ナラン。

三、尙被疑者ノ陳述抽象的ニシテ簡單ナル爲其意徹底セス、依テ犯罪ノ成否不
明ノ儘送致セラレシ事件アリ。之ヲ次ニ説明スヘシ。

詐欺被疑事件ニシテ被疑者ハ雇人紹介業者ナリ、廿四歳ノ女カ癲癇病者ナル
ヲ知り乍ラ〇〇町ヨリ連レテ來テ池〇町ノ某料理店ニ對シ、右病者テナシ、
ト詐リ酌婦トシテ紹介シ、前借金百三十五圓ヲ受取り、詐欺セシト云フ。被
疑者ノ聽取書ヲ見ルニ其ノ陳述スル所ハ「自分ハ用事アリテ〇〇町ニ行キ
同業者ノ鈴木方ニ立寄ツタ所、同人カラ女一人ヲ紹介シナイカ、トノ話ヲ
聞キ其女ハ少シ變ナ所モアルカ、前借カ僅カ八拾圓テアル、トノ話ノ爲メ

鈴木カラ其女ヲ預ツテ自分ノ家へ連レ歸リ、自宅ニ約一ヶ月泊メテ置キ其後其女ヲ連レテ帶廣へ行キ宿屋ニ泊リ、池○驛前ノ料理店某方へ電話ヲ掛ケ其某ニ右宿屋ニ來テ貰テテ交渉シ、右女ヲ右料理店ニ前借百三十圓ニテ紹介シタリ、自分ハ右ノ女ノ足ニ火傷アルコトハ知ツテ居タルモ、癲癩アルコトヲ知ラサリシ、右前借金ハ鈴木ニモ渡サス全部ヲ自分カ費消シタリ」ト云フニアリ本件ハ未タ犯罪アルヤ否ヤヲ明ニセシテ送致セラレタリ。

即チ本記録トシテハ被疑者及被害者ノ聽取書ノミナリ。

被疑者カ右ノ如ク否認セルニ不拘、他ノ取調ヲセサルハ不可ナリ。
尙被疑者ヲシテ右ノ如ク、抽象的ニシテ其意ヲ徹底セシメサル陳述ヲ爲サシメタルモ不可ナリ。

本件ハ被疑者カ右女ノ癲癩ナルヲ知り居タルヤ否ヤヲ明ニセハ可ナリ。
依テ次ノ如ク取調ヲ爲シ犯罪アリヤ否ヤヲ明ニスヘキモノナリ。

(一)右被害者ノ聽取書ニ依レハ「右女カ被疑者方ニ泊ツテ居タ時モ、二三回癲癩ヲ起シ倒レタ、此ノ事ハ被疑者及其妻モ知ツテ居ル」ト申立テアリ。故ニ被疑者ガ果シテ右ノ如ク知り居リシヤ否ニ付キ、被疑者ト其妻及右女ノ取調ヲ爲シ、之ヲ明ニスベキナリ。

(二)右女ハ○○町ノ何處ヨリ八拾圓ヲ前借シ居タルヤ、是レ右ノ如ク抽象的記載ノ爲メ不明ナリ。依テ○○町ニ囑託捜査モ不能ナリ。尙鈴木トハ○○町何條何丁目ニ居住スルヤ且ツ名ヲ何ト呼ブヤノ記載モナキ爲メ、是亦囑託捜査不能ナリ。

(三)右女ハ○○町ノ某料理店ニ酌婦トシテ雇ハレ、何拾圓カ前借シタルモ、右病氣ノ爲メ、被疑者ニ對シ、他へ鞍替方ヲ依頼セシ如キ疑アレドモ、右ノ如ク抽象的陳述ノ爲メ不明ナリ。依テ是非右疑ヲ明ニスル取調ヲ爲サザルベカラズ。被疑者ニ對シテモ此ノ点ヲ問ハザルベカラザリシモノナリ。

(四)右女ガ〇〇ノ何料理店ニ居リ何ノ理由ニヨリ他へ鞍替スベキ事トナリシヤ等ノコトハ被疑者自身ガ、鈴木及右女ヨリ聞キ了知シ居ル筈ナリ。故ニ此点ヲモ被疑者ニ問フベキモノナリシ。

(五)右女ノ足ニ火傷アリ、此ノ女ハ一ヶ月モ被疑者方ニ居タルニヨリ、被疑者ハ此女ニ對シ「此ノ火傷ノ原因ヲ問ヒシ筈ナリ。換言スレバ其火傷ハ癩癩ヲ起シ、倒レシ節、生ゼシヤノ疑ヲ懷クハ當然ナラン。依テ被疑者ニ對シ、「此ノ火傷ノ原因ヲ此ノ女ニ問ヒタルヤ」ヲモ、取調ベザルベカナズ。然ルニ此ノ点何等ノ取調モナカリシ。

當職取調ノ結果ハ次ノ如シ。

此ノ女ハ美〇町ノ某バーノ女給ヲ爲シ居リ、七拾圓ノ前借アリシモ、右バー主人ハ右女ニ癩癩アルヲ知り三拾圓サへ返濟セバ、良シトノ事ニテ右癩癩ヲ告ゲテ鈴木ニ紹介ヲ依頼シ、鈴木ハ同女ヲ〇〇町ノ某飲食店ニ三拾圓ニテ棲

ミ込マセタルモ、其飲食店ニテモ同女ガ癩癩ヲ起シタル爲メ、鈴木ニ他へ鞍替方ヲ頼ミタリ。依テ鈴木ハ「右女ニ癩癩アルコトヲ被疑者ニ告ゲテ、同女ノ紹介ヲ頼ミ、三拾圓丈自分ニ渡シテ呉レタナラバ良シ、」ト稱シ、同女ヲ被疑者ニ引渡シタルモノナリ。但シ其後、同女所在不明トナリシ爲メ、同女ガ被疑者方ニ於テモ癩癩ヲ起シ倒レタルコトアリヤ、同女ノ足ノ火傷ハ癩癩ヲ起シ倒レタル節、生ジタルモノナリヤハ未ダ判明セズ。

尙次ノ詐欺事件アリ、被疑者ハ洋服注文取ニシテ〇町〇〇屋旅館ニ約一ヶ月宿泊シ其料金……ヲ支拂ハザルモノトシテ、送致セラレタルモ、當時被疑者所在不明ノ爲メ中止トセリ。

聽取書ニ依レバ、被疑者ハ「芭露方面ヨリ受取ルベキ洋服代ヲ拂ツテ呉レナイ爲メ、此宿屋ノ支拂遅レタリ、」ト申立テ、犯罪ヲ否認セリ。

斯ル場合ニハ芭露ノ何ノ某ヨリ何程ノ洋服代ヲ受取ルベキモノアリシヤ、徹

底ノ陳述ヲ爲サシメ、然ル後ニ被疑者ノ辯解ガ僞ナリヤ否ヤ、右人證ニ付テ取調べ明ニセザルベカラズ。

被疑者所在不明ノ爲メ、右辯解ノ眞僞ヲ明ニシ難ク、中止トナレリ。

同様ノ例ハ多數アレドモ一々説明シ難シ。

五、或告訴事件、即チ、所謂、事件屋タル被疑者ガ、告訴人ヨリ雜貨賣掛代金等約七百圓ノ取立方依頼ヲ受ケ、該金ヲ取立テ乍ラ、少シモ告訴人ニ金員ヲ交付セザリシトノ事件ノ送致ヲ受ケタリ。

被疑者ノ聽取書ヲ見ルニ、被疑者ハ右金ヲ取立テタルモ、殆ド費用ニ掛リ、自分ノ手ニ金ノ残ラナイ程デアツタ、少シモ横領ナドシテ居ナイ、トノ陳述ナリ。

當局ニ於テ被疑者ヲ二三回呼出シタルモ、出頭セズ、其中ニ所在不明トナリ、事件ハ止ムヲ得ズ、中止トシタリ。

右搜查ハ甚ダ不徹底ニシテ毫モ要点ニ觸レザルモノナリ。即チ被疑者ガ取立テタル數百圓ヲ費用ニ費消シタリ、トノ辯解ノ眞僞ヲ明ニセズ、尙右陳述ニ依レバ、如何ナル費用ニ費消シタルヤ、抽象的ニシテ不明ナリ。即チ旅館ニ滞在宿泊シテ、右債權取立ヲ請求シ居タルモノニシテ其取立金ヲ受クル迄、何十日、何ケ月間モ宿泊シタルニ因リ、旅館ニ數百圓ヲ支拂ヒタリ、トノ意味ナリヤ、全然不明ナリ。

依テ斯ル場合ニハ何ニ費消シタルヤノ意味ヲ具体的ニ陳述セシメザルベカラズ。而シテ、若シ右ノ如ク旅館ニ滞在支拂ヒタリト陳述セバ、其旅館ヲ取調べ、被疑者ノ辯解ノ眞僞ヲ明ニスベキモノナリ。

次ニ本賣掛代金債務者ノ金策シ得ル迄被疑者ガ、何十日、何ケ月モ、旅館ニ滞在シ、宿泊料ノ多額ニ上ルヲ顧ミズ、同宿泊料ハ自己ノ取立テタル右債權ヲ以テ支拂ハントシ居タルモノナリトセバ、背任罪ニ至ルモノナリヤ、等ニ

付テモ、被疑者ヲ取調べ、其辯解ヲ求メ置カザルベカラズ

第六章 捜査ハ消極方面ヲモ爲スヘシ

捜査ハ積極方面、即有罪ノ方面ノミナラズ、消極方面即罪トナラザル方面ヲモ爲スベシ。蓋シ捜査トハ犯罪アリヤ否ヤヲ明ニスルモノナレバナリ。多クノ場合犯罪アリヤ、又ハ犯人ノ何人ナリヤハ、最初ハ想像、即一ノ見込ナルヲ以テ、捜査セザレバ眞實判明セザルモノナリ、故ニ捜査ハ積極、消極兩方面ニ向ツテ之ヲ爲サザルベカラズ。例ヘバーノ殺人事件アリトスルモ、自殺ナリヤ、過失致死ナリヤ、他殺ナリヤノ各方面ニ向ヒ、取調ヲ爲シ、而シテ自殺ニモアラズ、過失致死ニモアラズトノ證據明白トナラバ殺人事件トシテ、確保セラル、ガ如シ。尙被疑者ト認めラル、者ノ數名アル場合、若シクハ、被疑者ノ否認セル場合等ハ、消極方面ノ捜査モ甚必要ニシテ、其捜査ニヨリ眞犯人ヲ

又ハ犯罪ヲ犯シタル事實ヲ明ニシ得ベシ。消極方面ノ捜査ト云フモ、同捜査中ニハ被疑者ノ正當防衛、誤認、心神喪失等ノ違法阻却ノ事由ヲモ包含スルヲ以テ、是等事由ノ有無モ捜査スベキモノナリ。

第七章 自 白 二 就 テ

自白ヲ爲サシムルヨリモ寧口自ラ出ヅルヲ待ツベシ。

一、被疑者ヲ自白セシムル爲メ「刑ノ輕クナル様ニシテ遣ルカラ」トカ、又ハ「自白セバ歸宅ヲ許スカラ」等ノ誘導方法ヲ用ユルノ不可ナルハ、論ヲ俟タズ、如何ナル犯人ガ自白セザルカハ、一概ニ定メ難シ。然レドモ理性アル者ハ理性ノ乏シキ者ヨリモ否認シ、弱者ト兇暴者ノ何レガ否認スルヤ決定セザルモ、性格ノ惡シキ者ヨリ性格ノ良キ者ガ自白容易ナリ。或ハ取調方ニ不快ヲ感ジ否認スルニ至ル者サヘアリ。而シテ其否認スル心情タルヤ、或ハ罰ヲ

怯ル、ニ在ルカ、或ハ否認シテ罪ヲ免レントスルニ在ルコトアリ。

被疑者ニ眞實ニ陳述セシムル方法トシテ、(檢事安井榮三氏著、捜査ノ槩)第一二九頁ニ「本當ノ事ヲ言ヘヨ、人間ハ美シク生き、美シク死ナネバナラヌ、、、、等ノコトヲ告グベシ」ト記載セラレ、尙次ノ頁ニ「惡イト思ツタラ懺悔セヨ、ソレガ死者ノ靈ヲ慰ムル途デアル、汝ノ罪ヲ償ヒ、汝ノ心ヲ慰スハ、衷心ヨリ懺悔スル事デアル、ト云フ様ニ説クガ、最モ良キ方法ナリ」ト述ベラル。殺人事件等ニ於テハ斯クノ如クスベキモノナランモ、「美シク死ナネバナラヌ」トノ言ハ死刑ヲ想像セシメ、穩當ナラザルヤノ感アリ。

尙右捜査ノ槩第三五七頁終ヨリ次ノ頁ニ「眞ニ自白スル者ハ至純ナル性格ノ所有者カ、將タ勇者ナルベシ」ト記載セラレ、以テ普通被疑者ハ容易ニ告白スルモノニアラザルコトヲ述ベラル。

又同頁ニ自白セシム方法トシテハ「訓戒シテ反省ヲ求ムベシ」ト記載アリ、

又ハ「否認モ辯解モ悉ク採用シ、須ラク捜査ヲ爲シ其否認辯解ノ途ニ立ツベカラザル所以ヲ感得セシメ、徐々ニ自發的自白ヲ待ツベシ、然ラバ遂ニ刀折レ矢盡キテ軍門ニ降ルベシ」ト記載セラル、余モ如斯取調方法ヲ可トスルモノナリ。

然レドモ自白セシムル方法ハ、各被疑者ト各場合ニヨリ同ジカラズ。被疑者ノ否認セル場合大体余ノ從來、採リ來リシ方法ヲ述ベンニ、最初何故ニ「被疑者ガ否認セルヤ」ノ心情ヲ洞察スルコトヲ最モ必要トシ、其心情ハ之ヲ如何ニセバ懺サシメ得ルヤ」ヲ考察シ以テ臨機其否認ヲ懺サシメタルモノナリ。

二、被疑者ガ自白セバ、捜査官ハ甚之ニ安心シ、自白ニ頼リ過キ、精密ノ取調ヲ爲サザルコト多シ。然レトモ、被疑者カ自白ヲ爲スニ至リシハ考慮ノ末ナレバ、被疑者ハ自己ニ都合良キ様ニシテ自白スルコト多ク、自己ニ不利益ナルコトヲ隠蔽シ、又ハ犯罪ノ動機等ヲ詐ル場合少カラス、故ニ被疑者ガ自白

シタリトスルモ濫リニ之ヲ輕信セズ、自白ガ眞ナリヤ、否ヤヲ考察シ或ハ疑アラバ被疑者ノ不利益ノ事項ノミナラズ、利益ノ方面ヲモ取調ヘ、事件ノ真相ヲ究ムルコトヲ忘ルヘカラス。斯クノ如ク捜査シ置カハ、後日自白ヲ取消スコト少ク、若シ自白ヲ取消スモ、其效少カルヘシ。

三、即チ自白當時其自白ニ基キ、更ニ詳細ノ取調ヲ行ヒ、其犯罪ノ動機、其當時ノ一切ノ行爲、犯罪後ノ言動、贓物ノ處分等凡テ明細ノ陳述ヲ求メ、其陳述ニヨリ關係人ヲ取調ヘ、證據物ヲ領置シ又ハ出所ヲ明ニシ場所ノ實況見分等ヲ行ヒ、置カハ後ニ自白ヲ取消スモ、其取消ハ甚信用力少キモノニ終ルヘシ。

尙被疑者否認セル場合ニモ、其否認ノ眞僞ヲ明ニスル爲メ、人的、物的ノ證據ヲ取調ヘサルヘカラス。

四、被疑者カ告白シタルトスルモ、其告白ハ何人ニモ首肯シ得ル事項ヲ告白シ

タルモノニアラサレハ、眞ノ自白ニアラス。

之カ實例ヲ次ニ示サン。

失火事件ニ於テ被疑者ハ五月末日午後二時頃某空家ノ西方十五間先ノ原野ニ於テ、開墾ヨリ生シタル雜草ヲ、燒燬後之ニ土ヲ掛ケ消止メテ歸宅シタリ。

其雜草ヨリ三尺離レ長サ二尺余ノ薪アリシヲ知ラス歸レリト云フ、然ルニ翌日正午頃ニ至リテ、全ク消エシト思ヒシ右ノ殘火カ西風ノ爲メ燃エ出シ、右薪ニ移リ、薪カ燃エ上リ其火ノ粉カ東ノ方ニ十五間ヲ距ル右空家ノ草屋根ニ飛ヒ因テ、右空家ヲ燒燬シタリ、トノ事件ナリ。

意見書同上、但シ聽取書ニハ家ノ北側ノ草圍ニ飛火セリトアリ。

右自白ニ次ノ疑アルヲ示サン。雜草ヲ燒キシ殘火ハ二十時間モ燻リ居タルヤ否ヤ、即チ土ヲ掛ケテ來タ雜草ノ分量ト土ヲ掛ケタル状態トノ取調ナキ爲メ、其時間燻シ居タルヤ不明ナリ。從ツテ果シテ其殘火カ燃エ出シタリ、トノ自白モ

信用シ難シ、又雜草ト薪ノ間ニ何カ媒介物アリシヤ否ヤ、取調ナシ假リニ薪ニ燃エ移リシトスルモ、如何ニシテ燃エ移リシヤ狀況不明ナリ、即風ノ爲メカ、又ハ何カ媒介物ニ因リシヤ不明ナリ。是等ハ右雜草附近ノ状態ノ取調ヲ爲セハ判明スヘキモノナリシ、次ニ薪ハ一本アリシヤ、數十本アリシヤ、散亂セシヤ積マレアリヤ、木ノ種類、太サ、枯レアリシヤ等取調ナク何レモ不明ナリ。本記録ヲ見レハ、數本地上ニ散亂シ居タル如ク想像セラル、而シテ假リニ二三本ノ薪カ地上ニ何寸カ離レ横タハリ在リシトスレハ、假リニ之ニ火カ移リシトスルモ燃エ上ラサルコト普通ナラン。

本件其雜草ガ廿時間モ燻シ居リ、次ニ右火ガ薪ニ移リ薪ガ燃上リ其ノ火ノ粉ガ十五間東方ノ空家ニ飛ビシ事件トスルナラハ、其雜草ハ非常ニ多量トナル。故ニ同雜草ノ二十時間モ燻ジタリトノ狀況ヲ明ニスヘキモノナリ。然ルニ是等ノ点ノ取調ナク、依テ本件ハ信用シ得サル自白ナリ。即自白ニヨリ

犯罪ガ明トナレリト云フ能ハス。

當職捜査セルニ雜草ヲ焚キシニアラズ、雜草ト指大ノ葡萄蔓及ビ、萩小柴ヲ一ヶ所ニ集メ、高サ四五尺ニシ、巾ヲ六尺位ニシテ焚キ、其後鐵ニテ土ヲ四五寸厚サニ掛ケテ消シ、翌朝モ行キ見タルニ全然殘火ナク、灰ト化シ居タリ。

右空家モ草葺ニアラズ、葺葺ニテ僅カ一部丈燕麥穀ナリ。發火点モ屋根ニアラスシテ、空家ノ北側燕麥穀ノ圍ナリ。薪ハ七八年前ニ伐リシ櫓ノ角直徑約一尺ノモノ一本ナリ、此ノ薪ハ半地中ニ埋マリ、半地上ニ現ハレ居タルモノニシテ、地中ニ埋リシ部分ハ甚水分アリ、地上ニ現ハレシ部分ハ乾燥シ居タルモ、朽チ居レリ。被疑者ハ右薪ヲ堀リ起シ萩、柴、葡萄蔓ノ大量ヲ焚キシ節、右薪ヲ附近ニ置キシ爲メ、燃エ移リ永ク燻ジ居リ翌朝風ノ爲メ、右薪ノ火ノ粉ガ空家北側へ燕麥穀草圍ニ飛ビ、同草圍ヨリ發火セシモノナリ。發火点ニ付テハ意見書ハ誤リニシテ聽取書ガ正當ナリ。

本件ハ右ノ如ク、意見書及聴取書ト異リシ事トナレリ。

本件ハ重要事件ニアラサルモ、平素捜査ヲ正確ニシ真相ヲ表ハスコトニ心掛ケンヲ望ム次第ナリ。

五、實例ノ二トシテ自白ニモ疑アル例ヲ示サン。

過失致死、五月中午前八前頃農業ノ母ガ二才ノ長女ヲ自宅蒲團ニ寝カシ、自己ハ四才ノ長男ヲ連レテ自宅ヨリ四十間東方ノ畑ニ仕事ニ行キ居タルニ間モナク、長男ガ歸宅シ自宅ノ風呂場附近ニ落チ居タル燐寸ヲ持チ、長女ノ眠リ居タル右室ニ入り弄火シタル爲メ、蒲團ガ燃出シ長女ハ全十一時頃大火傷ニヨリ死亡シタリトノ事件アリ。

聴取書、意見書モ全様ノ記載。此ノ自白ニ次ノ疑アリ。長男ガ弄火シ蒲團ガ燃エ出サズトハ斷言セザルモ、蒲團ハ容易ニ火ノ移ルモノニアラス。

何カ蒲團ノ附近ニ非常ニ燃エ易キモノアリ、右長男ガ之ニ点火シ然ル後ニ火

カ蒲團ニ移リシニアラスヤ、又ハ然ラスシテ長男ガ何カ、燃エ易キ物ヲ蒲團ノ附近ニ持來リ、之ヲ焚キシニアラスヤ、要スルニ如何ニシテ、蒲團ガ燃エ出スニ至リシヤ、其狀況ノ取調ナキニヨリ蒲團ノ燃出シタリトノ陳述ニハ疑アリ。

他ノ事件ニ於テ被疑者ガ蒲團ノ一端ヲ過ツテ、火氣アル炉ニ入レテ立去リシ過失ノ爲メ、失火ニ及ビシ事例アリシガ、斯ル類ニアラスヤノ疑モ生セリ。

此ノ事件ニ於テ其室ノ状態及蒲團ノ燃エタル状態等ガ、毫モ記録ニ表示ナキ爲メ、右ノ如ク疑ハル、然レドモ實ハ其室ニハ厚サ約三寸ニ燕麥殻ヲ敷キ其上ニ、ゴザヲ敷キタル六疊間ナリ。其長女ハ蒲團ノ中ニ寢居タリ、其燃エ初メタルハ其蒲團ニアラスシテ、其長女ノ枕元ヨリ一尺先ノゴザ及其下ノ燕麥殻ガ發火点ナリ。而シテ其ノ火ガ次第ニ蒲團ニ向ヒテ燒ケ延ビ蒲團ヲ燒ケリ蒲團モ敷キタル下ノ蒲團ガ先ニ燃エ長女ヲ燒ケリ、即仰向ニ臥シタリシ長女

ハ、其身体ノ頭部ヨリ燒ケ初マリ身体右側ヲ燒カレ死亡シ、蒲團、ゴザ、床板ヲモ燒ケ抜キタルモノナリ。是レ等ノ状態ヲ見分シ乍ラ、記録ニ表示セサリシハ甚不可ナリ。

故ニ本燒死ノ原因トシ意見書等ニ、被疑者ハ燐寸ヲ以テ、蒲團ニ燃エ移ラシメト記載セシハ誤ナリ、被疑者ハ弄火シテ如何ニシテ、蒲團ニ燃エ移ラシメシヤ、原因ヲ須ラク記載スヘシ。

即同室及燒死ノ状態ヲ、聽取書又ハ實況見分書ニ明細記載シ、右蒲團ノ燃ユルニ至レル、原因ヲ明ニシ、記録ニハ被疑者ハ「蒲團ヨリ一尺離レタル、ゴザノ上ニテ燐寸ヲ弄シ、ゴザ下ノ燕麥殻ニ發火セシメテ、以テ蒲團ニ移ラシメ蒲團中ノ該兒ヲ燒死セシムルニ至レリ」等記載スヘシ。

六、實例ノ三トシテ被疑者ノ自白ノ偽ナリヤヲ説明セントス。

當職某縣下ニ於テ取扱ヒタル、殺人事件ニ於テ妻子アル甲ナル男カ、夫アル

乙女ト姦通シ、夫ノ朝鮮ニ出稼中ノヲ妊娠セシメタリ。然ルニ夫カ朝鮮ヨリ歸リ、姦通ヲ知り姦通ノ告訴ヲセシ爲メ、姦通ノ二人ハ山ニ逃ケ入り、小屋ヲ建テ之ニ住居シ、男ハ炭燒ニ從事中、女ハ月滿チ出産シタリ、某日男ハ死亡セル出産兒ヲ襁褓ニ包ミ山ヨリ町ニ出テ、某醫師方ニ至リ「死産シタルニヨリ、診斷書ヲ貰ヒタシ」ト申入レタルモ、醫師ノ見タル所ハ「右出産兒ニハ熱湯ノ大火傷アリ、鼻口ヨリ血ヲ吐キ、一見殺害シタリト認メラレシ爲メ警察ニ届出アリ、警察ヨリ當職ニ通知アリ、依ツテ甲男ヲ取調べタルニ「該兒ノ出産スルヤ、直ニ襁褓ニテ鼻口ヲ壓シ之ヲ殺害シ、直ニ熱湯ニ入レタリ、熱湯ニ入レシ理由ハ、該兒ヲ洗フ際誤ツテ熱湯ニ入レ、火傷セシメ過失ニヨリ死亡セシメタリ、ト裝ハン爲メナリ」ト自白セリ。

當職ハ該死体ヲ醫師ニ解剖セシメ且ツ鑑定セシメタルニ「該兒ハ外力ヲ以テ鼻口ヲ壓セラレ窒息死亡スルニ至レリ、其身体ニハ當時熱湯ニヨル、大火傷

アリ、火傷ハ死ノ原因ニアラスト云フ。依ツテ豫審ヲ請求シタルニ、被告人ハ「檢事ニ自白シタルハ、虚偽ノ自白ニシテ、該兒ノ鼻口ヲ壓シタル事モナク、該兒ハ死亡シテ出産シタルニヨリ、温湯ニテ洗ヒタリ、該兒ニ大火傷アリシヤ否ヤ知ラス」ト否認シ、乙女ヲ取調ヘタルモ、被告人ト同様否認セリ愈々公判ニ於テモ、被告人ハ同様否認シ、辯護人ハ「被告人カ檢事ニ自白シタルハ虚偽ノ自白ナリ、其理由ヲ述フレハ、被告人カ襦袢ニテ壓迫シ死亡セシメタル後、該兒ヲ熱湯ニ入レ火傷セシメタリ、ト自白セシモ死体トナリシモノヲ熱湯ニ入ル、モ、決シテ火傷スル道理ナシ、即生活体ヲ熱湯ニ入レタル場合ニハ、火傷生スルモ、死体ヲ熱湯ニ入ル、モ火傷起ラス。斯クノ如クナルニヨリ、死体ヲ熱湯ニ入レタリトノ自白ハ明ニ虚偽ナリ從ツテ壓迫ノ自白モ虚偽ナラン。該兒ノ火傷ニ付テハ、其生存中ニ生セシメタルヤ又ハ生存中何等カノ原因ヨリ生シタルヤ、二者ノ中一ナリ、被疑者即被告人カ何カ過失

ニヨリ、該兒ヲ死亡セシメタルヤモ知レス、被疑者ヲ壓殺シタリトノ自白ニ付テハ、火傷ニ付テ虚偽ノ自白セシ程ノ被告人ナル故、壓殺ニ付テモ虚偽ノ自白ナリト認ムルノ外ナシ。要スルニ此死体ニ熱湯ノ火傷アルハ明白ナレトモ是レ、生存中ノ火傷ニシテ、其火傷ハ直接死亡原因ナラス、今此ノ生存中ニ生セシ火傷カ何ニ依ツテ生シタルヤ之ヲ明ニスル能ハス、被告人ハ「知ラス」ト申立居ルモ或ハ熱湯ヲ温湯ト誤ツテ、該兒ヲ入レシ爲メナリヤ、然レトモ是レ亦明ナラス、該兒ハ火傷ヲ受ケタル後生存シ居リ、何カノ原因ニテ、死亡セシモノナレトモ、死亡原因不明ナレハ、無罪ナリ」ト主張シタリ。依ツテ公判ニ於テ他ノ醫師ヲ鑑定人トシ「死亡後熱湯ニ入レシ場合、果シテ火傷ノ生スルヤ」ヲ鑑定セシメタルニ「死亡後ハ血液循環セス、死体ナル故熱湯ニ入ル、モ火傷起ラス」トノ鑑定アリ。辯護人ノ辯論ハ採用トナリ、無罪ノ判決トナレリ。

死体ニ火傷アリシ一事ニヨリ如斯結果トナレリ。然レトモ是レ誤判ナリ、公判ノ鑑定人ハ法醫學ニ精通セス、誤レル鑑定ヲ爲シタリ、之ヲ知ラス裁判所ハ其儘採用セリ。

無罪判決後、當職ノ鑑定セシメタル醫師ガ某大學、法醫學者タル某博士ニ、手紙ヲ送り教ヲ乞ヒタルニ「死体トナリ數分間ノ間ニ熱湯ニ入ルレハ火傷生ス」トノ教示アリシ爲メ、同醫師ハ公判ノ鑑定人トハ、知合ノ爲メ、之ニ對シテモ、右ノ旨ヲ手紙ニテ申送り、前ノ鑑定ノ誤ヲ指摘シタルニ、謝罪的ノ來信アリシ。

同裁判所、某官ハ右公判ニ於ケル右辯護人ノ主張ヲ大体正當ナリトシ、當職ニ對シ「死体ニ熱湯ヲ掛ケテ火傷カ生セシト思フ程、非常識ニテハ困ル」ト非難シタリ。依テ當職ハ「某官ノ意見ハ誤ナリ、某官ノ尊敬スル右博士モ、死体ニ熱湯ノ火傷生スルトノ意見ナリ」ト述ヘルモ、某官ハ頑トシ、當職ノ

言ヲ容レサリシ。

當職ハ本件被告人ノ檢事ニ對スル自白ハ、眞實ニシテ、信用セラル、モノト認ム。尙右犯罪ノ動機ハ、右出産兒ノ處置ニ窮シタルモノニシテ、其前右男女二人ハ、墮胎ヲ行ハントシ、某樹皮ヲ煎シ飲用シタルモ其目的ヲ達セサリシモノナリ。

七、自白ニモ虚偽アリシ例ヲ次ニ示サン。

被疑者ハ女給タリシモ、兩親ノ爲メ、前借シテ農家ノ雇女トシテ雇ハレタリ然レトモ再ヒ女給ニナラント熱望ノ餘、主家ニ放火シ且ツ主家ノ金側懷中時計ヲ窃取シタリ。以上ヲ自白スレトモ、時計ヲ窃取セシ動機ニ付テハ兩親カ生活ニ困難セル爲メナリト、飽ク迄主張シ居タリ。然レトモ十分取調ヘノ末ニ「時計ヲ盜ミシコト及之ヲ以テ金作スルコトハ兩親ニ告グル能ハス、自分カ女給ニナツテ衣類調達用ニセン爲メ、時計ヲ盜ミシトノ旨」陳述スルニ至

レリ、犯罪ノ動機ニ付テハ尙次ニ述ベシ。

第八章 犯罪ノ原因動機

犯罪ノ原因動機ハ良ク之ヲ取調ヘサルヘカラス。

意思ノ自由ナリヤ否ヤノ問題ハ暫ク措キ、犯罪モ一ノ社會現象ナレハ、一定ノ原因アリテ生ス。故ニ犯罪ノ原因動機ハ、明ニ取調ヘサルヘカラス、若シ其動機ヲ取調ヘサルトセハ、事件ニ根底ナク、甚不安定ノモノト云ハサルヘカラス。其動機ヲ明ニシテ、初メテ事件ニ安定アルコト例ヘハ、根ヲ四方ニ張レル樹木ガ、風ノ爲メニ、容易ニ倒レサルカ如シ。若シ之ニ反シ、動機ノ取調ヘナク單ニ犯罪ノミヲ自白セル事件ハ、後日ノ否認ニ遭ヒ忽不安定トナルカ如シ。尙犯罪如何ニ明白ナリトスルモ、犯罪ノ動機不明ナラハ、起訴不起訴ヲ決定シ難シ。故ニ動機ハ起訴、不起訴決定ノ資料トシテ、取調ヲ必要トスルノミナラ

ス、起訴後ノ科刑モ主トシテ動機ニ因リ量定セララルモノナリ。

實例、某男ナル隱居者ニ雇ハレ居タル女中カ、同家ヲ解雇サレ、之ヲ甚タ不快ト爲シ、其隱居ノ衣類、金銭ヲ窃取シテ、同家ヲ立去リシトノ事件アリトセハ是レ恩義ニ背ク甚不徳行爲ナリ。然レトモ更ニ其動機ヲ深く探究シタルニ、同隱居ハ同女中ト關係シ居リシモ、其女中ニ飽キ、他ノ女中ヲ雇入レテ、同様關係ヲ結ヒ、前ノ女中ヲ解雇シタリ、トノ事情判明シタリトセハ、酌量スヘキモノナリ。

單ニ表面的ノ取調ヲ爲シタルノミニテハ、眞ノ動機ノ判明セサル事屢アリ。右例ノ如キ場合ニ、同女中カ隱居ト關係アリシトノコトハ、之ヲ恥辱ト感シ、極力隱蔽シ容易ニ實ヲ告白スルモノニアラサルヲ以テ、十分取調サレハ判明セサルモノナリ。

第九章 無錢宿泊又ハ飲食若シクハ前借詐欺ノ 捜査方法

一、當管内ニハ無錢宿泊又ハ飲食ノ詐欺事件甚多シ。

其送致サレタル聴取書又ハ訊問調書ヲ見ルニ大部分ノ被疑者ハ「支拂ノ意思アリテ宿泊シ又ハ飲食シタリ」ト辯解シ居レリ。

當職ノ見ル所ニ依レハ支拂ノ意思ナキコト明白ナルニ不拘、何故ニ右ノ如ク辯解シ居ルヤ常ニ疑ヒ居タリ。然レトモ是レ無錢宿泊ナル詐欺罪ヲ解釋スルニ支拂ノ時期ヲ考ヘサル事ヨリ、誤解ヲ生シ居ルニ因ルモノノ如シ。

(無錢飲食モ同様ナレハ以下無錢宿泊ノミニ付キ説明ス)

イ、此ノ詐欺罪ハ料金ヲ支拂フ意思ナキニ不拘、料金ヲ支拂フ如ク装ヒテ、宿泊スレハ是レ丈ケニテ犯罪成立スルモノナリ。即チ支拂フ如ク装ヒ居ルコトカ欺罔手段ニシテ特ニ欺罔手段ヲ要セスシテ犯罪トナル。

而シテ旅人宿ニ宿泊セシ場合ニ何時、宿泊料ヲ支拂フベキモノナリヤト云フニ其債務ノ性質、慣例上其宿泊中ニ支拂フベキモノナリ。此ノ宿泊期間中ニ宿泊料ヲ支拂フ意思アリヤ否ヤヲ取調べ、若シ宿泊期間中ニ料金ヲ支拂フ意思ナケレハ、支拂ノ意思ナキニ歸シ、詐欺罪ハ成立スルモノナリ。

宿泊以後永キ期間ニ料金ヲ支拂フ意思アリヤ否ヤハ、犯罪ノ成否ニハ關係ナシ。故ニ宿泊中ノ支拂期ヲ基本トシテ、料金支拂ノ意思アリヤ否ヤノ、取調ヲ爲スベキモノナリ。

被疑者ニ所持金ナケレハ、支拂不能ニシテ支拂不能ヲ知リツ、支拂可能ノ如ク装ヒ、宿泊セシ場合モ前全様詐欺罪トナル。

以上ハ一般ノ無錢宿泊ノ場合ナリ。

ロ、若シ所持金アルモ支拂ノ意思ナクシテ宿泊スレハ、是レ亦詐欺罪トナル。又所持金ナクトモ「後日支拂フベキ旨」ヲ宿屋ニ申入レ、其承諾ヲ得テ宿泊

スレバ詐欺罪トナラズ。然レドモ是等ハ例外ノ場合ナリ。

次ニ被疑者ハ「他ヨリ金銭ヲ借用シ、若シクハ他ヨリ送金ヲ求め、支拂フベキ意思ニテ宿泊タリシト」辯解スル者アレドモ、是等ハ借用又ハ送金ノ申入レヲ受ケタル者ヲモ取調ベサレハ、右辯解ノ眞偽判明セザルニヨリ、右關係人ノ取調ヲ要ス。然レドモ右辯解ガ眞實ノ場合ニモ、尙詐欺罪ハ成立スル場合多シ、何トナレハ借用又ハ送金ヲ當ト爲シテ、宿泊スルモ果シテ意ノ如ク金策シ得ルヤ否ヤ、未定ノ事ニシテ、若シ金策不能ナラバ支拂不能トナルヲ知リツ、支拂可能ノ如ク装ヒ、宿泊セシモノナレバナリ。以上ハ未必ノ故意アル場合ナリ。

次ニ「後日拂フヘキ事ヲ宿ニ申入レ、其承諾ヲ得ル意思ニテ宿泊シ居タリ」ト辯解スル者アレトモ、果シテ其承諾アルヤ否ヤ、未定ノ事ヲ當トシ宿泊セシモノナルニヨリ、前同様未必ノ故意アル詐欺罪ナリ。

此ノ種ノ犯罪ハ宿泊中ハ勿論、現行犯ニシテ其犯人カ住所不定又ハ逃走シ、若シクハ逃走ノ虞等アレハ逮捕シ得ヘシ。

二、漁夫農夫、土工又ハ酌婦等カ前借金アルニ不拘、逃走シタリ、トノ事件ヲ所謂「前借踏倒」シトシテ其儘ノ記載ニテ、送致スル向アレトモ、是レ丈ニテハ單ニ民事問題ナリ。詐欺犯トナルニハ、前借ヲ爲ス際「雇ハレテ働ク意思ナキニ不拘、雇ハレテ働クヘシ」ト詐リ、前借金ヲ受取リシ行爲アルヲ必要トス。故ニ前借ヲ爲ス際「雇ハレテ働ク意思アリテ、前借金ヲ受取リ、後日ニ何等カノ事由アリテ、前借アル儘、逃走セシハ詐欺トナラス」。通俗ニ「前借ヲ踏倒スト云フモ、一旦生セル債務ハ、踏ミ倒サントスルモ踏ミ倒シ得ヘキモノニアラス、逃走後モ依然債權ハ存續セルモノナレハナリ。」

第十章 窃盜賭博各種違反及ヒ過失犯等ノ 捜査方法

一、窃盜犯ノ如キハ其方法簡單ナルモノ多キモ、被害者ノ面前ニ於テ金品ヲ窃取スルコトハ殆ントナシ。故ニ被害者ハ犯人ノ顔等ヲ知ラズ何人カ窃取セシヤヲ目撃セサルモノナリ。故ニ窃盜犯人取調ニ付テハ、其贓物ノ處分ヲモ詳細ニ取調ヘ、置カサルヘカラス。即チ賣却又ハ入質セシモノトセハ、其買受人、質店等ヲ取調ヘ、若シ第三者ニ與ヘタリトセハ、其第三者ヲ取調ヘ、置カサレハ、後ニ犯人カ犯行ヲ否認セシ場合、事件不明トナル事アレハナリ。(コレ自白ニ關シ、既ニ述ヘタル所ト同様ナリ)。

二、賭博罪ニ付テ、一方ノミカ巧ニ贏チ、多額ノ金錢ヲ得タル場合ニハ、詐欺賭ナルコト應々アリ。故ニ注意シテ之ヲ取調ヘサル可ラス。

詐欺賭博ナリトスルモ、被害者モ、其詐欺ノ方法ニ心付カサリシモノニシテ詐欺ノ犯人ハ極力、詐欺ニアラサルコトヲ争フコト多キモノナレハ、緻密ノ取調ヲ爲シ、其詐欺ノ方法ヲ明ニセザルヘカラス。

三、過失傷害、過失致死、失火等ノ過失罪ニ付テハ、諸君ノ未ダ研究足ラザルモノアルヤニ感ゼラル。

例ヘバ、自動車運轉手ガ飲酒ノ上、運轉シタルニ因リ何々ノ傷害ヲ生ゼシメタリ、又ハ永ク「ストーブ」ノ煙突ヲ掃除セズシテ焚キ居タルニ因リ、煙突ヨリ飛ビシ火ノ粉ニ因リ、何々ノ家ヲ燒燬シタリ等記載スルハ何レモ否ナリ前者ニ付テハ、飲酒ノ場合ハ事故ヲ生ゼシメ易シト云フニ過ギザルヲ以テ、之ト相俟ツテ、他ニ過失ノ原因ヲ求メテ之ヲ明ニセザルヘカラス。

後者ニ付テハ、永ク掃除セザレバ煙突ヨリ火ノ粉ノ飛散スベキハ、社會通念上認めラル、モ、單ニ掃除セザル爲メ、火ノ粉飛散シテ家ヲ燒燬シタリ、ト

爲スノミニテハ、未ダ過失ヲ明示シタルモノニアラズ。故ニ斯ル場合ニハ、例ヘバ、被疑者ハ二十日前ニ煙突ヲ掃除シタル「ストーブ」ヲ焚キ居タルヲ以テ同煙突ヨリ火ノ粉ノ飛散シ居タルニ不拘不注意ニヨリ其飛散ヲ豫見セズ、若シクハ、被疑者ハ二十日前ニ掃除ヲ爲シタル「ストーブ」煙突ヨリ、火ノ粉ノ飛散スベキヲ豫見（想像）シ得タルニ不拘、不注意ニヨリ、之ヲ豫見セズ、其儘「ストーブ」ヲ焚キ居タルヲ以テ、同煙突ヨリ飛散セシ火ノ粉ガ、其南方何間ヲ距ル何葺屋根ニ至リ、同所ヨリ發火セシメ過ツテ同家屋一棟ヲ燒燬シタリ、等記載スヘキモノナラン。

尙失火事件ニ付キ「ストーブ」ヲ焚キシ場合ニハ、十分注意セザレバ危険ナリシニ不拘、不注意ニ「ストーブ」ヲ焚キ居タルヲ以テ、其煙突ヨリ出デシ火ノ粉ニ因リ、何家ヲ燒燬シタリ、トノ送致意見書アリシモ、是レ甚不可ナリ。

又自動車運轉手が其前方ニ通行人ヲ認メ乍ラ、相當注意ヲ爲サズシテ進行シ右ノ者ニ接近シタル際、操縦ヲ誤リ同人ノ背部ニ同車体ヲ突キ當テ何々ノ傷害ヲ加ヘタリ、トノ送致意見書アリシモ、是レ亦否ナリ。過失ノ表示ナケレバナリ。

斯ル場合ニハ、例ヘバ被疑者ハ其ノ前方二十間ヲ距ル道路ノ中央ヲ行ク、通行人ヲ認メタルモ、同人ノ左右何レニ避クヘキヤ豫測シ得サルニ不拘、同人ニ接近セシ際、不注意ニヨリ同人ノ左側ニ避クベシト速斷シ、該車ヲ右轉セシメタルヲ以テ、忽チ同人モ亦右側ニ避ケシニ因リ、同車前車体ヲ同人ノ背部ニ衝キ當テ過ツテ、同人ノ何部ニ何々ノ傷害ヲ加ヘタリ、ト云フカ如ク、記載等爲スヘシ。即右過失ハ、右通行人ノ左右何レニ避クヘキヤ、豫測シ得サルニ不拘、左側ニ避クヘシト認メシガ、過失ナリ。

本書末尾ニ掲クル、過失犯ノ書例ハ、其記載方ノミナラス、尙過失ノ認メ方

及表示方ニ付テモ参照セラレタシ。

今次ニ過失ノ認メ方及ヒ表示方ヲ述ヘン。

イ、實例一、某病院ノ失火事件ニ付キ「被疑者ハ窓カーテン、ヲストーブ煙筒ノ直後ニ寄せテ、火災ヲ發見スル迄、同室ノ見廻リニ赴カサリシ爲メ、煙筒眞赤トナリ、右カーテンニ燃エ移ラシメ、」トノ意見書及聽取書記載ニテ送致セラレタリ。

之ヲ一言ニテ評スレハ、出火ノ原因タル行爲等、外形ノ説明ナレトモ、過失ノ説明ニアラス。尙以下ニ少シク之ヲ述ヘン。

窓ノ「カーテン」ヲ煙筒ノ直後ニ寄せタル事ヲ出火原因ト認メタルヤ、又ハ「カーテン」ヲ煙筒ノ後ニ寄せ、尙煙筒ノ灼熱スル迄「ストーブ」ヲ焚キシ事ヲ出火原因ト認メタルヤ、若シクハ「カーテン」ヲ煙筒直後ニ寄せ、煙筒ノ灼熱スル迄焚キ、尙其後ノ見廻ニ赴カサリシ、各所爲ヲ併セ、出火原因

トセルヤ、其記載方必シモ明ナラス。

若シ前者ノ如キ行爲、即チ「カーテン」ヲ煙筒ノ直後ニ寄せタルヲ出火原因セシトセハ、右ノ如ク記載スヘキニアラス、之ヲ例示セハ被疑者ハ「カーテン」ヲ煙筒ヨリ僅カ一尺位離レタル箇所ニ集メタルヲ以テ、同煙筒灼熱ノ爲メ右「カーテン」ノ發火スベキ危険アリシニ不拘、不注意ニ因リ、右危険ヲ認識セス、其儘同室ヲ立去リシテ以テ、右煙筒灼熱ノ爲メ右「カーテン」ニ發火セシメ云々、」ト記載スベキモノナラン。

然レドモ「カーテン」ト煙筒トノ距離一尺ナリトセバ、單ニソレノミニテ常ニ「カーテン」ノ發火スベシ、トハ言ヒ難ク、尙火力ノ強度ニ及ビシ事由ヲモ説明セザレバ、右例示記載ノ如キモ正當ナラズ。即チ右距離ノミヲ以テ常ニ「カーテン」ノ發火スヘキヤ一概ニ、之ヲ定メ難キモノナレバナリ。若シ「カーテン」ヲ煙筒直後ニ寄せ、尙煙筒ノ灼熱スル迄「ストーブ」ヲ焚

キシヲ。出火原因ナリトセバ「被疑者ハストーブニ過量ニ石炭ヲ焚キ、煙筒ノ灼熱セラルル事トナリシヲ以テ、其火力ニヨリ、同煙突ト僅カ一尺離レタル「カーテン」ニ燃エ移ルベキ危険生ゼシニ不拘、不注意ニ因リ右危険ヲ認識セズ、其儘同室ヲ立出テシ爲メ、ト記載スヘキモノナラン

本件送致意見書等ヲ見ルニ、右出火原因ナリトシ、被疑者ノ作爲、不作爲（即行爲）等ノ記載アルニヨリ、通俗ニ言ハバ、出火原因ヲ明ニシタリト言ヒ得ベキモ、法律的ニハ、右ノ如キ外形ノ陳述記載ノミニテハ、過失ノ表示ナシ、ト云フノ外ナシ。

若シ本件ノ火災ヲ發見スル迄、被疑者ガ、見廻リニ赴カサリシ不作爲ヲ過失ナリトセバ、是レ甚誤ナリ。

若シ右ノ如キ、意見ナリトセバ、何等カ見廻ニ赴クベキ危険事項アリシトノ意味トナリ、然ルニ其見廻ニ赴カサリシニ因リ、出火ニ及ベリトノ意味トナ

ラン。果シテ然ラバ見廻ニ、赴カザリシ不作爲ヲ過失ナリ、ト云フ意味ニアラズシテ、却ツテ右危険事項ヲ生セシメタルコトニ失火原因アリ、トスルカ若シクハ、其危険ヲ認識シテ見廻ニ赴クベキモノナルニ不拘、之ヲ認識セザリシヲ以テ、見廻ニ赴カザリシトカ、ノ意味トナラン。

依テ結局是亦過失ノ表示ナカリシト云フニ歸スベシ。

斯クノ如シトセハ、何々ノ危険アリ、ニ不拘、不注意ニヨリ、其危険ヲ認識セサリシ過失ニヨリ、其後見廻ニ赴カサリシヲ以テ云々トスヘキカ、正當ナラン故ニ見廻ニ赴サリシ不作爲カ、過失ニアラサルコト明ナラン。

尙一言セハ「ストーブ」ヲ焚キ、單ニ見廻ニ赴カサリシ不作爲ノミニテハ、常ニ出火ヲ發生セシムヘシトノ社會實驗則モナシ。

（本件ノミナラス、他ノ失火ニ付テモ、見廻不參ヲ以テ、過失ト誤認シ、送致アリシ事アリ、故ニ斯ル場合ハ、他ニ過失ヲ求メサルヘカラス）

依テ之ヲ觀ルニ、本件ノ送致意見書等ハ、法律上ノ過失ノ觀念ヲ誤解セルニ因ル如シ。本件ハ左ノ如ク認ムルカ正當ナラン。

被疑者ハ「ストーブ」ニ多量ノ石炭ヲ焚キタルヲ以テ、右「ストーブ」ノ灼熱シ、其火力ニヨリ同「ストーブ」ト僅一尺離レタル、窓枠及「窓カーテン」燃焦スヘキ危険アリシニ不拘、不注意ニ因リ、右危険ヲ認識セス、其儘同室ヲ立去リシ爲メ、右火力ニヨリ、右枠及「カーテン」ノ燃焦之ヨリ發火セシメ、過ツテ、、、ヲ燒燬シタルモノナリ、ト。

過失ハ一ノ精神作用ナルヲ以テ、各事件ニ於テ如何ナル精神作用ノ過失ナリヤヲ。之ヲ具体的ニ明ニ表示スヘキモノナリ。

ロ、實例二

尙或ル住宅失火事件ニ付テモ、屋根裏ヲ貫通セル「アスベスト」煙筒ヲ永ク掃除セス、之ヲ検査セサリシヲ不注意トシ、因テ同「ストーブ」ヲ焚キ居タ

ルヲ以テ、屋根裏ノ煙筒ノ龜裂ノ生セシ箇所ヨリ火氣漏レ、同所ヨリ發火セシメタリトシテ、事件送致アリシモ、過失ノ認メ方ヲ前同様ニ誤リシ如ク、過失ノ表示ナシ。

煙筒ヲ永ク掃除セサリシトセハ、出火ノ可能性多シトスルモ「永ク煙筒ヲ掃除セサリシ事ノミヲ以テ、常ニ出火ニ及フヘシ」トノ社會實驗則ハナキニヨリ、右ノ如ク掃除セサリシ事ノミヲ、出火ノ原因トスルハ、不確實ナリ。尙其掃除セサリシ不作爲ヲ過失トスルハ、更ニ誤レリ。

即チ其掃除セサリシ理由ノ取調ヲ爲シ、其取調ヘニヨリ、過失アリヤ否ヤヲ明ニスヘキモノナルニ、其取調ヘナカリシニヨリ、結局過失ノ表示ナカリシモノナリ。尙故障ノ生ゼシ理由ニ付テモ、取調ナシ。

當局ニテ取調べタルニ、被疑者ハ、アスベスト煙筒ハ他ノ煙筒ト異リ、數年掃除セザルモ可ニシテ、掃除セザリシハ失火原因トナラズ、同煙筒ハ耐

久性アリ完全ノモノニシテ殆ド検査ノ必要モナク、永ク検査セザルモ、失火原因トナラス、焚物ハ完全ニ燃燒スベキ鋸屑ヲ使用セシ等、申立ツ。

永ク煙筒ヲ検査セザリシ不作爲モ亦決シテ過失ニアラズ、永ク検査セザリシトキハ煙筒ニ故障ノ生ゼシヲ發見シ難キコトアラシ。

而シテ其故障ヲ發見セズシテ、ストーブヲ焚キ居ラバ、失火ニ及ブコトモ多カラシ。

尙検査ヲ爲シ故障ヲ發見シ乍ラ、其修理ヲ怠リシ場合ニモ失火ニ及ブコトアルベシ。

以上ノ如クナルニヨリ検査セザル一事ヲ以テ、必ズ失火ノ原因ナリト斷定シ難キコトハ説明ヲ要セザルベシ。

本件ニ於テ被疑者ガ、果シテ検査ヲ爲サズ依テ故障ヲ認メザリシヤ、又ハ検査ヲ爲シ、故障ヲ發見シタルモ、修理ヲ怠リ居タルヤ、眞實ハ必シモ明白ナラズ。

ラズ。

而シテ本被疑者ガ「煙筒検査ヲ爲サズ、依テ故障ヲ發見セス「ストーブ」ヲ焚キ居タルニヨリ、失火ニ至ラシメト認メ、以上ノコトヲ失火ノ原因ト爲シタルハ、通俗的ニハ了解シ得ベシ。

然レドモ法律的二ハ、未ダ正確ナラス。即右觀察ハ、検査ヲ爲シタルモ、故障ヲ發見セサルコトアルヲ考ヘス、又ハ検査ヲ爲サスシテ、故障ヲ發見シ得ルニ不拘、故障ヲ發見セサルコトアル等ヲモ、閑却シ居レバナリ。

ハ、過失ヲ通俗ニ、注意散漫ト云フハ誤ニアラス、然レドモ法律上、過失ヲ定義スレバ左ノ如シ。

過失トハ、犯罪構成事實ヲ認識シ得ルニ拘ラズ、之ヲ認識セサルヲ云フ。故ニ認識シ得サルヲ、認識セサルハ、過失ニアラスシテ不可抗力ナリ。

ニ、(本件モ、他ノ件、例ヘバ煙筒ヲ掃除セサル爲メ、火ノ粉ガ飛散シ居タル

ニ不拘、不注意ニヨリ、右飛散ヲ認識セス「ストーブ」ヲ焚キ居タルニヨリ同煙筒ヨリ火ノ粉飛散シ（、、、ニ準シテ、事件ノ取調陳述等ヲ爲サシムヘキモノナリ）

本件ハ屋根裏ニ接スル「ストーブ」煙筒ニ龜裂生シ、同龜裂ヨリ、火氣漏レ居タルニ不拘、不注意ニヨリ、右火氣ノ漏レ居タルヲ認識セズ、其儘「ストーブ」ヲ焚キ居タルヲ以テ、右屋根裏板ニ發火セシメ、過ツテ、右住宅ヲ燒燬シタリ、トスヘシ。即火氣ノ漏レ居タルヲ認識セサリシヲ過失トスルカ又ハ煙筒ニ生セシ故障ヲ認識セサリシヲ過失トスヘキモノナリ。

ホ、以上述べ來リシ所ニヨリ、作爲又ハ不作爲、即行爲ガ過失ニアラザルコト明白ニナリシト思料ス。即チ、過失トハ、有形ノ作爲又ハ作爲ニアラスシテ、無形ノ精神作用ナリ。過失ノ無形ナル点ハ、故意ト同様ナリ。

過失犯モ意思ニ基ク行爲ナルヲ以テ、其意思作用ヲ明細ニ表示シテ初メテ、

過失アリヤ否ヤヲ知り得ベシ。

四、漁業法違反及狩獵法違反事件等ニ付テモ、其捕獲ニ使用シタル物件及ビ捕獲物ヲ領置スベク、若シ領置シ得サルトキハ、其物件ヲ如何ニ處分シタルヤニ付キ、關係人ヲ取調べ、明ニシ置クヲ要ス。

度量衡法違反ニ付テハ、其度量衡器ハ刑法第十九條規定ノ犯罪組成ノ物件ナルニヨリ、必ズ之ヲ領置スルヲ要ス。然ラバ果シテ不正ノ衡器ナルヤ否ヤ判定シ難シ。文書偽造罪、出版法等亦全様ナリ。

賭博犯ニ付テハ、賭具及ビ賭錢ヲ領置スルハ、常ニ諸君ノ實行セルガ如シ。

第十一章 正當防衛ハ刑法ノミナラス、盜犯防止法等ニ依リテモ之ヲ解釋スヘシ。 盜犯防止法ヲ説明セン。

正當防衛ニ付テハ、從來ハ、急迫不正ノ侵害アレハ、之ヲ排除スル爲メ、加害行爲、即正當防衛行爲ヲ行ヒ得タルモノナリ。刑法第三十五條、

然レドモ、盜犯防止法ニ依レバ、正當防衛ヲ必スシモ、右ノ如ク解釋スルヲ得ザル如シ。

同法第一條ニ依レバ生命、身体又ハ貞操ニ對スル、現在ノ危険ヲ排除スル爲メ次ノ場合人ヲ殺シ又ハ傷害ヲ加フルモ、正當防衛ナリト云フ。

- 一、盜犯ヲ防止又ハ賊物ヲ取還セントキ
- 二、住居等ニ侵入スル者ヲ防止セントスルトキ
- 三、住居等ノ侵入者ヲ排除セントスルトキ及要求ヲ受ケテ退去セサル者ヲ排除セントスルトキ

故ニ例ヘバ、強盜押入り、既ニ財物ヲ得タル後、或ハ婦人ノ顔ヲ猥リニ覗キ込ミ或ハ強盜ガ警察ニ申告セラル、ヲ恐レ、其家人ノ身体ヲ勾束スルガ如キ、狀

況ニアルトキハ、右法條ノ正當防衛ヲ行フ要件具ハリシモノトシ、強盜ヲ殺傷スルモ罪トナラサル如シ。

尙例ヘバ、夫ハ妻カ強姦セラル、ヲ目撃シタルトキハ、其犯人ヲ殺傷スルモ右同様罪トナラス、ト解スヘキ如シ。

次ニ同法第一條、第二項ニ依レハ現在ノ危険ナキモ、行爲者カ、恐怖、驚愕、興奮又ハ狼狽ニ因リ、現場ニ於テ犯人ヲ殺傷スルモ、罪トナラス、ト規定セリ例ベバ労働爭議ノ代表者ガ、工場主方ニ至リ交渉中、途ニ口論ニ及ヒ、代表者カ工場主ニ鐵拳ヲ加ヘントセシ爲メ、工場主ハ退去ヲ要求シタルモ、之ニ應セサル爲メ、興奮ノ極、之ヲ殺害シタリトセン、此ノ場合モ罪トナラスト解スヘキ如シ。

更ニ例ヘハ、賊カ妻ノ貞操ヲ汚シ、最卑何等欲望ナク、悠々トシテ立去ラントスルヲ目撃シタル主人ガ、何等ノ危険ナキヲ知り乍ラ、憤懣ニ堪ヘス、追跡シ

テ右賊ヲ殺害セシトセン、此ノ場合モ右同様ナラン。
正當防衛ハ以上ノ如クナルヲ以テ、傷害罪、住所侵入、窃盜犯等ノ取調ヘニ於
テハ其解釋ヲ誤ラヌ様注意セラレンコトヲ望ム。

第十一章 放火犯ノ動機等

放火犯ノ取調方法ニ付テハ、既ニ「捜査ノ緻密ヲ要スル」旨ヲ説明シタル節、
述ヘタルニヨリ、再ヒ述ヘス。

一、放火狂ナル名稱ハ一八二四年、裁判官プラトネル氏ノ附シタルモノナリ。
同氏ハ放火犯中少年少女ニ依ツテ、行ハル、モノハ憤怒、怨恨、報仇等ノ目
的ナク、本人ニ取リテモ何等利益ナク且ツ其實行ノ際、何等顧慮ヲ拂ハス、
常識ヲ以テハ利斷シ難キモノナル事ヲ、特徴トスルモノナリ。ト此ノ說ハ一
時學界ヲ風靡シタリ。

然レトモ其後精神病学ノ發達ニ伴ヒ、カスベル氏等多クノ學者ハ放火狂ナル
特種ノ疾患ノ所在ニ疑義ヲ生シ、遂ニ放火狂說ハ否定サル、ニ至レリ。

二、放火ノ動機ハ種々ニシテ一括スル能ハス、動機ハ甚輕微ニシテ、或ハ病的
ノモノヲ含有スルモノモアリ。放火ノ手段ハ多クハ甚タ簡單ナリ、故ニ其物
的證據ヲ舉クルコトモ困難ノ場合多シ。

檢事、市川季熊氏ハ大正十年ヨリ全十四年迄、全國ニ於テ第一審ニテ有罪ト
ナリシ、放火事件數及原因ヲ司法研究資料紙上ニ次ノ如ク掲ゲ居レリ。

怨 恨 六一九

憤 怒 三九八

出來心 二九七

利 欲 (多ク保險金詐欺) 二七七

嫉妬痴情 一七五

實例及ビ統計等ヨリ考察スレバ、放火ハ衝動性行爲ニ陥リ易キ、精神不健全者ニ多キコトハ爭ハレス。尙放火ニ興スル特異疾患患者アルヲ認メ得ルモ、之ヲ放火狂ナル特殊ノ精神病者ナリト爲ス能ハサル如シ。

一八八五年、ブルトメンシュトック氏ハ、內的ノ低抗シ難キ暴力ニ衝動セラレ、火焰ヲ見テ大ナル快感ヲ覺ユル事ヨリ、屢々放火シタル少女ニ對シ、之ヲ放火狂ナリトシ、尙總テノ兒童ハ、經驗上放火狂ナリトシ、兒童ノ精神ノ不完全ナル程不用意ニ火ヲ亭樂スルモノナリ、初メハ不確實ナル衝動トシテ現ハレ、次ニ若キ女性ガ性的發育障礙ニ影響セラレ衝動ガ高メラレ、僅カノ事ヨリ、放火行爲トナリテ現ハル、モノナリ、ト言ヘリ。

兒童ガ總テ放火狂ナリトハ過言ナレトモ、同氏ノ說ニハ玩味スヘキモノアリ次ニ小官ノ取扱ヒタル、主ナル放火事件ノ動機ヲ述ベシ。

(一) 或ル妻カ他ノ女ノ爲メ、惡口ヲ言ハレシヲ聞キ右ノ女ト口論シ、遂ニ同女ノ家ニ放火シタリ。

(二) 或青年ガ娼妓ニ熱中シ互ニ無理ノ金作ヲシテ、馴染ヲ重ネ居タルニ、或日其青年ガ所持金ナク、娼妓ノ許ニ至リ登樓ヲ乞ヒシ處娼妓ハ金策ハ出來ヌカラ歸ツテ吳レト、言ヒシ爲メ、其青年ハ娼妓ノ變心ヲ疑ヒ、其妓樓ニ放火シタリ。

(三) 或ル男ガ僅ノ金ヲ或ル者ヨリ、支拂ヲ受クル約束トナリ居タリ。然ルニ其者ハ支拂ハザル爲メ、他人ノ面前ニテ其者ニ支拂ノ請求シタルニ、却ツテ罵倒セラタリ。

依テ之ニ憤慨シテ、其者ノ家ニ放火シタリ。

(四) 保險金騙取ノ目的ニテ放火ス。

(五) 或ル男ガ、其妻ガ附近ノ男ト姦通シ居ルヤヲ疑ヒ、其男ノ家ニ放火シタリ

(六) 或ル男ガ村役場ヨリ滯納税差押處分ヲ受ケタリ、ソレ迄ニ其村ニ於テハ村費ヲ以テ倉庫ヲ造リ置キシモ、其倉庫ヲ殆ド使用セズ。

依テ被疑者ハ村當局ガ費用ヲ掛ケテ無用ノ倉庫ヲ造リ乍ラ、僅ノ滯納ノ爲メ差押ヲ爲ストヲ不都合トシ、右倉庫ニ放火シタリ。

(七) 十七才ノ少女ガ、カフエーノ女給ヲシタル事アリシモ、兩親ノ爲メ某農家ニ雇ハレ、働キ居タルモ、再ビ女給ニナラント熱望シ、之ヲ遂ゲンニハ、其農家ニ放火セバ可ナリト認メ之ニ放火シタリ。

(八) 火災ニ興味ヲ感シ放火ス。

第十三章 少年犯ハ特別取扱ヲ必要トス

少年犯ノ被疑者一人ノミヲ取調べ、送致スル向アレドモ、不可ナリ、少年犯ハ起訴、不起訴ニ拘ラス、保護シ遷善セシムルヲ目的トス。

少年ハ如何ニシテ犯罪ヲ犯スニ至リシヤ、其動機原因ヲ詳カニシ、養育ハ兩親ノ手ニテ爲サレタルヤ、兩親兄弟等ノ有無、夫レ等ノ者ノ地位、職業、財産、家族及ビ其少年ノ學業、素行、心神ノ發育及經歷等ヲ取調べ、家庭ノ欠陥ニ基クモノナリヤ否ヤ、且ツ從來監督宜シキヲ得タルヤ否ヤ、將來何人ノ監督ニ委セハ、保護遷善ノ目的ヲ達シ得ルヤ否ヤ、而シテ其適當トト認メラル、監督者ガ、果シテ監督ヲ引受クベシト陳述シ居ルヤ否ヤ、斯クシテ被疑者ニ矯正ノ可能性アリヤ等ヲ取調べ、是等ヲ記録ニ表示シテ送致スヘキモノナリ。

監督者ハ主ニ兩親、親族、雇主等ニ付キ詮議スヘキモノナリ。
尙少年法ヲ參照スヘシ。

第三篇 法醫學ト捜査

第一章 一般論

第一、法醫學ノ意義ト沿革

法醫學ノ意義。人ノ肉体、生命、精神ニ關スル法律上ノ事件ニ付キ、之ヲ醫學ニ依リテ、明ニセントスル科學ヲ謂フ、故ニ犯罪捜査上法醫學ノ必要ナルコトハ言ヲ俟タス。

一、西洋ノ沿革

法醫學ハギリシヤノ聖醫ト稱ヘラレシ、ヒポクラテスガ、法醫學的問題ヲ取

扱ヒシヲ以テ其濫觴トス。例ヘハ女ハ受胎シテ二百八十日ヲ妊娠期間トシ、之ニヨリ其女ノ分娩シタル兒ヲ、何レノ男子ノ兒ト認ムヘキヤヲ、決定シタル等ノ事ヨリ始マル。

其後、漸次ニ法醫學ハ進歩シ、之ヲ歴史的ニ應用セラレタルハ、彼ノシーザーノ殺害セラレシ時ナリ。

シーザーハ二十數ヶ所ノ刺創ヲ受ケ死亡シタリ。

依テ、シーザーニ致死傷ヲ與ヘタルハ、何人ナリヤノ問題ヲ生ジ、遂ニシーザーノ胸部ニ刺創ヲ加ヘタル者ガ、彼ヲ殺シタル第一ノ殺人者ナリト決定シタリ。

其後、法醫學ハ尙、研究セラレ實際、之ヲ法律上應用スルニ至リシハ、千五百三十二年獨逸ノカール五世ガカロリン法典ヲ制定シ「醫學ニ關スル裁判ニハ醫師ニ立會セシムヘシ」ト、規定シタル時ニ初マル。

其後法醫學が裁判上ニ應用セラレ、解剖モ行ハルルニ至リ、今ヨリ約百年前
オースタリーノウキンナ大學教授エドワードホフマン氏が、系統的法醫學著
書ヲ刊行スルニ至リシモノナリ。

二、東洋ノ沿革

世界最古ノ法醫學ノ著書ト稱セラル、**「洗冤錄」**ハ約七百年前支那ニテ刊行
セラレシモノナリ。

之ニ依レハ、親子ノ鑑別方法ニ、滴血法ト稱シ、親骨ニ子ノ血液ヲ滴ジ、其
ノ血カ滲ミ行カハ、親子關係アリ、又ハ親子ノ血液ヲ採リ之ヲ混シテ合血ス
レハ、親子關係アリトスル合血法ヲ用ヒシモノナリ。

次ニ**「平冤錄」**ナル書籍著述セラル。

明ノ時代ニ至リ、王與カ前二者ヲ參考トシ、**「無冤錄」**ヲ著ハシ同書ハ最近迄
採用セラレ居タリ。

無冤錄ハ足利時代ノ終ニ、我國ニ傳ハリ譯シテ之ヲ、無冤錄述ト云ハル、德
川時代ニ於テハ同書ハ裁判及捜査ノ唯一ノ寶典トシ重ンセラレタリ。

同書ニハ、例ヘハ死体ノ咽喉ニ銀ノ簪ヲ刺シ置キ、其黒色ニ變スレハ中毒死
ト認ムヘシ、若シクハ、絞殺サレシ死体ハ、舌ヲ嚙ミ死シ居ル等、記載サレ
居ルモノナリ。

學校ニ於テ法醫學ノ講述セラレタルハ、明治十四年東京帝國大學ニ於ケル、

片山國嘉氏ヲ以テ嚙矢トス。

第二、兇器其他ノ物件ニ被害者ノ毛髮等、附着セルヤヲ察知シ依テ、如何ニ犯罪
ノ行ハレタルヤヲ明ニスヘク、尙毛髮ニハ各種アルヲ以テ如何ナル箇所ニ生
ゼシモノナリヤヲ明ニスヘシ。其生セシ箇所ニヨリ各形狀ヲ異ニスレハナリ
一、捜査ノ場合、兇器等ニ毛髮附着スルコトアルニヨリ、之ヲ發見セハ出來得
ル限り大切ニ保存スヘシ。毛髮ハ一見強韌ニシテ損傷セサル様ナルモ、急ニ

折曲セハ破損スルコトアリ、故ニ大切ニ試験管又ハ罫等ニ入レ保存スヘシ。
顯微鏡ヲ以テ毛髮ヲ見ントセハ、先ヅ毛髮ヲ兩方ニ引キ急ニ銳利ノ缺等ニテ
切斷シ断面ヲ現ハスモノナリ。

二、毛髮ノ構造ヲ述フルニ毛髮ハ、表皮ト髓質トヨリ成ル、人ノ毛髮ハ表皮甚
薄ク髓質ハ緻密ナリ。之ニ反シ獸毛ハ毛髮太ク表皮ハ薄カラス、髓質モ粗ナ
リ。

人毛ナルコト判明セハ、其毛ハ頭髮ナリヤ、腋下ノモノナリヤ、陰毛ナリヤ
等ヲ明ニスヘシ。毛髮ノ断面カ圓形ナラハ頭髮ナリ、幾分多角形ナラハ鬚ナ
リ、隋圓形ナラハ陰毛ナリ、ト 大体認メ得ヘシ。

三、尙義毛ナリヤ、白毛染ヲ施シタルモノナリヤモ、専門家ヲシテ鑑定セムヘ
シ。理髮シテ間モナキ毛髮ナリヤ、若シクハ頭髮ニ油ヲ使用シ居タルモノナリ
ヤ、等モ調査シ置クヘシ。

第三、血液附着ノ状態ヲ見テ、如何ニ犯罪ノ行ハレシヤヲ、察知シ得ヘシ。

一、血痕附着ノ状態ヲ知ル事ハ捜査上、甚必要ナリ。血液附着状態ヨリ或ハ高
所ヨリ落チシヤ、低所ヨリ落チシヤヲ知リ、或ハ起立中ニ生セシヤ、急斜面
ヨリ流下セシヤ、若シクハ横臥中ノ出血ナリヤ、等ヲ知リ得ヘシ。

今左ニ各血痕ノ形状ヲ示シ、其血痕ハ如何ニシテ生セシヤヲ明ニセントス。

！ ハ動脈ヨリ迸出シタル場合ナリ。

● ハ徐々滴下ノ場合ナリ。

★ ハ稍高所ヨリ滴下ノ場合ナリ。

┆ ハ急斜面流下ノ場合ナリ。

┆ ハ緩斜面ヲ徐々流下ノ場合ナリ。

二、血液ト柿澁トハ酷似セルモノナレハ、注意ヲ要ス。

血液ナリヤ否ヤヲ知ル豫備検査トシテ、最モ簡單ナル方法ハ、三十パーセン

トノ、オキシソルヲ血液ト思ハル、モノニ注キ、以テ白色泡ノ生スレハ、大
体血液ナリト認メラル。

三、殺傷犯ニ於テ被疑者ノ、取調ヲ爲ス場合ニハ、被疑者ノ身体被服ニ血液ノ
附着セルヤ否ヤヲ、精査スヘシ若シ其附着セル場合ハ、事實現行犯ニアラサ
ルモ、訴訟法(一三〇條、一二四條)ニ於テ現行犯人其場所ニ在リシモノト
看做シ、逮捕シ之ヲ訊問シ得ヘシ。

實例ノ一

〇〇縣下ニ於テ犯人不明ノ殺人事件、即鉞ニテ頭部ヲ割ラレシ件ノ搜查ニ出
張中先ニ出張シ居タル刑事ガ、數名ノ容疑者ヲ取調ヘ居リシカ、何レモ否認
シ犯人ヲ認メ難ク數日ヲ經過シタリ。

然ルニ一刑事ハ一被疑者ノ右手ニ、血液様ノモノ附着セルヲ發見之ヲ檢事ニ
告ゲテ曰ク、「是レヨリ右被疑者ニ對シ其許ノ右手ニ附着セルハ血液ラシキ

カ如何ト問ハン考ナリ」ト。依テ檢事ハ「ソレハ不可ナリ右手ニ附着セル
モノヲ血液ト認メタリシトセハ此ノ血液ハ如何ニシテ附着セシヤト訊問スヘ
シ、ト、教ヘ訊問セシメタルニ、最初ノ否認ヲ取消シ犯罪ヲ自白シ兇器ノ鉞
モ發見セラレ、事件明白トナリシ事アリ。

第四、損傷ノ部位形狀等ヲ見テ如何ニ犯罪ノ犯サレタルヤト、其兇器ノ種類ヲ
察知スヘシ。

以下尙傷害ノ各種ノ名稱ヲ舉ケ、及各傷害ノ原因ヲ説明ス。

一、損傷ヲ檢査スルニハ、其部位形狀其用器ノ種類及ヒ使用法、自他傷ノ區別
其結果等ニ注意スヘキモノナリ。

イ、鈍器傷害ノ各種、以下ニ之ヲ説明スヘシ。

(1) 表皮剝脫 甚輕度ノモノニシテ間モナク形跡ナク治癒ス。

(2) 皮下溢血 皮下組織ノ血管ガ挫折シ出血ヲ生シ紫色又ハ藍色ノ斑點ノ現

ハル、モ退色シ出血モ吸収セラレ。

(3) 挫創 大ナル鈍器ニシテ力アルモノガ皮膚ニ作用セシ場合ニ生シ皮膚ハ破レ、創縁ハ不規則ノモノナリ。

(4) 裂創 皮膚ニ暴力ノ働キシ爲メ皮膚牽引セラレ少シク離レシ箇所ニ生スルモノナリ。

實例ノ一

往年暴動ニ於テ原内相邸ニ暴徒ノ闖入セシ際護衛ノ警官ガ之ヲ阻止セントシ洋刀ヲ以テ威嚇シタルニ、暴徒ノ或ル者カ之ニ觸レ、負傷シタリ。

町醫ハ其負傷ヲ刃物ニテ斬ラレシモノト診斷シ、當時警察官ノ拔刀事件トシ朝野ノ視聽ヲ集メシコトアリ。依テ果シテ拔刀シテ斬リシ傷ナリヤ、之ヲ鑑定シタル結果裂傷ト判明シ警官ガ洋刀ニテ、斬リシニアラサル事判明シタリト聞ク。

ロ、銳器傷害ノ各種、以下ニ之ヲ説明スヘシ。

(1) 切創 刃ノアル銳器ヲ立テ、皮膚上ヲ牽引スル際生ズルモノナリ。

(2) 割創 刃ノアル銳器、例ハバ鈍ノ如キモノヲ以テ皮膚ヲ打撲シタル場合ニ生ズ。

(3) 刺創 尖レル刃ノアル兇器ヲ、皮膚ニ刺入セルモノナリ。

二、自他傷害ノ區別

此ノ區別ハ醫學的意味ヲ參考トシ、主トシテ常識ニヨリ鑑別スルモノナリ。

例ヘハ、被害者自身ノ手ノ屈キ易キ箇所ニ傷アリ、負傷ヲ躊躇セシ形跡アリシ等ノ場合ハ、自害、即自傷ナリ。負傷ノ箇所ガ遠慮容赦ナク亂暴ニ爲サレタル形跡アラハ、多クハ他傷ナリ。

第五、骨ノ損傷ニヨリ、如何ニ犯罪ノ行ハレシヤヲ知ルヘシ。

尙是等ハ醫師ニ検査セシメテ之ヲ知り得ヘク、之ハレントゲンニヨリ之ヲ明ニ

シ得ヘシ、骨ニ損傷ヲ加ヘ、其被害者間モナク死亡セシトセハ、其骨ノ損傷ハ氷久のナリ昭和二年頃 大阪外濠ヲ漂ヒシ際、多數ノ頭蓋骨現ハレ、豊臣方及徳川方武士カ、刀ニテ頭骨ヲ斬ラレ居タルヲ、如實ニ示サレタリ。骨ノ損傷ハ數百年經過スルモ尙如斯判然タルモノナリ。

某所ニテ或ル男ガ卒中ニテ死亡シタリトノ診斷ヲ受ケ、埋葬セラレタル數年後或ル被疑者二人ガ金錢借用上ノ事ヨリ、右男ト口論シ暴行トナリ、右男ヲ押倒シ敷居ニ後頭部ヲ當テ損傷ニヨリ死亡セシメタリトノ、被疑事件現ハレ依テ右男ノ墳墓ヲ發掘シ、解剖シタルニ肉体ハ全ク腐敗シ居タルモ、後頭部ハ敷居ノ角ニ當リ損傷ヲ受ケ居タル跡、歴然タリシ事アリ。

第六、死体檢視ノ方法、人体ハ多クハ一時ニ死亡スルニアラスシテ、時間ヲ要ス。死後死体ノ變化スル一般現象ハ知ルヲ要ス。依テ死体ヲ見テ死後ノ經過時間等ヲ察知スヘシ。以下一般ノ死体现象等ヲ説明セン。

死体ノ檢視檢證ニハ、死体ヲ精細ニ檢シ其死亡ノ原因ヲ知ルヲ要ス。

尙所持品ヲ取調ヘ外傷等ノ有無ヲ檢シ、外傷等アレハ何ニ因テ生ジタルヤヲ明ニスヘシ。向死体檢視ノ方法ヲ述ヘン。

一、先ツ死体検査ヲ爲スニハ、日中、日光ニヨリ精密ニ觀察スルコトヲ必要トス。光ノ不十分ナル箇所ニ於テ爲スコトハ、ナルヘク避クヘキモノナリ。死体ハ其衣服ノ亂レ方、頭髮ノ如何ニナリ居ルヤ、手足ノ伸ヒ方、及ビ如何ニ眼鼻腔口ノ開ケルヤ、其附着物ノ有無顔色如何、及大小便損傷等ヲ精細ニ觀察スヘキモノナリ。

二、次ニ人ノ死トハ如何。何時ヨリ死亡ト定義シ得ルヤ、是レ科學的ニハ甚難問ナリ。吾人ノ生命ハ多クノ機關ノ調和ニヨリ成立スルモノナリ、若シ無理ノ生活ヲ爲サス、無病ナラハ殆ト枯木ノ倒ル、如ク、全身ノ機關ガ同時ニ絶止シテ死亡トナル。然レトモ、普通ハ全臟器カ皆一時ニ絶止セスシ

テ、各機關中一カ死亡スルモ、尙他ノ臟器カ、若干時間生存セルモノナリ或ル人ハ腦ヲ多ク使用シ、或ル人ハ心臟ヲ多ク使用シ、或ル人ハ足ヲ多ク使用ス。故ニ場合ニヨリ心臟カ死亡スルモ尙頭ノ生存シ居リ又ハ頭ノ死亡スルモ尙心臟ノ生存セルモノナリ。斯ク各機關カ同時ニ死亡セザル爲、死亡ノ際、非常ノ苦シミ生ジ、吾人ノ筋肉ハ、吾人ノ死後尙數時間又ハ、十數時間生存セルコトアリ。

法律上ハ心臟ト肺ノ絶止ヲ以テ死亡ト云フ、然レドモ死亡後廿四時間ハ、蘇生ノ可能ナキニアラザヲ以テ、ソレ迄ハ埋葬ヲ許サス。

三、死亡ノ爲メ心臟ノ絶止セバ、身体ハ冷却シ行クモノナリ。冷却ト稱スルモ外界ノ溫度ト平均スルヲ云フノミ、然ラバ何時間ニテ外界ノ溫度ト同様トナルヤ、ト云フニ、約十時間ト云ハル。

四、死亡後起ル現象ニ死体強直アリ。然ラバ死後何時間ニシテ強直ニ至ルヤ、

ト云フニ、普通死後四時間ヨリ五六時間ナリ、但シ肥滿セルモノハ遲シ。依テ死体強直ニヨリ死後ノ經過時間ヲ推定シ得ヘシ。

四、心臟絶止スレバ血液ハ重力ニ從ヒ、低所ニ集マル。其集リシ箇所ニ死斑ヲ生ズ故ニ、死斑ニヨリ死体ガ如何ナル状態ニ置カレアリシヲモ推定シ得ベシ死斑ハ何時間ニテ生ズルヤ、ト、云フニ死後三時間、乃至六時間ニシテ、薄赤紫色トナリ、次ニ次第ニ濃度ヲ加ヘツ、紫藍色ニ變ス、紫藍色ニ變ズルハ十五時間ヲ要スルヲ普通トス。窒息死ノ場合ハ最初ヨリ少シク黒色ヲ帶ブ。死体ガ右ノ如ク紫藍色ニ變ジタル後、表皮ト眞皮トノ間ニ水生ジ、次ニ水泡ヲ生ズ。而シテ皮下ニハ腐敗瓦斯生ジ、死体ハ膨大ス之ヲ死体ノ巨人觀ト云フ。依テ所謂土左工門ノ浮ビ上ルモ此ノ時期ナルヲ知ルベシ。

或ル現行犯人ガ警察官吏ニ追跡セラレ、歸宅シテ死亡シタリ、其後頭ノ下部ニ血液溜マリ居ル爲メ警察吏ニ突倒サレ、後頭部ヲ打チ腦充血ヲ起シ死亡シタリ

ト、傷害致死ノ如ク疑ハレタリ。依テ死亡原因ヲ明ニスル爲メ解剖シタルニ、後頭部ノ充血ハ死後上向ニ臥セシメタルニヨリ、血液集リシニ過ギズシテ、傷害致死ノ疑ハ消滅シタル事例アリ。

フランスニ於テ、某僧正ガ説教中倒レ死亡セル爲メ、棺桶ニ入ルニ至レリ、然ルニ棺桶中ニテ、意識回復シタリ。依ツテ生存セル旨ヲ他ニ告ゲントシタルモ意ノ如クナラズ、愈々葬式ノ出ヅル際漸ク生存シ居ル旨ヲ告ゲタリト云フ。斯クノ如キ事ハ、我國等ニ於テモ屢聞ク所ナリ。

第七、各種ノ死体ニハ各異ノ死亡原因アルヲ以テ、各死体ヲ見テ其死亡原因ヲ察知スベシ。以下ニ各死亡ノ名稱ヲ舉ゲ且ツ各死体形状及原因等ヲ説明ス。

(イ) 頓死

飲酒ニ依ル頓死ヲ述ベシ。常ニ酒ヲ嗜ム人ハ酒ノ爲メ、心臓甚弱ク因テ些細ノ事ニヨリ頓死スルコトアリ。某署ニ於テ泥酔者ヲ檢束シタルニ、夜中突然

死亡セシ事アリ、依テ官憲横暴ヲ叫バレタルモ、其死体ヲ解剖シタルニ心臓ノ不調和ト、寒氣ノ爲メ頓死シタル事判明シタリ。故ニ泥酔者ヲ勾束スル場合ニハ注意ヲ要ス。

(ロ) 溺死

一、溺死ノ理由ヲ述ベシ、吾人ガ水泛ノ爲メ水ニ入レハ、冷却ノ爲メ急激ニ身体表面ノ神経ヲ刺激シ、身体表面ノ血管ガ萎縮シ、同所ノ血液ハ身体ノ表面ヨリ心臓ニ集中ス。他方ニ於テ、身体ヲ水上ニ浮バシムル爲メノ運動ニ努力ス。依テ心臓ノ鼓動ハ甚ダ激烈トナリ、心臓ハ之ニ耐ヘラレスシテ頓死ス。

二、溺死体ノ多クハ、氣道肺胃等ニ水ヲ吞ミ居ルトノ現象アリ。然レトモ溺死體ナル故悉ク氣道、肺、胃、ニ水アリト断定スル能ハズ。溺死體ヲ解剖シテ胃其他ニ水分ナキ事アルモ、溺死タル事アリ、其理由如何ト云フニ、是レ吞ミシ水ガ、二日位ニ周圍ノ臟器ニ滲ミ込ミシ爲ナリ。例ヘバ水草片水虫土砂等カ胃

等ニ吸入サレ居ラザルヤヲ調査シ、之ヲ發見セバ溺死ナリト断定シ得ヘシ。
三、水中ヨリ發見サレタル、死體ニシテ其殺害サレタル後、水中ニ投セラレタルモノナリヤ、又ハ生存中水中ニ投セラレテ溺死シタルモノナリヤノ問題生ズ。此ノ問題ヲ明ニスルハ死體ヲ解剖シ、肺ヲ檢セバ判明スルモノナリ。即若シ生存中水ヲ吞ミ溺死セシモノナラバ、普通ハ多量ノ水アルヲ發見シ得ヘシ。之ニ反スルトキハ、死亡後死體ハ水中ニ入りシモノト認メラル。
(ハ)、窒息死ハ凡ソ左ノ場合ニ生ス。

氣道交通遮斷ノ場合、呼吸運動ニ障害生ゼシ場合、空氣不純トナリシ場合、及ビ血液ノ循環作用不十分トナリ、之ニ應シ血液中ノ瓦斯ノ新陳替謝亦不十分トナリシ場合、等ニ生ス。例ヘハ縊死、絞殺、扼殺、土中埋没、群衆中ノ胸部壓迫氣道内ニ入りシ異物、中毒ニヨル呼吸筋麻痺、有毒瓦斯ノ中毒、等枚舉ニ遑ナシ。縊死ニ付テ一言スレバ、普通縊死體ハ蒼白ニシテ、諸所ニ

褐色ヲ呈ス。

二、燒死

吾人ノ身体ニ高熱ノ加ヘラレタル表合ニ皮膚、肉体ニ如何ナル變化ノ生スルヤ、其變化ハ輕度ヨリ強度ニ向ヒ、左ノ區別ヲ爲ス

- 第一度 赤色トナル
- 第二度 水疱ヲ作り
- 第三度 かさぶたヲ生シ
- 第四度 炭火ス

燒死ハ多クノ場合其原因ハ燃燒瓦斯ノ爲メ窒息シ、然ル後燒死ニ至ル。火災ノ跡ヨリ死體ノ現ハレシ場合、其死體ハ殺害サレタル後、火中ニ投セラレシモノナリヤ又ハ住家ニ放火サレシ爲メ、燒死シタルモノナリヤノ區別ハ、甚重要ナリ普通後者ノ如キ放火等ノ場合ニハ、其死體ニ第一度、乃至第四度ノ、火傷アリ尙氣

道内ニ煤ヲ吸ヒ込ミ居リ、又ハ血液中ニ酸化炭素瓦斯アリ、然レドモ前者即死後、火中ニ投セラレシ場合ニハ前記ノ所見ナシ。

ホ、凍死

凍死体ノ特有表徴ハ死斑ノ鮮紅色ナルニアリ

へ、電撃死

電撃死体ニハ皮膚ニ電紋ト稱シ樹林狀ノ、赤斑現ハレ、携帯ノ時計、ナイフ等ニ磁性ヲ帯ビ、又ハ熔解シタル形跡アリ、普通人ハ數百ボルトノ電壓ニ因リ、死亡ス。

第八、死体ヲ解剖スル目的ト解剖ニ依リ、明ニスベキ事項。犯人ガ被疑者ニ加ヘタル行爲ニ因リ、被疑者ノ生活機能ノ何レニ、如何ナル生理的作用ヲ生セシメ、死亡スルニ至ラシメタルヤ、之ヲ明ニスル爲メ、解剖ヲ爲スモノナリ而シテ殺傷犯ニ付テ解剖ヲ爲ス場合ニ、局部解剖ニテ足ルモノナリヤ、又ハ

全身解剖ヲ必要トスルヤ。例ヘバ絞殺サレシ死體ハ、頸部ノミヲ解剖シ頭部ヲ歐打サレ死亡シタル死體ハ、頸部ノミヲ解剖セハ可ナリヤ、ト、云フニ是等何レノ場合ニ於テモ、全身ヲ解剖スルノ必要アリトス。何トナレバ頸部ヲ絞メラレシ場合ニ、窒息死亡スルヲ普通トスルモ、或ハ窒息死以前ニ、先ヅ心臟ノ絶止シテ死亡スル事モアレバナリ。尙絞殺サレシ場合、食後何時間位後ニ頸部ヲ絞メラレシヤ等ガ、屢々後日ニ至リ問題トナル事アレバナリ。

例ヘバ某女ガ絞殺死體トナリ、發見サレシ事件アリトシ、同女ハ絞死サレタル日ノ、午前五時頃朝食ヲ爲シ、自宅ニ居リ、同日午前七時頃甲男ノ訪問アリ、更ニ同日十時頃乙男ノ訪問アリ、甲乙何レモ絞殺被疑者トセラレタリトセンニ、此ノ場各ニハ、頸部ノ外胃腸ヲモ解剖シ、其食物ノ消化状態ヲ知り、食後何時間後ニ、絞殺サレタルモノナリヤヲ明ニシ、其犯人ハ甲乙ノ何レナリヤヲ判明セシムベキガ如シ。

實例〇〇縣ニ於テ、些細ノ事ヨリ夫婦ガ喧嘩シ、夫ガ火箸ヲ以テ妻ノ頭部ヲ打チシ爲メ妻ガ死亡セシトノ、事件アリ妻ノ左頭部ノ一ニ端尖レル火箸ニテ刺サレシ傷アリ被疑者ハ一寸火箸ニテ打チシ爲メナリト辯解シ醫師ノ
檢案ニ依レバ被害者ハ、中風ニ近キ者ナレバ右ノ如ク、一寸打タレ腦震蕩ヲ起シ、死亡シタリト云フ。

小職ハ右檢案ノ何處ニカ徹底セザルモノアルカ如ク感ゼラレ、了解シ難ク、依テ被疑者ガ妻ヲ火箸ニテ強ク歐打シ、依テ妻ノ頭蓋骨ニ幾分骨折ヲ生ゼシメ、腦壓迫ニヨリ、之ヲ死亡セシメタルニアラズヤ、トノ疑アリ、故ニ再ビ醫師ヲシテ右傷附近ノ皮膚ヲ剝離セシメ、頭蓋骨ヲ十分檢セシメタルモ、頭蓋骨ニ何等ノ異狀ナカリシ、

依テ全身解剖ノ目的ヲ以テ他ノ醫師ヲ招キ、解剖セシメタルニ、右ノ犯人ハ火箸ヲ以テ斜メ上ヨリ妻ノ左頭部ヲ刺シタルニ、其皮膚破レ頭蓋骨面ハ甚滑カナ

ルニヨリ、火箸モ皮膚ノ下ヲ走り、皮膚ノ破レシ口ヨリ三寸位先ノ、頭蓋骨ノ一点ヲ貫キ、小腦ヲ深ク刺シアリシヲ發見シタリ。

死体ヲ解剖シ、其肺ヲ水中ニ入レ其浮ブ状態ヲ見テ、被害者ガ死亡當時、呼吸ヲ爲シ居タルヲ明ニ知ルハ、何人モ知ル所ナリ。

第九、強姦ノ捜査方法ヲ説明ス。

一、強姦アリシ場合ハ一刻モ速ク捜査スルヲ要ス、若シ被害者處女ナル場合ニハ第一ニ處女膜ヲ檢査セシメ、其傷ノ新鮮ナリヤ否ヤヲ明ニスベシ。何故右ノ如ク爲スヘキヤト云フニ、處女膜ノ出血ハ數分間ニシテ留マリ、二三日ニシテ全ク治癒スレハナリ。

強姦ノ多クハ犯人ガ暴力ヲ用ヒ、被害者ハ之ニ抵抗スルモノナリ、故ニ被害者タル女子ニ表皮剝脫皮下溢血等ナキヤ否ヤヲモ檢シ、抵抗シタル形跡ヲ明ニスベシ。

尙其女子ノ陰毛、大腿、腰卷、衣類等ニ精液附着セルヤ否ヤ等モ檢スベシ。
(刑訴法ニ依リ、立會人ニ立會ハシメ、其他適法ノ手段ニ依ルベキコトハ勿
論ナリ。)

二、若シ犯人ニ花柳病アリ、強姦ニヨリ被害者ニ花柳病ヲ感染セシメタリトス
レバ、何レカノ方法ニヨリ、強姦以前ニ被害者ニ花柳病ナカリシトノ、證明
ヲ爲サザルベカラズ。然ラザレバ強姦ニヨリ、花柳病ヲ感染セシメタリトノ
證據ナキニ至レバナリ。

三、尙姦淫罪等ニ於テハ、精液附着ノ状態ヲモ考察スルヲ要ス。即精液附着ノ
状態ニヨリ大体強姦ナリヤ、和姦ナリヤヲ知ルベシ、例ヘバ腰卷ノ中央ニ精
液附着シ居レバ、大体和姦ナリ、若シ精液ガ女ノ裾其他前面ノ衣服等ニ附着
シ居レバ、強姦ト認メラルベシ。

四、次ニ精液ナリヤ否ヤヲ、知ルニハ臭覺ニ依ルベシ。新鮮ナル程、臭氣強シ
場合ニヨリテハ、精液ト認メラル、モノヲ管ニ入レ、堅ク蓋ヲ施シ置カバ一
日位經過スルモ、尙臭氣アルヲ以テ鑑定ニ便ナリ。精液ハ女子ノ生殖器中ニ
入ルモ、普通二日位ハ生存シ居ルモノナリ。故ニ右ノ期間内ニ之ヲ檢セシム
レバ精虫ヲ發見シ得ベシ。

第二章 精神病

A 汎論

一、心神喪失者及ビ心神耗弱者トハ何ゾ

刑法第三十九條ニ依レバ、前者ノ行爲ハ之ヲ罪セズ、後者ノ行爲ハ其刑ヲ減
輕スト規定セラル。然ラバ如何ナルモノガ、心神喪失者ニシテ、如何ナルモ
ノガ心神耗弱者ナリヤト云フニ、凡ソ左ノ場合ハ心神喪失ナリ。

イ、意識ノ喪失セルモノ、卒中、癲癇、ヒステリー等ノ大發作全身麻醉ノ場合

ロ、強度ノ意識濁濁、癲癇、ヒステリー、朦朧状態、泥酔、夢中遊行。

ハ、病的衝動行爲、妄想、妄覺、ニヨル行爲等。

ニ、衝動抑制ノ能力ナキ場合、強迫觀念ノ場合及ビ、暴行發作等。

ホ、精神異常者ノ重症ナルモノ。

次ニ左ノ場合ハ心神耗弱ナリ。

普通精神状態ノ者ト重症ノ精神病者トノ中間ニ位スルモノニシテ。例ヘバ

イ、輕度ノ痴愚者

ロ、癲癇、ヒステリー等ノ小發作、酩酊者、變質者、精神病者ノ初期輕度ノモノ等。

ハ、感動ニヨル精神状態ノトキ、即驚愕、憤怒、苦悶ノ精神状態ノトキ及破瓜期、月經時、妊娠時ニ於ケル、精神特別状態ノトキ、若シクハ腦震蕩、其他各種ノ原因ニヨル精神低格ノトキノ如シ。

變質者トハ、智識ハ割合發育セルモ、道德感情ノ發達セサルモノニシテ、所謂變人常習犯罪者、色欲異常者、病的虛言者等ニシテ、種々ノ犯罪ヲ犯シ、智能犯ニ秀デタルモノナリ。

二、如何ナル方法ニヨリ、精神ハ鑑定セラルノヤ、及ビ捜査官ハ如何ナル事項ノ取調ヲ爲シ置クベキヤ、

醫師ガ精神鑑定ヲ命ゼラレタル場合ハ、如何ニシテ被告人ノ犯罪當時ニ於ケル精神状態ヲ知ルヤト云フニ、醫師ハ鑑定當時ノ被告人ノ精神状態ヲ精査シ、遡ツテ犯罪當時ノ被告人ノ精神状態ヲ察知スルモノナリ。

而シテ醫師ガ犯罪當時及ビ、鑑定當時ノ被告人ノ精神状態ヲ判斷スルニハ、被告人ノ既往症、經歷、遺傳、精神身體ノ發育ヲモ明ニスルヲ要ス。

先ヅ醫師カ犯罪當時ニ於ケル、被告人ノ精神状態ヲ知ルニハ、被告人ヲシテ犯罪ノ動機及犯罪當時ノ行動ヲ詳細ニ陳述セシメサルベカラス、然レドモ、被告

人ノ陳述必ズシモ信ヲ措クニ足ラザル事アリ、何トナレバ被告人ハ時ノ經過ト共ニ刑ヲ免レントシテ、虚偽ノ陳述ヲ爲スニ至リ、然ラザレモ記憶不精密トナルコトアレバナリ。依テ醫師ハ被告人即チ被疑者ノ聽取書及ビ、各關係人ノ聽取書ヲ見テ、犯罪當時及ヒ其前後ニ被告人ノ行動ヲ察知スヘキモノナリ。故ニ被疑者ノ第一回聽取書ノ如キモノハ、最モ重要ノモノナルニヨリ、詳細ニ取調べ陳述セシムルヲ要ス。犯罪當時ノ被疑者ノ、態度、言語、表情等モ之ヲ明ニシ、之ヲ關係人ノ聽取書等ニ記載スヘク、尙被告人ノ既往歴、遺傳、發育等ヲ取調べ記録中ニ之ヲ明ニスベキモノナリ。捜査官ハ以上ノ如ク記録ヲ作成シテ之ヲ鑑定ノ資料ニ供セシムルノミナラズ、裁判ノ證據資料トモ爲スベキモノナリ。

實例 醉餘、刃物ヲ以テ他人ヲ斬リシ殺人未遂事件ニ於テ、被告人ハ全然否認シ犯行ヲ知ラズ、犯罪ノ場所ヘ行キシコトモ知ラズト陳述シ、精神鑑定ノ結

果、心神喪失ト鑑定セラレタルモ、裁判所ハ右鑑定ニ勾東サレズシテ、有罪ノ判決シタル事アルモ、是レ異例ナリ。

三、妄想及妄覺トハ如何ナルモノナリヤヲ説明ス。

一、妄想トハ誤レル信念ナリ。妄想ハ多クノ場合次ノ如キ精神状態ナリ。

イ、妄想ノ内容ハ一見シテ馬鹿ラシキモノナリ。例ヘバ貧困ナルモノガ貴族ナリト信ジ、又ハ一農夫ガ陸軍大將ナリト信ジ居ル場合ノ如シ。

ロ、本人ノ教育程度ト其境遇ヨリ、明ニ事實ト一致セザルコトヲ信ズル如シ。

例ヘバ無學ノ者ガ、飛行機又ハ無線電話機ヲ發明シタリト信ズルノ類ナリ。

ハ、本人ノ信念ハ確信ニシテ、他人ノ理論説明等ニヨリ到底之ヲ拔ク能ハザルノ類ナリ。即チ自己ノ保持スル妄想ヲ基礎トシ、理論ヲ進メ、自己ノ周圍ニ起ル現象ヲ色眼鏡ヲ以テ觀察シ、自己ノ妄想ニ一致セシメントスル結果、更ニ新ナル妄想ヲ作り妄想ニ一定ノ系統ヲ生ジ、所謂妄想城系統ヲ作ルニ至ル

茲ニ一婦人アリ、夫ガ自己ヲ殺サントシ居ルトノ妄想ヲ懷ケルトセハ、此婦人ハ妄想ヲ基礎トシ、自己ノ周圍ニ起ル現象ヲ解釋シ、夫ガ自己ニ親切ナルハ、隱謀ヲ秘シテ油斷セシムル爲メナリトシ、若シ不親切ノ態度トナルトキハ隱謀ヲ露骨ニ現ハシタリト認メ、食ヲ與ヘラレタルトキハ毒殺ト考ヘ、毒ノ混シ居ルモノト疑フノ類ナリ。

妄想ニ種々アリ、被害妄想例ヘハ夜間自己ヲ殺サントスルモノガ自己ノ室ニ毒瓦斯ヲ吹キ込ムト考ヘ、又ハ電流ヲ送ルモノアリト信ズル類ナリ。追跡妄想、例ヘハ自己ノ身邊ニハ常ニ秘密探偵ガ附纏ヘ居ルト考フル如シ。

關係妄想、例ヘバ道路ニテ人ノ笑ヒ居ルヲ見テ直ニ自己ニ關係アリト認ムル如シ。

宗教妄想ハ、自己ヲ救世主ト信ズルカ如ク、又憑依妄想ハ、狐カ自己ニ憑ケルト考フルノ類ナリ。其他誇大妄想アリ、被害妄想ニ付テハ、其與ヘラレシ食物

ニ毒ノ混ゼリト認メ、之ヲ投棄スル事アリ、斯ル人ハ甚シキ、不安ト恐怖ニ襲ハレ居所ニ安ンセス屢々居所ヲ轉ジ、硝子板ヲ用ヒ電流ヲ絶縁シテ身ヲ防ガントシ遂ニハ防禦ノ方法ナキヲ悟リテ、敵ヲ襲撃セントシ、何時殺人傷害等ノ犯罪ヲ犯スニ至ルヤ測リ難キモノナリ。妬嫉妄想者ガ妄想ニ駭ラレ、夫ヲ殺シ又ハ之ヲ傷クル等モ屢々アリ。

妄覺トハ、誤レル知覺ヲ云フ。視官ノ妄覺ニハ錯覺ト幻覺トアリ。路上ノ繩ヲ蛇ト知覺スルハ錯覺ナリ。路上何物モナキニ不拘蛇ヲ認ムル如キハ、幻覺ナリ。是等ハ自己ニ害ヲ加フル敵來リシトシ、之ヲ防ガントシテ他人ニ害ヲ加フル事アリ。聽官ノ妄覺トハ、例ヘバ自己ヲ言倒スル聲ヲ聞キ、怒ツテ他人ニ害ヲ加フル等ノ類ナリ。

三、迷信モ一ノ誤レル信念ニシテ、妄想ト類似ス然レドモ迷信ハ本人ガ之ヲ確信スル程度ニ於テ妄想ノ如ク強キモノニアラス、本人モ幾分眞偽ヲ疑フ場合

多シ、即本人ノ理性常識ニ依レバ、迷信ノ内容ニ疑アルヲ、認識スル場合多シ。迷信ニヨリ憑ケル狐ヲ放サントシ、松葉ヲ燻シ窒息セシメ、又ハ歐打シ若シクハ水中ニ投ズル等ノ犯行アリシヲ聞ク。

以上ヲ以テ精神病一般ヲ説明シタリ。以下ニ精神病各論トシテ主ナル精神病ニ付テ少シク述ベントス。

B 各 論

以下精神病ノ各名稱ヲ舉ゲ且各病ノ症狀ト原因ヲ説明セン。

一、早發性癡呆症

十三、四才ヨリ二十二、三才迄ニ發病シ、慢性ニ進行シ智力ハ比較的良好ナルモ、初メヨリ感情ニ障碍アルヲ特徴トス。數年後ニハ多ク癡呆状態ニ陥ルモノナリ。本病ノ主ナルモノヲ破瓜病及妄想性呆症癡トス。

イ、破瓜病ハ遺傳ニ因ルモノ多シ、症狀トシテハ原因ナクシテ、苦悶スルモノ

アリ、刺激性ナルアリ、空笑ヲ爲スアリ、破廉恥ナルアリ、又ハ同一觀念ヲ固執スルアリ、追跡妄想、關係妄想、又ハ關係妄想アリ、若シクハ動作ニ遲緩アリ、全様姿態ヲ保存スルアリ、尙醜行等ヲ爲スアリ、而シテ輕快ノ状態ト亢奮状態ト交々至ル。

本病者ハ感情鈍ニシテ、意思減弱ノ結果仕事ヲ怠リ窃盜等ヲ爲スニ至リ、女子ニ在リテハ賈淫婦トナルモノアリ。

ロ、妄想性癡呆症ハ智的作用ニ障害ナキモ、荒唐無稽ノ妄想アルヲ特徴トス、次第ニ感情障害多ク進行ス。亢奮状態ト昏迷状態トノ氣分轉換期ガ交々至リ甚シキ精神衰弱ヲ來タスニ至ル。其數甚少シ。原因ハ前病者ニ同シ。

症狀トシテハ憂鬱不安刺激性等ニシテ、判斷力衰ノルニ至ル、遂ニ自己ヲ追跡スルモノアリ、自己ヲ注視スルモノアリ、又ハ自己ヲ毒害セントスルモノアリトノ妄想ヲ懷キ、居所ニ安ズル能ハス、依テ濫ニ人ヲ疑ヒ又ハ家族ト衝突シ

或ハ泣キ、或ハ笑フニ至ル、且右妄想ニ依テ人ヲ傷ケ、自殺ヲ企テ、又ハ放火等ヲ爲スニ至ルコトアリ。

右妄想ハ次第ニ變ジテ誇大性トナル。依テ一二年後ニハ高度ノ癡呆ニ陥ルヲ常トス。

二、麻痺性癡呆症

中樞神経系ノ疾患ヨリ、慢性ニ進行ス、三十才以上五十才迄ノ間ニ多シ。

原因ハ微毒ガ中樞神経系ヲ犯スニ因リ、酒精中毒、又ハ精神過勞ガ誘因トナル。症狀ハ肉体的ニハ痛覺鈍ク舌又ハ手指ノ振顫アリ、運動ニ調和ヲ失フ等ニシテ、精神的ニハ、初メ神經衰弱ト區別シ難ク、次第ニ智力衰へ、道德的及美術的ノ感情ノ荒廢トナリ、濫買、酒色耽溺、誇大妄想トナル、依テ姦淫罪、窃盜、傷害毆打罪、放火罪等ヲ犯スコトアリ。智力減退ト亢奮ノ爲メ、無謀ナル企業ヲ爲シ、又ハ濫買ヲ爲シ他人ノ煽動ニ乗ズルコトアリ。

斯クシテ、二三年内ニ死ノ轉期ヲ取ルニ至ル。精神病者中最モ不良ノモノナリ

三、癲癇

一、大癲癇、小癲癇及精神代理症ノ三種アリ。大癲癇トハ急ニ大聲ヲ擧ゲテ卒倒シ、無意識状態ニ陥リ全身ニ痙攣ヲ呈ス。數分後ニ覺醒スルモ、自ラ之ヲ知ラズ、更ニ睡眠ニ入ル。

二、斯ク全身ニ亘ル痙攣ナク一局部ニ限ラル、コトアリ、又ハ作業中顔色蒼白トナリ、手ニセルモノヲ落シ、或ハ一時茫然自失ノ状態ニ陥ルモ間モナク回復スルモノアリ。尙癲癇ノ發作頻發症ニアリテハ其間完全ニ覺醒セズ。

三、痙攣發作ノ代リニ、一時精神障礙生ズルヲ癲癇代理症ト稱シ、意識ハ半眠半醒ノ状態ニアルモノナリ。之ヲ朦朧状態ト云フ。

又突然眠睡ヨリ醒メ、一見或ハ秩序アリ、或ハ奇ナル言行ヲ爲シ、數分後再ビ睡眠ス而シテ翌日ニ至リ前日ノ爲シタル事ヲ知ラズ。之ヲ夢中遊行症ト稱

ス、

四、以上病者ニハ、追跡妄想等アリ、而シテ智力減退シ刺激性ナリ。幻聽スルコトアリ。亢奮性ナルヲ以テ、暴行等ノ犯罪ヲ犯シ、又ハ嫉妬、復讐ノ念強ク爲メニ放火犯ヲ犯スコトアリ。又ハ感情轉換状態ノ節、家出、姦淫行爲、侮辱、濫飲等ノ行爲ヲ爲スモノナリ。

本病者ノ智力障礙甚シキ場合ノミ、刑事責任能力ナシ、精神代理症、朦朧状態、及感情轉換ノ状態ニ於テ行ハレタル行爲ニ付テモ、責任能力ナシ。

五、本症ノ原因ハ、遺傳ヲ主トシ、尙兩親ノ酒情中毒之ニ次ギ、其他遺傳微毒腦水腫、頭部外傷、急性傳染病等ニ因ル。

四、躁鬱病

本病ハ十才以上二十五才以下ノ青年期ニ發シ、智識ニ障礙ナキモ、感情ニ動キ易ク、其經過中ニ躁揚状態ト抑鬱状態トアリ、兩者ノ混合セル状態アリ。原因

ハ主トシテ遺傳ナリ。症状ハ躁揚状態ニ在リテハ、睡眠欠乏、血管擴張、顔面紅潮、食欲増進等アリ、精神方面ニ於テハ、道德的感情衰へ、上長ヲ敬フコトナク、刺激性、亢奮性ナルヲ以テ他人ヲ罵倒シ、違警罪又ハ姦淫罪ヲ犯スコトアリ、又ハ暴飲ノ爲メ種々ノ犯罪ヲ犯ス傾向トナリ、冒險事業ヲ敢テシ損失スルコトアリ。

抑鬱状態ニ於テハ、不眠、耳鳴、眩暈、胸中苦悶、食欲減退、便秘、非觀言語寡少等ノ症状アリ。コノ間ニ自殺ヲ企ツル事アリ、又ハ自己ガ死刑ニ處セララルヲ目的トシ、他人ヲ殺傷スルコトアリ、斯ル犯罪ハ無鐵砲ニシテ残忍性ヲ帶フルヲ特徴ト。

メラソコリーハ抑鬱症ノ一状態ナリ。

本病ハ主ニ治スルモ再發スルコトアリ。

五、先天的精神發育制止

胎生中又ハ生後一ケ年以内ニ受ケタル諸種原因ニヨリ、精神發育ノ抑止セラレタル状態ヲ總稱シテ、之ヲ先天的精神發育制止ノ状態ト稱ス。之ヲ大別シテ、白痴、愚痴、魯鈍ノ三種トス。

イ、白痴

如何ニ教育スルモ、其智力六、七才ノ兒童以上ニ達セサルモノヲ云フ。之ニ亢奮性ト懦弱性トノ區別アリ、前者ハ反社會的ニシテ危險ナルモ、後者ハ無爲無害ナリ。

原因ハ遺傳、先天徵毒、父母ノ中酒、新陳代謝機能障礙、頭部損傷、腦膜炎、急性傳染病等ナリ。

症狀ハ五感異常、癲癇様發作、多食症等ナリ。顔貌空虚ニシテ、表情ニ乏シク言語動作ハ小兒ノ如シ。色彩觀念、計算能力等ヲ欠如シ、判斷力、思考力ハ淺薄ニシテ、注意力殆トナキ爲メ記憶等モナシ。

之ニ反シ情欲ハ比較的發達セルモノアリ、手淫、窃盜、強姦、放火、殺人等ヲ犯スモノアリ。

道德的感情ハ全然ナシ、故ニ人ニ敬禮シ又ハ後悔スル等ノコトナク、羞耻ノ念ナシ。只食欲ヲ中心トシテ生活スルノミ。

ロ、痴 愚

日常ノ用ニ辨ズル言語動作ハ發達シ居ルモ、或ル種ノ觀念殊ニ色、時、數、大小、輕重、方位、其他抽象觀念ハ著シク劣等ノ状態ニアルモノナリ。

本病者ニモ、教化可能性ト、不可能性トノ區別アリ。

原因ハ前病ニ同ジ。

本病者ハ智力ノ發達平均セザルヲ特徴トス、例ヘバ讀書ニ秀デ、算術ノ劣等ナルガ如シ。判斷力ハ淺薄ニシテ、他人ニ乘ゼラレ易シ、注意力減達セル爲メ、追想ニ誤多シ、加算ハ劣等ニアラザルモ、減算ハ困難ニシテ、乘算ハ不能ナリ

○色彩ハ多少辨別スルモ複雑ニ至レバ區別スル能ハス。

感情ハ轉換性ニシテ、何等動機ナキニ怒リ、又ハ暴行ニ及ブコト多シ。利己心復讐心強ク、同情、感謝、治産ノ念甚薄シ。外出ヲ好ムヲ以テ浮浪スルモノ多シ。

八、魯鈍

普通人ノ愚ナルモノニシテ且ツ怠慢輕卒ナル者ニ甚似タリ、所謂低能兒ノ多數ハ之ニ屬ス。

精神發育制止ノ最モ輕キモノナリ。

智力十二、三才ヨリ十五、六才ノ兒童ニ相當ス。

原因ハ前病者ニ同シ。

學校ニ在リテハ普通ヨリ、成績不良ニシテ長ズルニ從ヒ智力發達甚偏頗トナル自我心及ビ名譽心ニ富ミ口ニ忠君愛國ヲ唱ヘ乍ラ實行之ニ伴ハズ、他人ニ乘ゼ

ラレテ財産ヲ失ヒ早ク放蕩ニ耽リ、正業ヲ守ルノ執着心ナク、狡猾ニシテ廉恥心ナク、傲慢不遜ニシテ、感謝及情愛ニ乏シク外出ヲ好ミ、人ヲ恐レズ、窃盜詐欺、放火、姦淫ノ犯罪ヲ犯スコトアリ、激シ易ク傷害罪等ヲモ犯ス。

六、以上ノ外精神病ニハ、偏執病、即被害妄想、追跡妄想等アリ、ヒステリー症アリ、其他種々アレドモ專問的ニ涉ルヲ以テ、之ヲ述ベス。ヒステリー症ノ發作中、即卒倒シ痙攣ヲ呈シ、ソレヨリ意識回復迄、奇異ノ行動ニアル間ハ、心神喪失ト云フベシ。

所謂、色情狂、窃盜狂、放火狂又ハ殺人狂ハ、精神病學上ノ名稱ニアラス、是等ハ前記精神病ノ一徵候タルニ過ギズ。是等ハ德義狂ト稱セラレ、特定ノ犯罪ヲ好ム偏癖ヲ有スルモ、必シモ心神喪失者タルモノニアラス。

第四篇 送致意見書其他ノ書式

送致意見書ハ、事件ノ縮圖トモ云フベク、捜査シタル結果ヲ記載シ、其意見ヲ述ブルモノナレバ、其記載方ニ意ヲ用ユベキモノナルハ、論ヲ俟タズ。同意見書中ニ、「被疑者ハ否認スレドモ、本件記録ニヨリ證據十分ナリ」等、記載スルコトアレドモ、斯ク記載スヘキモノニアラズ、右ノ如キ記載ハ、「河ヲ流ル、ハ水ナリ」ト云フガ如ク無意義ナリ。尙詐欺事件ニ付テハ、欺罔ノ方法ハ相當詳細ニ記載スベキモノナルニ、例ヘバ單ニ欺罔シテ金何圓ヲ騙取シタリ、トノ如ク欺罔方法ノ記載ナキコトアリ、又ハ傷害事件ニ付テ、「些細ノ口論ヨリ何々ノ傷害ヲ加ヘタリ」ト記載シ、其ノ口論ノ内容ヲ記載セザルコトアレドモ同内容ヲ記載セザルベカラズ。更ニ過失犯ニ於テハ、數多ノ注意スベキコト及其注意セザリシコト、若シクハ認識シ得ベキコトヲ、認セザリシコト等ヲ列舉

スレドモ、何ヲ以テ過失トスルヤ判斷シ難キ記載少カラズ。

依テ以下送致意見書ノ記載例ヲ示サントス、然レドモ簡單ノ事件ノ例ヲ用ヒ過失犯ヲ多ク列舉シ、尙證據説明及ビ犯情等若シクハ、起訴、不起訴ノ意見ノ記載方等ヲモ示シ、終ニ聽取書ニ付キ述べ、檢證調書等ノ書例ヲ示サントス。

第一、放 火 事 件

被告人ハ昭和八年三月中、カフェーノ女給タリシモ、翌月ヨリ兩親ノ爲メ金百圓ヲ前借シ、何郡何村農業何某方ニ雇ハレ居タルモ、女給生活憧憬ニ堪エザル處ヨリ、右主家ヲ燒燬セバ再ビ女給ニナリ得ルト思料スルニ至リ、何月何日右主家妻〇〇ト共ニ、主家南方四十間ヲ距ル井戸ノ傍畑地ニ於テ、耕作シ居タルモノナル處、同日午後五時頃右妻ヨリ炊事ヲ命ゼラレ、右主家ニ立歸リシニ、偶々同家族悉ク不在ナリシニ乗ジ、直ニ放火セント決意シ、主家内西方下屋ニ下セル、主人夫婦ノ寢室ニ入り、其南側棚上ノ四ツ折トセル新

聞紙一貫多餘中ヨリ、一枚ヲ取り丸メテ之ニ燐寸ヲ以テ点火シ、其發火セルモノヲ右棚上新聞紙ノ右側ニ置キ、以テ同新聞紙ヨリ同紙上部ノ殆ド接セントシ居タル屋根裏ニ燃エ移ルベキヲ認メタル後、台所ニ赴キ、バケツヲ取り前記井戸端ニ至リ、右妻ト雜談ヲ爲シ居タル後、右寢室屋根ヨリ黒煙ノ上ルヲ認メ驚愕シタル如ク裝ヒ、駈ケ付ケ消火等ニ從事シタルモ、遂ニ右主人住家一棟及之ニ接スル倉庫一棟ヲ燒燬シタル後、右犯行ヲ秘シ居タルモノナリ

第二、失火事件

被疑者ハ昭和八年十一月七日、其長女トシ子七才等ヲシテ、麥藁ヲ敷キタル自宅土間ニ備付ケタル、ストーブヲ焚カシメ、尙同女等カ該火ヲ取扱ヒ中、其火ヲ右麥藁ニ落セハ、之ヲ消シ能ハザルヲ豫知シ得タルニ不拘不注意ニヨリ之ヲ認識セズ、其儘同女等ノミヲ右土間ニ置キ、自宅ヲ立去リシニ因リ右ストーブ火ノ右麥藁上ニ落ち、之レヨリ發火スルニ至リ過ツテ自宅一棟ヲ燒

燬シタルモノナリ。

第三、失火事件

被疑者ハ西風アリシ昭和八年十一月七日、火ノ粉ノ飛ブヘキ、トド松枯木ヲ以テ自宅茶ノ間ノ、ストーブヲ焚キ居タルモノニシテ、同ストーブ煙突ヨリ出ヅル火ノ粉ガ、自宅東方ヲ距ル五間ノ、厩ノ草葺屋根上ニ飛散シ居タルニ不拘不注意ニヨリ、右飛散シ居タルニ心付カサリシヲ以テ、同飛散ノ爲メ右屋根ヨリ發火シ過ツテ、右厩一棟ヲ燒燬シタルモノナリ。

第四、失火事件

被疑者ハ居村字二區所在、其父所有澱粉乾燥場ニ於テ、ストーブヲ焚キ澱粉ヲ乾燥シ居タルモノナル處、昭和八年十一月廿九日、同ストーブヨリ炭火及灰ヲ出シ之ヲ其火焚口下ニ置キ、其上ヨリ少量ノ砂ヲ掛ケタルモ、同焚口ヨリ約一尺離レタル板壁ニ立テ掛ケ在リシ、二枚ノ筵ノ下部ガ殆ド右火氣ニ接

シ居タルニ不拘、不注意ヨリ其接シ居タルヲ認識セス、其儘同所ヲ立去リシニ因リ右火氣ヨリ右苙ノ發火スルニ至リ、過ツテ右乾燥場一棟ヲ燒燬シタリ

第五、失火事件

被疑者ハ昭和八年十一月七日其五男〇〇五才ノ監視ヲ爲シツ、自宅ニ居リシモノナル處、右五男ガ自宅西方三間余ヲ離ル鷄舎外側麥藁圍ニ接近セル箇所ニ於テ、燐寸ヲ用ヒ焚火ヲ爲シ居タルヲ、不注意ニヨリ之ヲ認識セサリシニヨリ右圍ヨリ發火シ過ツテ右鷄舎一棟ヲ燒燬シタルモノナリ。

第六、失火事件

被疑者ハ居村何原野所在、麥藁圍小屋ニ於テ、薄荷油ヲ製造シタル後、昭和八年十一月八日右小屋ニ北風ノ吹キ入ルヲ知リ乍ラ、右小屋蒸溜竈ヨリ出デシ、火氣アル薪灰ヲ右小屋内ニ置キ、僅ニ之ニ砂及水ヲ掛ケ其全ク消火セサリシニ不拘消火セシモノト誤認シ、其儘同小屋ヲ立去リシ不法意ノ爲メ、同

小屋入口ヨリ吹入リシ、北風ガ右殘火ヲ右麥藁圍ニ吹付ケ、過ツテ同圍ヨリ發火シ右小屋一棟ヲ燒燬シタルモノナリ。

第七、失火事件

被疑者ハ自轉車修繕業ニシテ、昭和八年五月三日午後三時頃其店舖ノ、ストロブニ火ヲ焚キ、之ヲ後ニシ右ストロブヨリ一尺七八寸離レシ自己ノ右手許ニ石油一升八合ヲ入レタル、洗面器ヲ置キ、右ストロブ火力ニ因リ右石油ノ熱セラレ將ニ發火セントスルニ至リシモ、不注意ノ爲メ其發火セントシ居タルニ心付カズ、自轉車修繕ヲ爲シ居タルヲ以テ、右石油發火シ其附近ノチウブ木箱等ニ燃エ移リ、過ツテ自宅一棟ヲ燒燬シ、尙隣家二棟ニモ燃エ移ラシメタルモノナリ。

第八、住居侵入窃盜事件（起訴意見）

被疑者ハ犯意ヲ繼續シ。

一、昭和八年一月廿八日〇〇市富〇町甲方裏口ヨリ忍入り、茶ノ間押入ニ在
リシ、洋服、丹禪各一着金三拾圓價格ノモノヲ窃取シ、

二、同年八月二十五日、同町〇〇方倉庫ニ忍入り、自轉車及リヤカー各一輛
金二十三圓價格ノモノヲ窃取シ、

三、同年十月十五日〇〇郡〇〇町〇〇旅館裏口ヨリ、窃盜ノ目的ヲ以テ忍入
リ、更ニ同町〇〇方裏口ヨリ、同様目的ヲ以テ忍入りシモノナリ。

トノ犯罪ハ被疑者ノ自白、及右被害者ノ陳述ニヨリ認メラレ、被疑者ハ窃盜、
住居侵入横領、殺人未遂罪等前科五犯アリ、昨年十二月、刑ノ執行ヲ終リ出所
シタルモ、未ダ二ヶ月モ経ザル内自己ノ着用衣類ニ窮スルヤ、忽チ右洋服等ヲ
窃取シ、被害者ニ發覺シテ、同品ヲ返還シ、内濟トナリ居タルモ更ニ、自己ノ
使用ノ爲メ、右自轉車等ヲ窃取シ、居町警察署ノ取調ヲ受クルヤ、全ク自暴自
棄トナリ、忽チ同町ヲ出奔シ〇〇ニ至リ、窃盜ノ目的ヲ以テ、諸所ヲ徘徊シ居

タルモノニシテ、毫モ更生ノ念慮ナク、甚危険性ノモノナレバ、實害少キモ嚴
重處罰スヘキモノト思料ス。

第九、公文書變造行使詐欺（起訴猶豫、少年犯）

被疑者ガ〇〇市郵便局ニ郵便貯金ヲ爲シ、〇〇爲替貯金支局、いろ第四七號貯
金通帳ノ交付ヲ受ケタルモ、數回其拂戻ヲ受ケタルヲ以テ、差引殘高金貳拾九
錢トナリ、同通帳第三枚目ニ右差引殘高ノ記載アリシ處ヨリ、昭和八年二月二
十六日同市〇〇町伯父小山三吉方ニ於テ、右差引殘高記載アル、第三枚目ヲ一
枚破棄シ、第一枚及ビ第二枚ノ〇〇郵便局長證印受入金高記載アル部分ヲ其儘
トシ、依テ右受入高欄記載金額合計拾五圓四拾六錢ノ貯金ハ尙現在セル如ク右
通帳ノ變造ヲ遂ゲ、同月二十八日同通帳ノ真正ニ成立セルモノ、如ク裝ヒ之ヲ
〇〇郵便局ニ提出行使シ、同局員ヨリ貯金拂戻名義ノ下ニ金拾圓ヲ騙取シ、翌
月三日右拾圓ノ拂戻ヲ受ケタル旨記載アル、右通帳第四枚目一枚ヲ破棄シ、前

同様拾五圓四拾六錢ノ貯金現在セル如ク裝ヒ、同日同通帳ヲ郵便局ニ提出行使シ金五圓ヲ騙取シタルモノナリ、ト云フニアリ。

右犯罪ハ被疑者ノ自白ニヨリ、認めラル、モ、同人ハ十七才ノ少年ニシテ、小遣錢ニ窮シ、其手裡ニ右通帳存セシ爲メ、偶右犯行ニ及ビシモノニシテ、窃盜起訴猶豫一回アリ、素行善良ナラザルモ、監督宜シキヲ得バ、矯正シ得ベキ見込ナキニアラズ、右父〇〇ニ於テ、右被害金ヲ辨償シ、將來十分被疑者ヲ監督スベシト譬ヒ居ルヲ以テ、右監督ニ附シ、起訴猶豫トスベキヲ相當ト思料ス。

第十、文書偽造行使詐欺事件

被疑者ハ、昭和八年二月二十五日自宅ニ於テ、同村山本二郎ノ氏名ヲ冒書シ同人ヲ借用人、自己ヲ保證人トシ、隣村川田三太郎ヲ貸主トセル、金貳百圓ノ借用證書一通ヲ作成偽造シ、右山本名下ニ有合印ヲ押捺シテ、右偽造文書ヲ完成シ、翌日同文書ヲ、隣村川田三太郎方ニ持參シ、同人ニ對シ真正ニ

成立シタル文書ノ如ク裝ヒ、交付行使シ、同人ヲシテ、金二百圓ヲ自己ニ交付セシメテ之ヲ借用名下ニ騙取シタルモノナリ。

第十一、有價證券變造行使詐欺

被疑者ハ昭和八年二月十六日、自宅ニ於テインキ消藥用液及ゴム印等ヲ使用シ、〇〇郵便局振出小爲替證書三通共各額面金貳拾錢ト記載アリシヲ、各貳圓ニ改竄變造シ、翌日之ヲ〇〇町郵便局ニ對シ、夫々真正ノ記載ナル如ク裝ヒ提出行使シ、同局員ヲ欺罔シ、計金六圓ヲ受取り騙取シタルモノナリ。

第十二、賭博遺棄（起訴猶豫意見）

一、被疑者ハ昭和八年二月二十一日午後二時頃〇郡〇〇町高野三郎方二階ニ於テ、同人外二名ト花札ヲ使用シ、八八ト稱スル金錢賭ケノ賭博ヲ爲シ、二、同年三月二十七日〇〇郡、〇〇町木賃宿龜屋方西方五町ヲ距ル、路上ニ其長男太郎當四歳ヲ遺棄シタルモノナリ。

トノ犯罪ハ、被疑者ノ自白ニヨリ認メラル、モ、第一ノ事實ニ付テハ無聊ノ餘、誘ハル、儘、之ニ加ハリシモノニシテ、再犯ノ虞ナク、第二ノ事實ニ付テハ、右木賃宿ニテ求職ニ關シ、夫ト爭論シ、同人ノ憤ツテ其儘、同宿ヲ立去リシ爲メ糊口ニ窮セントシ夫ヲ追跡セントスルモ、妊娠八月ニシテ、右幼兒ヲ抱エ、意ノ如クナラズ、窮餘本犯行ニ及ビシ偶發ノ所爲ニシテ、酌量スベキモノアルヲ以テ、二罪共起訴猶豫ヲ相當ト思料ス。

第十三、殺人事件（犯罪ノ嫌疑ナシトノ意見）

被疑者ハ昭和八年七月五日夜、〇〇郡〇〇町河田勇太郎方裏空地ニ於テ同町山上三次郎ヲ絞殺シタリ。

ト云フモ現場ニハ、何等暴行狼籍ノ形跡ナク、醫師數中良正ノ鑑定ノ結果山上ノ頸部ヲ絞窄シ窒息死ニ至リシ事實ハ明瞭ナレドモ、同人ハ平素妻ノ低能ナルヲ憂慮懊惱シ、最近長女ヲ喪ヒ、悲觀ノ極ニ在リシモノニシテ、何等他殺

ト断定スヘキ證據ナク自ラ頸部ヲ手拭ニテ絞窄シ自殺ヲ遂ゲシモノノ如シ。

第十四、業務上過失致死事件

被疑者ハ何郡何町何鑛山ニ雜夫トシテ被雇、松波四郎ト共ニバケツヲワイヤトノ一端ニ結付ケ之ニ同坑底ヨリ湧出ノ水ヲ汲取り卷揚機ニ依ル引上作業ニ從事セシモノニシテ、同バケツ椽ニハ金輪ノ備付アリ、其汲上ゲタル水ハ右金輪ヲ外シバケツヲ傾ケテ投棄シ、又、水ヲ汲上ゲントスル場合ニハ、同バケツノ傾斜防止ノ爲メ、右金輪ヲ掛ケ之ヲ坑内ニ下シ居タルモノナル處、昭和何年何月何日午後二時三十分頃、坑内ノ燈火薄暗クナリシヲ以テ、之ヲ檢セントシ、松波ヲ同バケツニ入レ、坑内ニ下サントセル際、不注意ニ因リ、右バケツニ金輪ノ掛リ居ザルヲ認識セズ其儘、同バケツヲ坑内ニ下セシ爲メ、忽チバケツ傾斜シ松波ノ坑底ニ墜落シ過ツテ其頸部等ヲ同坑底框等ニ強打セシメ、三拾分後同人ヲ死亡スルニ至ラシメタルモノナリ。

第十五、過失致死事件

被疑者ハ小兒等ノ遊ブ自宅台所ニ熱湯ヲ入レタル鍋ヲ置カバ、小兒等ノ遊戲中、右熱湯ニ觸レ火傷スルコトアルベキヲ豫見シ得タルニ不拘、昭和八年十一月十八日、其二男時彦四才等ノ遊ビ居タル自宅台所ニ、熱湯五六升入レタル鍋ヲ置キタル儘、不注意ニ因リ右危険ヲ豫見セズ同所ヲ立去リシヲ以テ右二男ガ右鍋中ニ轉倒シ、其右上肢、肩背部、臀部等ニ第二度ノ火傷ヲ負ハシメ、翌日右火傷ニ因ル心臟衰弱ノ爲メ過ツテ、同人ヲ死亡スルニ至ラシメタルモノナリ。

(146)

第十六、過失致死事件

被疑者ハ自宅ニストーブヲ焚キテ長男太郎四才一人ノミヲ殘シ置カバ、同人が該火ノ取扱ヲ爲シテ火傷其他ノ危険ヲ生ゼシムルヲ豫見シ得タルニ不拘、本年十一月九日自宅茶ノ間ニ、ストーブヲ焚キ、同室ニ長男一人ノミヲ殘シ

不注意ニヨリ右危険ヲ豫見セズ其儘同所ヲ立去リシヲ以テ右長男ガ、右ストーブ内ニ燃エ居リシ薪ヲ弄シ、同火ノ其衣類ニ燃エ移リ、同人下腹部等ニ火傷ヲ負ハシメ、過ツテ翌日同人ヲ死亡スルニ至ラシメタルモノナリ。

第十七、傷害事件

被疑者ハ昭和何年何月何日、何郡何町何礦山坑口前ニ於テ、坑夫鳴海吉太郎ニ對シ、「其所持セル鑿鑿用タガネハ自己ノタガネト間違ヒ居ルニアラズヤ」ト問ヒタル處、全人ヨリ「馬鹿野郎間違ヒ居ラズ」ト罵倒セラレタルニ憤慨シ、所持ノタガネヲ以テ、全人ノ後頭部等ヲ歐打シ同部ニ治療一ヶ月ヲ要スル創傷等ヲ加ヘタルモノナリ。」

(147)

第十八、傷害事件

被疑者ハ昭和何年何月何日、何郡何村青年會館ニ於ケル凱旋兵歡迎會ニ於テ其左側ニ座セル村上太一ナル者、其机上ニ在リシ清酒四合入土瓶ヲ落シタル

事ヨリ、同人ト口論ノ上、一升瓶ヲ以テ、同人ヲ歐打シテ、同瓶ヲ損壞シ、其破片ヲ附近ニ飛バシメ、其左側ニ座セシ春田稻吉ノ左手背部、其他ニ治療二十日以上、及ヒ近田一二三ノ顔面ニ全治拾日ヲ要スル裂傷等ヲ加ヘタルモノナリ。

第十九、業務上過失傷害事件（罪トナラストノ意見）

被疑者ハ自動車運轉手ニシテ、昭和八年十一月二十二日乗客ヲ載セタル自動車ヲ運轉シ、居町何區道路ヲ進行中、其前方左側道路ヨリ荷馬車ノ進行シ來ルヲ認メ乍ラ、不注意ニヨリ除行セサリシ爲メ、右荷馬車ニ約九尺接近シタル頃、突然同荷馬車ノ後方ヨリ中野一郎ナル者右側ニ走出デタル爲メ急停車スルヲ得スシテ自動車前車体ヲ右中野ノ右頭部ニ衝キ當ラシメ、過ツテ同人ノ右頭部ニ全治三十日ヲ要スル割傷ヲ加ヘタルモノナリ、ト云フモ、中野ハ右荷馬車ノ蔭トナリ來リシモノナレバ何人モ普通之ヲ認メ

得サリシノミナラズ、被疑者ハ荷馬車ヲ認ムル毎ニ徐行セザルモ、相當注意シ進行セバ可ナリシモノナレバ、當時相當注意セシモ、中野ガ突然走り出デシ爲メ、急停車ヲ爲ス能ハズ右負傷ヲ爲サシメタルモノニシテ何等罪ト認ムヘキ所爲ナシ。

第二十、業務上過失傷害事件

被疑者ハ自動車運轉手ナル處、不注意ニ因リ其運轉セル自動車ノハンドル、タイロツト、ポートノ折レ居タルヲ認知セズ、同車ヲ運轉シ居タルヲ以テ昭和八年十一月四日、何郡何町何道路ニ至リシ處前方ヨリ來ル荷馬車ヲ避ケン爲メ、同道路左側ニ寄り、直ニ右轉進行セントシタルモ、前示ハンドル故障ノ爲メ、右轉進行シ得スシテ、其儘僅ニ左方ニ進行セルト同時ニ同車ノ左車輪ガ排水溝ニ墜落シ其反動ニ因リ乗客城田一郎ノ左肩部ヲ同車窓椽ニ衝當ラシメ、過ツテ同人ノ左肩部ニ全治十日ヲ要スル裂傷ヲ加ヘタルモノナリ。

第二十一、業務上過失傷害事件

被疑者ハ何郡何町ヨリ何町迄、馬糞ヲ使用シ、砂利運搬ノ業務ニ從事中、昭和何年何月何日、午前十時頃、馬糞ノ後方ニ乗り後向トナリ、前方ヲ注視セズシテ何町道路ニ至リシ際不注意ノ爲メ前方路上ニ坂上十郎（當八才）ノ遊ビ居タルニ心付カサリシヲ以テ、右十郎ヲ同馬糞ノ下敷ト爲シ、過ツテ同人ノ右脛骨上部等ニ治療七週間ヲ要スル挫傷ヲ加ヘタルモノナリ。

第二十二、業務上過失傷害事件

被疑者ハ何郡何村何ノ某方ニ雇ハレ、牛乳ヲ荷馬車ニ積ミ之ヲ同郡同町何會社ニ運搬スルヲ業務ト爲シ居タルモノニシテ、昭和八年十月九日、前方注視困難トナルヲ知り乍ラ、右荷馬車ヲ曳ケル馬匹ノ後方タル、同荷馬車ノ前方ニ乗リ〇村ヲ進行中不注意ニ因リ前方道路ノ左側ニ山本三郎四才ノ遊ビ居タルヲ認知セサリシヲ以テ、同車左前車輪ヲ同人ニ觸レシメ過ツテ同人ノ左脛部ニ

治療三週間ヲ要スル打撲傷ヲ加ヘタルモノナリ。

第二十三、營利誘拐事件（犯罪ノ嫌疑ナシノ意見）

被疑者兩名ハ共謀シ、昭和七年九月十一日、〇市〇町山本源藏方ニ於テ、同町川口末吉長女アキ當二十二才ニ對シ、〇〇市ニテ酌婦奉公ヲ爲セバ非常ニ金錢ヲ得ヘキ旨申欺キ、同女ヲ誤信セシメテ、〇〇市ニ誘致シタル上、同月二十三日同女ヲ〇〇市〇町、料理店梅野樓事林ウメ方ニ前借金百圓ニテ酌婦トシテ、住込マシメ、該金ヲ分配利得シタルモノナリ。

ト云フニ任レドモ被疑者甲ハ川口アキト情交關係アリ同女ハ其繼母ト不和ノ爲メ家出ヲ欲シ居タルモノニシテ、同女ハ「被疑者兩名ヨリ酌婦奉公ノ事ヲ勸誘セラレ、之ヲ承諾シタルモ、後之ヲ齟シ不本意ナガラ被疑者兩名ニ伴ハレ〇〇市ニ赴キ、梅野樓ノ酌婦トナリシ旨」陳述シ、被疑者兩名ハ「右女ノ希望ニ從ヒ、同女ヲ〇〇市ニ誘致シ、梅野樓ニ酌婦トシテ住込マセタルモノ

ニシテ、其間欺罔手段ヲ弄セサリシ旨、陳述シ居ルノミナラズ、「右前借金ハ大部分旅費宿料等ノ立替金ノ辨濟トシテ受領シタル旨」疏辯シ居リ、當時右アキノ眞意ハ那邊ニ在リシヤ捕捉シ難ク、他ニ前示被疑者等ノ辯解ヲ排斥シ得ヘキ證據ナキヲ以テ、不起訴處分ヲ相當ト思料ス。

第二十四、窃盜事件（起訴意見）

被疑者ハ昭和七年十一月二十日午後九時頃〇〇郡〇町常設活動寫眞館ニ於テ何郡何町何某ノ洋服右ポケット中ニ在リシ金拾參圓貳拾四錢在中ノ墓口一個ヲ窃取シタルノミナラス、同月中三回同寫眞館ニ於テ、〇町〇〇外二名ノ墓口等及現金二十二圓六十錢ヲ窃取シタルモノナリ。

ト云フニアリ。被疑者ハ右犯罪ヲ否認セルモ、被害者〇〇始末書及〇〇ノ陳述及ビ押収ニ係ル現金墓口ニヨリ犯罪ノ證明十分ニシテ、被疑者ハ一定ノ住所ナク、特ニ酌量スヘキ事由ヲ發見セス、殊ニ掏摸ノ前科アリ、其手口巧妙

第二十五、窃盜事件（起訴猶豫意見）

ニシテ、改悛ノ情ヲ認メ難キモノナルヲ以テ、相當科刑ノ必要アリト思料ス
被疑者ハ犯意ヲ繼續シ、昭和四年一月中ヨリ昭和八年一月中ニ至ル間、數拾回ニ亘リ何郡何村〇〇ニ在リシ〇〇合計金三百圓價格ノモノヲ窃取シ之ヲ〇〇商〇〇〇等ニ賣却シ居タルモノナリ。

トノ犯罪ハ被疑者ノ自白ニヨリ認メラレ、被害少額ニアラス、長年月ニ亘ル繼續的犯行ナレハ其情狀輕カラザル如キモ、被疑者ハ健康ヲ害シ、勞働意ノ如クナラズ、妻モ産後ノ肥立惡シク、糊口ニ窮シセシ結果ノ犯罪ニシテ酌量スヘキ点アリ、若シ實刑ヲ科センカ、直ニ一家路頭ニ迷フニ至ルベク、被疑者ハ前科ナク、改悛ノ情亦顯著ナルモノアルヲ以テ、起訴ヲ猶豫スルヲ相當トス。

第二十六、詐欺事件（借用、飲食、買受名下ノモノ）

被疑者ハ

一、返済ノ意思ナキニ不拘、昭和八年十月二日局村甲方ニ於テ、同人ニ對シ、近日中ニ返済スベシト申欺キ、同人ヨリ五拾圓ヲ借用名下ニ受取り騙取シ

二、料金ヲ支拂フ意思ナキニ不拘、同年十月五日同村料理店乙方ニ於テ、料金ヲ支拂フ如ク裝ヒ、金拾參圓七拾錢相當ノ飲食遊興ヲ爲シ右料金ヲ支拂ハス財産上不法ノ利益ヲ得

三、代金ヲ支拂フ意思ナキニ不拘、同月六日同村呉服店丙方ニ於テ近日代金ヲ支拂フヘシト申欺キ銘仙一反金八圓價格ノモノヲ買受名下ニ受取り騙取シタルモノナリ。

第二十七、詐欺事件（不法利得及ビ騙取）

被疑者ハ昭和五年何月、何郡何村何ノ某ヨリ金百圓ヲ借受ケ其返済遲滯シ居

タルモノナル處、尙代金ヲ支拂フ意思ナキニ不拘、昭和八年十月十三日、右何ノ某方ニ至リ同人ニ對シ、近日中ニ薄荷油ヲ他ニ賣却シテ代金ヲ支拂フベシト申欺キ、薄荷油製造用薪十數金四十圓價格ノモノヲ自己ニ賣渡シ吳レ度シト申入レタル處、同人ヨリ前示金百圓ノ元利金ノ返済請求ヲ受ケタルヲ以テ、其返済ノ意思ナキニ不拘、同人ニ對シ前示ノ如ク近日薄荷油ヲ賣却シテ右元利金ヲ返済スヘシト申欺キ右借入金返済延期ヲ承諾セシメ財産上不法ノ利益ヲ得タルノミナラズ、同人ヲシテ同時ニ右薪ヲ自己ニ交付セシメテ、之ヲ買受名下ニ受取り騙取シタルモノナリ。

第二十八、詐欺事件（請負金、犯罪ノ嫌疑ナシトノ意見）

被疑者ハ建築ヲ竣工セシムル意思ナキニ不拘

一、昭和七年十二月中〇〇町甲ニ對シ住宅一棟ヲ金五百九拾圓ヲ以テ、建築スベシト申欺キ、同人ヲシテ、自己ト右建築契約ヲ爲サシメ、其後右建

築ニ從事シ、昭和八年六月迄ニ、同人ヨリ右工事金ヲ受取り騙取シタル
モ、右建築ヲ六分通竣工セシメタルノミニテ、残工事ヲ爲サズ

二、昭和八年二月居町乙ニ對シ、住宅七棟ヲ金貳千五百圓ヲ以テ建築スベシ
ト申欺キ同人ヲシテ、自己ト建築契約ヲ爲サシメ、其後右建築ニ從事シ
同年六月迄ニ同人ヨリ前示工事金ヲ受取り騙取シタルモ、同年七月中迄
ニ右工事ヲ七分通り竣工セシメタルノミニテ、残工事ヲ爲サザリシモノ
ナリ。

ト云フニアリ被疑者ガ、前者ノ工事ヲ六分通り竣工セシメタルノミニテ
右契約金全部ヲ受取り、後者ノ工事七分通り竣工セシメタルノミニテ右
契約金全部ヲ受取りシ事實ハ右當事者ノ争ハザル所ナレドモ、被疑者ハ
「物價及ビ工賃騰貴セシ爲メ、前者ニ貳百圓ノ割増ヲ求メ、後者ニ五百
圓ノ割増ヲ求メ、何レモ之ガ承諾ヲ得、本年六月迄ニ甲ノ工事六分通り

ヲ仕上ゲタル頃、乙ヨリ至急工事ヲ完成セシメラレ度シトノ請求ヲ受ケ
タルニヨリ、之ヲ甲ニ告ゲ自己ガ他ノ丙ナル大工ヲ甲ニ差向クル事トシ
、乙ノ工事ノミニ専心從事シ居タル處、乙ガ翌月自己ノ使用セル大工等
ニ對シ、本工事金ハ大体支拂濟ナリシト告ゲシ爲メ、大工等ハ其後ノ工賃
ヲ受取り得ベキヤ否ヤ疑念ヲ生ジ之ヲ乙ニ申入レ、其結果大工等ノ乞ニ
ヨリ乙ガ直接大工等ヲ指揮シ残工事ヲ竣工セシメ、自己モ乙ニ使用セラ
レ竣工セシメシモ、右五百圓ノ割増金ノ支拂ヲ受ケザリシモノナリ、甲
ノ残工事ハ本年九月迄ニ丙ヲシテ竣工セシメタル爲メ、自己ハ右割増金
ノ支拂ヲ受ケザリシト陳述シ、甲ハ「右割増金ノ申入アリシモ自己ハ之
ヲ承諾シタルニアラズ被疑者ガ工事ノ遅ル、旨申シ居タルヲ以テ、丙ヲ
シテ残工事ヲ竣工セシメタリ」ト陳述シ、乙モ被疑者ヨリ割増ノ申入ア
リシモ自己ハ之ニ承諾ノ確答シタルニアラズ、被疑者ハ工事ヲ契約期間

ニ竣工セシメ難ク認められ且ツ契約ノ工事金ハ支拂濟ナリシ爲メ之ヲ大工等ニ告ゲタルニ、大工等ヨリ今後ハ直接貴下ノ指揮ニヨリ残工事ヲ完成セシムル様爲サレ度シトノ申込ナリシ爲メ自己ガ大工等ヲ指揮シ残工事ヲ完成セシメタリト陳述シ以上被疑者ノ辯解ハ排斥シ難ク、他ニ犯罪ノ證據ナシ。

第二十九、恐喝事件（犯罪ノ嫌疑ナシトノ意見）

被疑者加藤文吉ハ同人方表入口南側軒下ヲ高山與吉ニ貸付ケ、同人ヲシテ果物商ヲ爲サシメ來リシモノナル處、同人ガ右營業ヲ金百六拾圓ヲ以テ、小川定吉ニ讓渡セシニ乗ジ、被疑者小西八太郎ト共謀シ、高山及小川ヲ恐喝シ金員ヲ交付セシメンコトヲ圖リ、昭和八年六月五日被疑者小西ハ高山ニ對シ右讓渡代價ハ法外ノ高價ナレバ、今後告發セバ其許ハ詐欺罪トシテ處罰セララルベシト申向ケ、同人ヲ恐怖セシメタル上、若シ金參拾圓ヲ差出セバ都合良ク

取計フベキ旨附加シ、同人ヲシテ、金參拾圓ヲ交付セシメ、尙同日小川ニ對シ、金參拾圓ヲ提供セザレバ、右軒下ヲ貸與セズ、明渡ノ爲メ、執達吏ヲ差向クルコトアルベキ旨ヲ申入レ同人ヲ困惑セシメ、現金參拾圓ヲ交付セシメ、各其目的ヲ遂ゲタルモノナリ。

ト云フニアリ、被疑者兩名ハ高山小川ガ右軒下賃借ノ熱望ニ乗ジ、幾分不當利得ヲ爲シタル形跡アルモ、被疑者加藤ハ右軒下賃借ノ件ハ一切小西ニ委シ置キシ旨、辯解シ被疑者小西ハ右委任ニ基キ、右軒下借用權讓渡ノ承認、及小川ヲシテ引續キ之ヲ賃借セシムル承認ノ對價トシテ、該金員ノ交付ヲ受ケタル旨辯解シ、尙高山等ニ對シテハ、不穩ノ言動ニ及ビシコトナシト否認シ高山及小川等ノ陳述モ殆ンド小西ノ陳述ト同趣旨ニ歸シ、恐喝ノ犯意アリト認めムベキ嫌疑十分ナラズ。

第三十、業務上横領事件

被疑者ハ何郡何町雜貨店甲野太郎方ニ店員トシテ雇ハレ雜貨賣掛代金取立ノ業務ニ從事中昭和八年三月十二日甲野ノ賣掛代金參拾一圓五拾錢ヲ同村乙山次郎ヨリ取立テ乍ラ、當時右金ヲ擅ニ同村料理店〇〇方等ニ於テ飲食遊興費ニ費消横領シ、更ニ犯意ヲ繼續シ翌月ニ至ル間、八回ニ亘リ、同村〇〇〇〇外七名ヨリ、前同様賣掛代金百二十三圓九拾錢ヲ取立テ前同様費消横領シタルモノナリ。

第三十一、牛馬商取締規則違反事件

被疑者ハ牛馬商ノ免許ヲ受ケズ營利ノ意思ヲ以テ昭和七年十月ヨリ、昭和八年三月ニ至ル間、何郡何町ニ於テ平田萬吉ノ馬匹ヲ安水一郎ニ賣却ノ周旋ヲ爲シ、又ハ南三郎ヨリ馬匹ヲ買受ケ之ヲ長谷次吉所有馬匹ト交換シ、其交換ニヨリ得タル馬匹ヲ佐藤五三ニ賣却シ尙、川谷春信、酒田長吉、所有馬匹ヲ牛馬商中村宗次ニ賣却ノ周旋等ヲ爲シ以テ牛馬商營業ヲ爲シタルモノナリ。

第三十二、聽取書

本書汎論ニ、聽取書ノ作成方ヲ一言シタルモ、更ニ述ベン。

凡ソ社會現象ハ或原因ヨリ或結果ヲ發生セシメ其結果ガ原因トナリ、更ニ、結果ヲ發生セシメ、底止スル所ナク、幾多ノ原因結果ノ連續セルヲ知ルベシ社會現象ノ一タル犯罪亦然リ。

依テ、因果關係ニヨリ、連續セル幾多ノ事實ヲ、被疑者等ヲシテ、陳述セシメテ、之ヲ聽取書ニ記載スル方法ヲ述ブレバ、其事實ヲ行ハレシ順ニ從ヒ、秩序的ニ表ハシ、其幾多ノ事實ハ悉ク意思作用ニ因リ且ツ其連續セルヲ明ニシ、以テ全部ノ事實ガ系統的ニ表示セラル、ヲ要ス、而シテ各事實ノ陳述ハ抽象的ナルヲ避ケ、具体的ナラシムルヲ要ス。(此ニ事實ト云ヒシモ意思作用モ事實ノ謂ナリ。)

若シ、日記載中ニ現ハレタル事實ニシテ、其時後明ナラス、從テ連絡ヲ疑ハ

シメ、或ハ意思作用ノ表示ヲ欠キ、若シクハ、陳述スル事項ノ抽象的ナルガ如キハ、甚不可ナリトス。即チ、若シ斯ル記載ナリトセバ、何が故ニ此ノ結果トナリシヤ、又、其結果ハ、次ノ事實ニ如何ニ影響シ、如何ナル意思ニテ如斯事ヲ爲セシヤ等明トナラズ、延イテハ全般ノ意味不明トナリ、事件ノ真相ヲ窺ヒ難キニ至レバナリ。

前記ノ具体的トハ、例ヘバ「或ル者ヨリ強キ請求ヲ受ケタリト」記載セバ、抽象的ナレドモ、其請求ヲ受ケタル時ノ言動ヲ其儘悉ク記載セバ具体的ナリ、又、「悪口ヲ言ハレタリ」ト記載セバ、抽象的ナレドモ、其言ハレタル惡口ノ内容ヲ記載セバ具体的ナリ、

次ニ、幾多ノ事實ヲ記載スルモ、悉ク何時、何處ニテ、爲シタルヤヲ明示セザルベカラズ。時ノ記載ヲ遺脱スルコトハ少キモ、場所ヲ記載セザルコト應々アリ即チ「某」ト契約シタリトノ記載アレドモ、其契約シタル場所ノ記載ナ

キコトアルガ如シ。

尙、聴取書ハ、主ニ他人ニ讀マシムル爲メ作成スベキモノナルニヨリ、鮮明ノ文字ヲ使用セザルベカラズ。

問答式ノ聴取書記載ハ避クベシ、其陳述ヲ記載スル前ニ、十分ノ取調ヲ爲シ、秩序連續的ノ陳述ナラシメ、然ル後ニ記載セバ、問答式トナラザルベシ。

然レドモ尙問ヲ發スル必要アラハ、問ヲ發シ答ヲ記載スルハ、可ナルモノ是レ補足的ノモノナリ。

聴取書ニ、被疑者ノ本籍、前科、經歷、財産、家族等ノ陳述ヲ記載シ、關係人ヲシテ其被疑者ト親族等ノ關係アリヤ等ヲ陳述セシメ、記載スヘキコトハ、説明ノ要ナルベシ。

訊問調書モ、聴取書作成ノ趣意ニ同シ。

其他、本書ニ捜査ノ方法トシテ述ベタル各事項ヲ明ニシ、之ヲ聴取書ニ記載

スヘキコトハ、言フヲ俟タズ。

第三十三、檢證調書（殺人事件）

氏名不詳殺人被疑事件ニ付キ昭和八年七月三日〇〇市〇〇町〇〇ニ於テ、司法警察官警部〇〇〇〇ハ司法警察吏巡查〇〇〇〇及ビ〇〇〇〇〇〇〇〇立會ノ上、〇〇市〇〇町〇〇番地何職〇〇〇〇ノ死体ノ檢視ニ引續キ、犯罪アルコトヲ發見シタルニ因リ、之ヲ〇〇地方裁判所檢事〇〇〇〇ニ報告シ、同檢事ノ指揮ヲ受ケ、檢證ヲ爲スコト、左ノ如シ。

一、犯罪現場ハ〇〇市〇〇町〇〇〇〇ニシテ、〇〇ニ至ル巾何間ノ道路ノ東側ニ沿ヒ、〇〇ノ南西約何丁ニ位シ、明細ハ別紙見取圖ノ通りナルモ、何坪ノ空地ニシテ其地上面ハ右道路面ト同一高サナリ、北側ハ〇〇〇〇ニ接シ、東側ハ〇〇〇〇ニ接シ、南側ハ目下新築中ノ〇〇〇〇ノ住宅ニシテ、西側ハ右道路ヲ隔テテ、〇〇株式會社〇〇工場ノ高サ七尺ノ板塀ナリ。

二、右死体ハ、右空地ノ中央ニ頭部ヲ東ニシ、足部ヲ西ニシ、仰向ニ倒レ居リ、肥滿セル僂強ノ体格ニシテ、身長五尺三寸、頭髮ハ二三日前ニ理髮セシ如ク、五分刈トナリ居リ、全身〇〇色ヲ呈シ、兩眼ヲ閉ヂ、口ヲ結ビ、（又ハ口ヲ少シク開キ）兩手ヲ身体ノ兩側ニ少シク斜ニシテ延バシ兩足モ亦少シク開キテ延バシ、上体ニ紺サージ洋服ヲ着用シ、兩足ニ霜降半ズボンヲ穿チ、尙、右洋服下ニ〇〇襯衣、腰ニ〇〇猿股ヲ纏ヒ、兩足ニハ〇〇製靴下ト黒ゴム靴ヲ穿チ、而シテ、一重ニ頸部ヲ卷キタル手拭ガ、頸部後方ニ於テ緩ク括ラレアリ、同頸部ノ皮膚面甲狀軟骨ノ稍下部ニハ、横走セル巾二、五糎ノ、淡紅灰色ノ絞痕アリ、尙、幾多ノ横走セル小皺襞アリ、然レドモ他ニ外傷ナク、且ツ古着衣ニ異狀及ビ附近ニ何等ノ遺留品ヲモ認メズ。

三、右空地ニハ常ニ人ノ立入り、又ハ小兒等ノ遊戯場トモナリ居タル所ナル

ヲ以テ、本件狼籍ノ形跡等ハ認メ難シ、

四、右死体ノ頸ニ卷キ在リシ右手拭ヲ解キ、檢スルニ右方ニハ「〇〇町」左方ニハ「〇〇湯」トノ文字染メ出サレアリ。

五、依テ右手拭ヲ證據物件トシテ押收シ、右死体ヲ〇〇警察署ニ運搬セシメ醫師山本柳平ニ示シ、同死体ヲ解剖シテ、其創傷ノ部位形狀、自他殺ノ別、兇器ノ種類、死亡ノ原因死後ノ經過、時間ノ鑑定ヲ爲スベシト命ジ右死體ノ實兄タル〇〇〇〇ニモ立會セシメ、右解剖ヲ行ハシメタリ。
右檢證ハ前同日午前八時ニ着手シ、同午後一時終了ス。

昭和八年七月三日

〇〇警察署

司法警察官

警部 何

某 印

立會人

司法警察吏 巡查 何

某 印

見 取 圖 省 略

第三十四、實況見分書（放火未遂事件）

昭和八年三月廿五日、被疑者何某ニ對スル放火未遂被疑事件ニ付キ、本職ハ左記犯罪現場ニ臨ミ、所有者何某ノ承諾ヲ得テ其立會ノ上實況ヲ見分スルコト、左ノ如シ、

一、犯罪現場ノ位置

現場ハ〇〇郡〇〇町字〇〇十三番地何職何某ノ住居シ、〇〇〇〇ノ所有セル家屋ニシテ、放火ノ行ハレタル箇所ハ同家北部ノ物置トセル六疊間ナリ、同室東側ハ廊下ニシテ同廊下ト同室トノ間ニ障子四枚ヲ立テアリ、之レヨリ出入シ得ルタ、同廊下ノ外側ニハ兩戸ヲ立ツベク、同室ニ至ルニハ、普通、茶ノ間方面ヨリ、右廊下ヲ傳ヘ來ルベク、同室ハ板敷ニシテ南方ハ土壁ヲ以テ、同家寢室ニ隣接スルモ、西方ハ四枚襖ヲ立テタ

ル押入ニシテ、北方ハ右板敷上ニ、高サ二尺長サ二間ノ土壁アリ、同壁
上ニ敷居ヲ設ケ、以テ縦四尺、横二間ノ窓ト爲シ同窓ニハ兩戸ヲ立ツベ
キ事トナリ居リ、右窓ノ上モ、縦二尺、横二間ノ土壁ニシテ、之レヨリ
杉板天井ニ至ル、同室内ニハ、右押入ノ前ニ古疊十二枚重ネ在リ、其上
ニ古新聞紙約二貫目及古雜誌六七冊散亂シ、右窓ノ下ニ空四斗樽二個、
ビール、サイダー空瓶十三個——在リ。右室内、右家屋及其ノ
附近ノ状態ノ明細ハ、別紙見取書記載ノ如シ。

右室内右疊下部板敷上ニ揮發油ノ浸潤シ且ツ同板敷上ニ少シク燃焦セ
ル痕跡アリ、同痕跡ノ上部ニ當レル、右疊椽ハ、巾何寸長サ一尺四五寸
モ燃焦シ黑色ニ變ジ居レリ。

立會人……ハ、本年何月何日午前二時四十分頃、右室ニ異様ノ音アリ
シヲ聞キ、驚キ同室ニ馳付ケタルニ、右疊ノ下ニ、古新聞紙約六枚ガ丸

メラレ、之ニ揮發油ガ撒布サレ在リテ、盛ンニ燃エ居リ、右疊ニモ燃エ
移リ居タルヲ認メタルヲ以テ、廊下ニ在リシ筵ニテ、叩キ消シ、漸ク消
シ止メタルガ、同所ニ燐寸箱一個及燐寸軸三本落チ在リ、犯人ハ〇〇ヨ
リ侵入〇〇ニ逃走セシト認ムル旨、陳述シタリ。

本見分ハ前同日午前十時二十分ニ始メ、同日午後何時何分終了ス

昭和八年三月二十五日

何々警察署

司法警察官 警部 氏 名 印

立會人 司法警察吏 巡查 氏 名 印

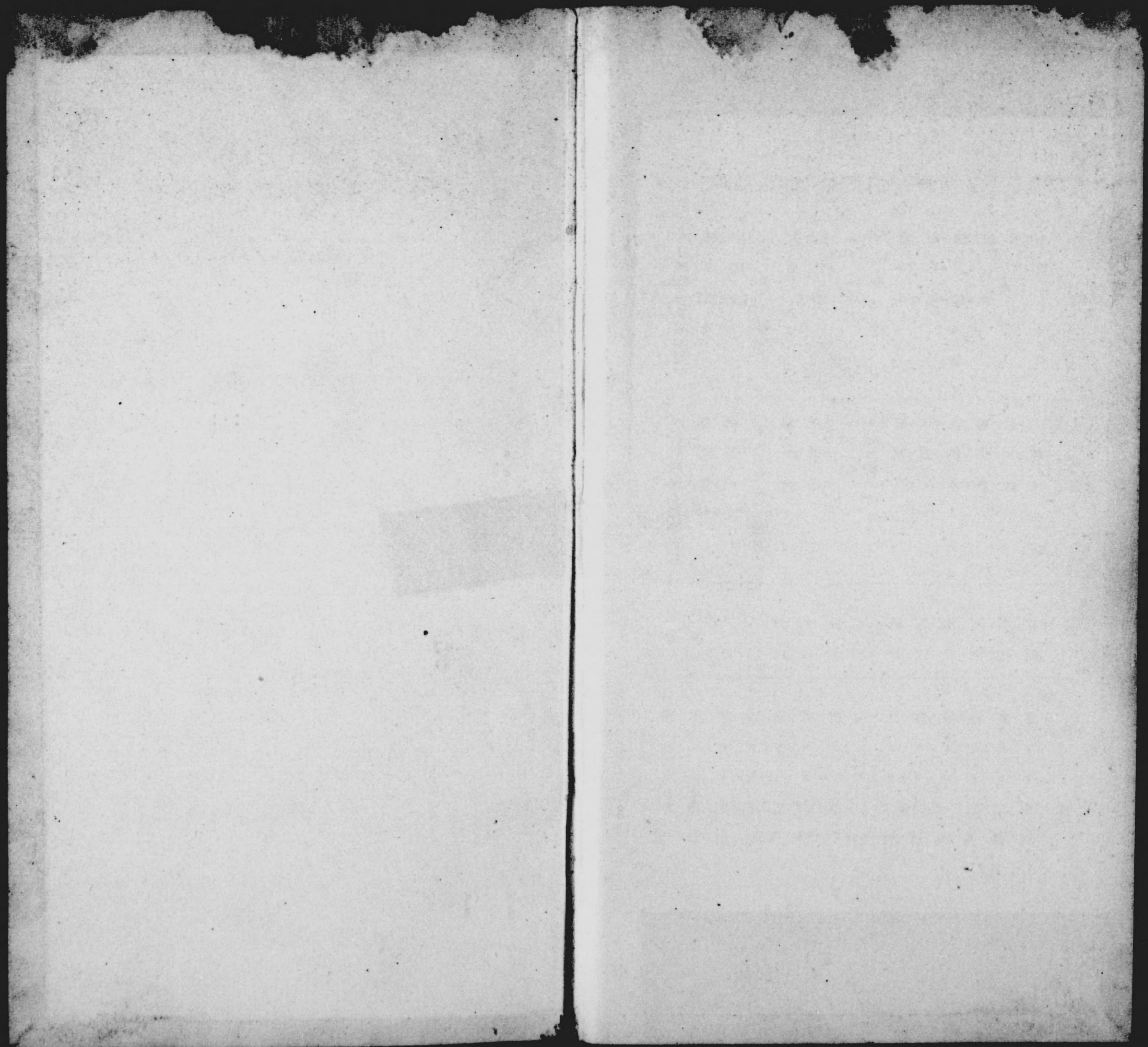
(犯人ノ侵入シタル形跡、犯人ノ足跡等アリシ場合ニハ、是等ヲモ右見分
書及圖面ニモ表示スベキモノナリ、尙、燐寸等ハ先ニ領置サレタルモノ
トシテ、本見分書ヲ作成シタリ)。

見取圖省略

昭和九年三月三十日發行

(非賣品)

發行所	印刷所	印者	著者	發行者
野付牛區裁判所 檢事局	北海 印刷所	北海道常呂郡野付牛町大通東七丁目 多村孝藏	北海道常呂郡野付牛町大通東七丁目 本諒亮	北海道常呂郡野付牛町高臺 橋常雄



7